CITROËN

C3 CITROËN AIRCROSS

取扱説明書

INSPIRED BY YOU

ごあいさつ

このたびはシトロエン C3 AIRCROSSをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、シトロエン C3 AIRCROSSの取り扱いについて記載してあります。
ご使用になる前に本書をよくお読みになり、ご理解を深めるようお願い申し上げます。
本書は車内に保管し、いつでも読み返すことができるようにしてください。
車に添え付けられているメンテナンスノート（整備手帳）は、携行が義務付けられています。この取扱説明書とともに常時携行していただくようお願い申し上げます。



おことわり

・この取扱説明書は、発売時点の車両仕様をもとに作成しております。
オートモビル・シトロエン社では絶えず製品の改良を行っており、予告なく仕様が変更されることがあります。お客様の車両と装備品、仕様等が本書に掲載されている写真、イラスト、仕様等と細部が異なる場合がありますが、あらかじめご了承ください。
・本書は、オプション装備を含む当モデルの全ての装備の説明を記載しております。各装備の有無については車両の仕様によって異なるため、お求めいただいた車両に装備されていない物が記載されていることがありますのであらかじめご了承ください。

重要安全情報

この取扱説明書には、車を安全に取り扱うために必要な情報が記載されています。
また、車を取り扱う上での危険性や注意点などについても説明されており、それに伴う事故を避けるためのアドバイスも含まれています。これらの警告や注意を守らない場合には、死亡を含む人的な傷害や車の破損などにつながる可能性があります。
危険に関する警告や注意は、車体各部に貼り付けた3種類の警告ラベルで表示されています。さらに、本書は注意に関する記載を、人身と物損に分けています。

⚠警 告

指示に従わなかった場合、乗員や第三者が死亡または重度の傷害を負うおそれがあることを示しています。

⚠注 意

指示に従わなかった場合、乗員や第三者が傷害を負うおそれがあることを示しています。

注 意

指示に従わなかった場合、車を破損させるおそれがあることを示しています。

MEMO

取り扱い上で、重要な点や注意点、アドバイスなどを示しています。

⚠ このマークが付いた指示に従わなかった場合、人身に関わる (死亡や傷害の) おそれがあることを示しています。

車をご使用いただく前に

●消耗品、アクセサリーについて

シトロエン C3 AIRCROSS に使用する消耗品やアクセサリー類は、シトロエンの純正部品をご使用ください。市販されている汎用の消耗品やアクセサリー類の中には、車の機器に適合しなかったり正常な作動を妨げる可能性がある製品が含まれていることがあります。シトロエン車本来の安全性や耐久性を損わないためにも、純正の部品やアクセサリー類のご使用をお勧めします。

●改造について

シトロエン C3 AIRCROSS の非合法な改造は、法に触れるだけでなく車の安全性や耐久性を著しく損なうおそれがあります。また、車の保証修理が受けられなくなることがありますので、むやみな改造を行わないでください。本書に記載のない整備や修理については、シトロエン指定サービス工場にご用命ください。

この車の電気配線には、多重通信システムの制御信号が流れています。シトロエン純正以外のナビゲーションシステムやラジオなどのアクセサリー類の取り付けのために車の配線に加工や接続をすると、エンジンやブレーキの制御に障害を与え、その結果、機器の故障や事故に至るおそれがあります。これらの取り付けにあたっては、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。

また、シトロエンが供給していないアクセサリー類の取り付けや、あるいはシトロエンの指示に従わない装着方法によって発生した、車または機器の不具合もしくは事故などに関わる損害の補償をいたしません。

●エコノミーモード

エンジンが停止してからも、オーディオ機器などへの電源供給を走行直後は最大40分間行います。電源が切れると、メッセージが表示されます。

引き続きアクセサリーを使用したいときは、エンジンを始動して5分以上回してください。

環境・リサイクルへの取り組み

●自動車リサイクル法

自動車リサイクル法は、使用済自動車（廃車）を適正に処理して、資源の再利用を促進することでゴミを減らすことを目的に作られた法律です。
具体的には、廃車することで発生する再利用できないシュレッダーダストの削減、環境に有害な物質（フロンなど）の適正処理などを行い、環境保護に役立てるものです。そのため、車の所有者、自動車会社（輸入事業者を含む）、自動車関連事業者それぞれに役割が定められています。

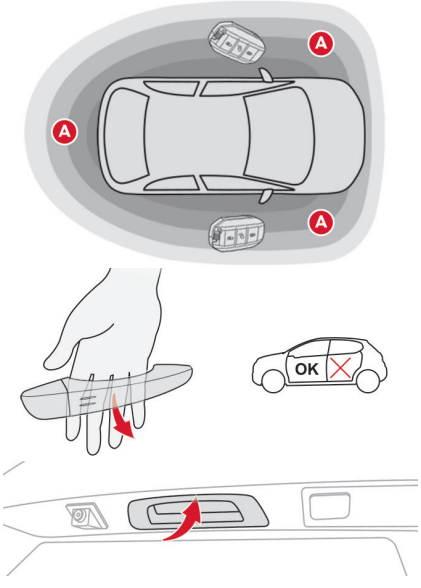
●リサイクルへの取り組み

シトロエンでは、自動車リサイクル法が制定される以前から環境保護を行うためのリサイクルに関して対応してきております。
シトロエン C3 AIRCROSS は、リサイクル可能な素材を車体の多くの部分や部品に採用しています。
車の総重量のうち、90% は何らかの形でリサイクルすることが可能です。
すべてのプラスチック部品には、素材を表す記号がつけられており、簡単に取りはずしや分解ができるように考慮されています。
そのほとんどは熱可塑型を使用していますので、熔解したり粉砕して別の自動車部品として蘇らせることができます。
金属部品も同様に、100% の再利用が可能です。この中にはアルミニウムを始め、プラチナやロジウムといった貴重な金属も含まれます。
なお、アスベストやカドミウムといった有害物質は、設計の段階から使用を除外しています。

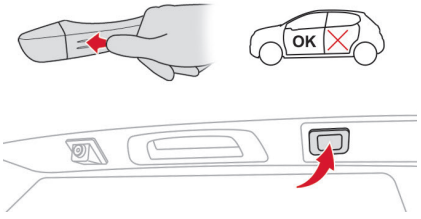
●環境への配慮

シトロエン指定サービス工場での定期点検整備をきちんと行うことは、環境保護と公害発散の防止につながります。
シトロエン指定サービス工場では、交換済みのオイルや油脂類、損耗部品などを正しく処理することによって環境保護のために貢献しています。
特にエアコンに使用されている冷媒ガス（フロン：HFC134a）は、地球温暖化につながるため大気に放出してはなりません。
回収や破壊などの適正な処置をとるためにも、車を廃車にするときはシトロエン指定サービス工場にご相談ください。
環境保護は、たとえスマートキーの電池1個であっても、お客様のご協力によって実践することができます。

●スマートキー（→ P.2-2）



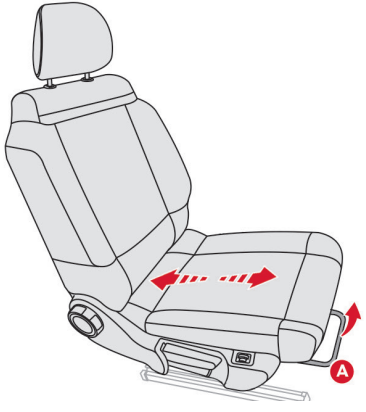
車の解錠
車両周辺の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、前席のドアハンドルに手を通す、またはテールゲートのスイッチを押すと、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。ドアハンドルをそのまま引くとドアを開けることができます。テールゲートのスイッチを押した場合は、テールゲートが少し開きます。



車の施錠
車両周辺の検知エリア **A** にスマートキーがあるときに、前席のドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押します。すべてのドアおよびテールゲートが施錠されます。

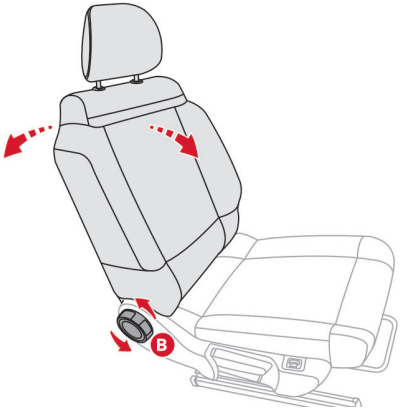
●フロントシート（→ P.1-2）

前後調整



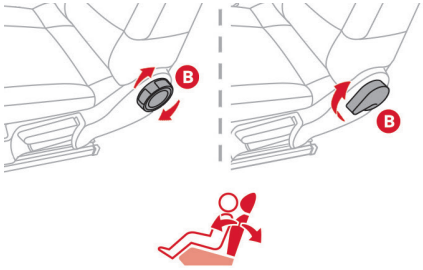
レバー **A** を引き上げたままシートを前後に動かします。レバーを放すとその位置で固定されます。

運転席の背もたれの角度調整



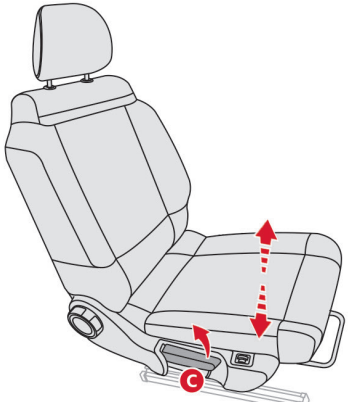
ダイヤル B を回して背もたれの角度を調整します。

助手席の背もたれの角度調整



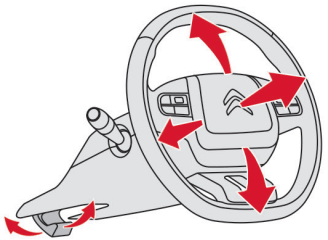
ダイヤル B を回すか、レバー B を引き上げたまま背もたれを動かして角度を調整します。レバー B を放すとその位置で固定されます。

高さ調整（運転席）



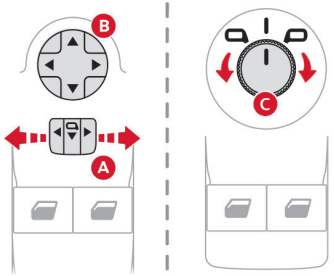
レバー C を上下に動かして高さを調整します。

●チルト・テレスコピックステアリング（→ P.3-4）



1. ロックレバーを手前に引き、ステアリングのロックを解除します。
2. ステアリングホイールの高さや奥行きを調整します。
3. ロックレバーを押し下げて、ステアリングをロックします。

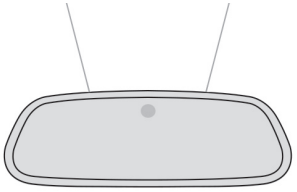
●ドアミラーの調整（→ P.1-6）



1. スイッチ **A** または **C** を左側または右側に動かして調整するドアミラーを選択します。
2. スイッチ **B** の動かしたい側のボタンを押すか、スイッチ **C** を動かして、角度を調整します。
3. 調整が終わったら、スイッチ **A** または **C** を中央の位置に戻します。

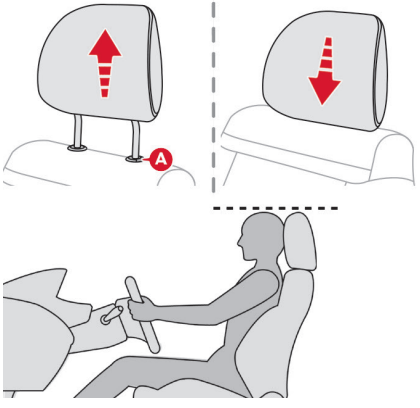
スイッチ**A**を中央位置にして後方へ引くと、ミラーが格納されます。

●バックミラーの調整（→ P.1-7）



ミラーは後方がよく見える位置に調整してください。
自動防眩バックミラーは、昼と夜で自動的にミラーの明るさを調整します。
手動式の室内バックミラーは、夜間に後続車のヘッドランプが眩しいときは、下部のツマミを前後に動かして調整してください。

●フロントヘッドレストの調整（→ P.1-3）



ヘッドレストの上端と乗員の頭の上が揃うように、ヘッドレストを上下に動かして調整します。

下げるときは、ラグ **A** を押しながらヘッドレストを押します。

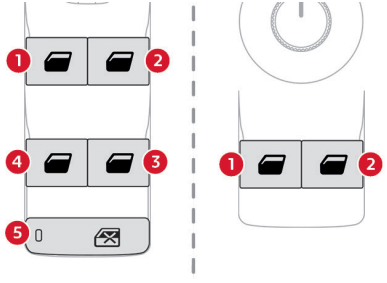
●シートベルト（→ P.1-11）



水平方向にあるベルトを、腹部ではなく腰骨に当たるようにしてバックプレートをカチッと音がするまでバックルに差し込みます。

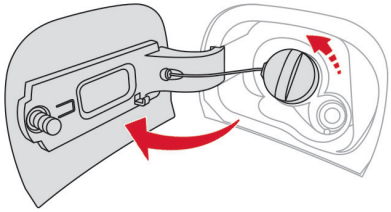
バックルの赤いボタンを押すとはずれます。

●パワーウィンドウ（→ P.2-14）



①：助手席側ウィンドウ開閉スイッチ
②：運転席側ウィンドウ開閉スイッチ
③：後席右側ウィンドウ開閉スイッチ
④：後席左側ウィンドウ開閉スイッチ
⑤：リアウィンドウキャンセルスイッチ

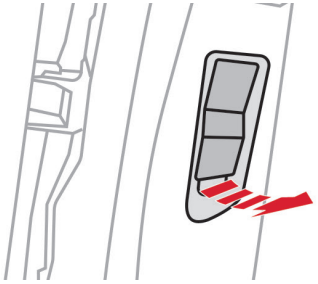
●フュエルリッド（→ P.2-22）

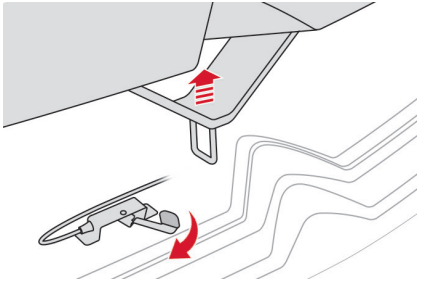


1. ドアを解錠すると、フュエルリッドも連動して解錠されます。
2. 給油フラップの後ろ側を押して開きます。
3. フュエルキャップを左（反時計方向）に回してはずします。
4. はずしたフュエルキャップは、フラップの内側にあるフックに引っかけておきます。

燃料タンクの容量は約45リットルです。

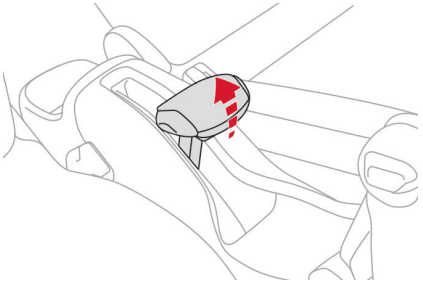
●ボンネット（→ P.2-21）



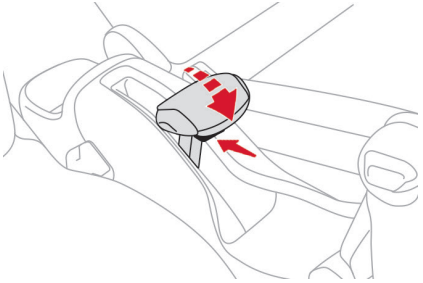


1. 助手席側ドアを開き、ドアシル部にあるレバーを引きます。
2. ボンネットの下のロックレバーを左へ動かしてから持ち上げます。
3. 支柱をキャッチに固定します。

●パーキングブレーキ（→ P.3-5）

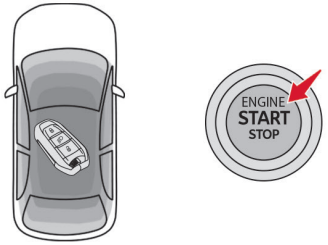


レバーを引き上げるとパーキングブレーキがかかります。



レバーを少し引き上げ、ボタンを押してレバーを完全に倒すとパーキングブレーキが解除されます。

●エンジンの始動（→ P.3-2）



スマートキーが車内の検知エリアにあるときに、エンジンを始動および停止することができます。

エンジンの始動

1. スマートキーを携帯して乗車します。
2. シフトレバーを **P** または **N** にします。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. ブレーキペダルを踏みながら **ENGINE START/STOP** スイッチを押します。
5. スターターが回り、エンジンが始動します。

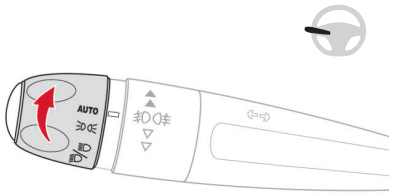
エンジンの停止

1. 車を完全に停止します。
2. シフトレバーを **P** または **N** にします。
3. **ENGINE START/STOP** スイッチを押します。
4. エンジンが停止し、ステアリングがロックされます。

ENGINE START/STOP スイッチの役割

スイッチの状況	運転者の操作内容	車両の動作内容
アクセサリーポジション	ブレーキペダルを踏まずに、**ENGINE START/STOP** スイッチを押します。スイッチを押す度に、イグニッションのオン／オフが切り替わります。	イグニッションがオンとなり、警告灯類が点灯します。しばらくの間、ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。
スタートポジション	ブレーキペダルを踏みながら、**ENGINE START/STOP** スイッチを押します。	エンジンが始動します。ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。

●ライトスイッチ（→ P.4-20）



ヘッドランプ

AUTO オートライトモード

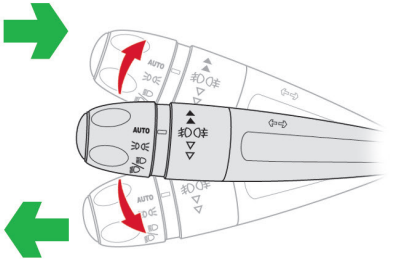
ポジションランプが点灯します。

ヘッドランプのロービーム／ハイビームが点灯します。

フロントフォグランプ／リアフォグランプ

フロントフォグランプ、リアフォグランプが点灯／消灯します。

●方向指示器（→ P.4-28）

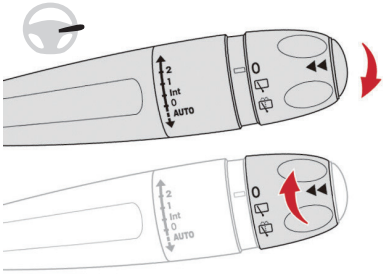


ライトスイッチレバーを上下に動かします。

MEMO

ライトスイッチレバーを1回軽く動かして放すと、動かした方の方向指示器が3回点滅します。

●ワイパー／ウォッシャー（→ P.4-30）



フロントワイパー

AUTO モードにするには、ワイパーレバーを押し下げます。*
ワイパーレバーを**0**以外の位置にすると**AUTO** モードが解除されます。*
レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射されます。

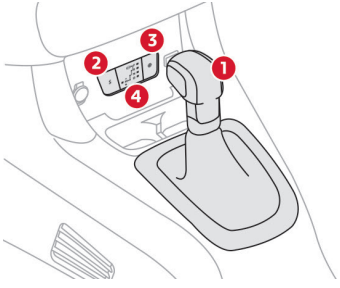
リアワイパー

停止

間欠作動

ウォッシャー作動

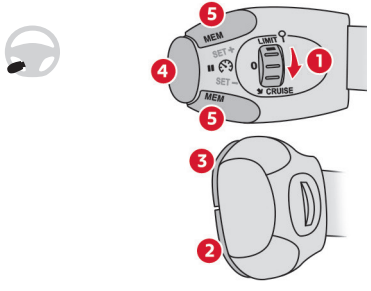
●6速オートマチックトランスミッション（→ P.3-6）



①：シフトレバー
②：スポーツモードスイッチ
③：スノーモードスイッチ *
④：シフトポジション表示
P. パーキング
R. リバース
N. ニュートラル
D. ドライブ
M. マニュアルシフトポジション

*仕様により異なります。

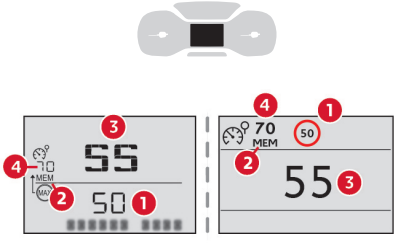
●クルーズコントロール／スピードリミッター（→ P.3-38、3-41）



①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定／設定速度の減少
③：速度設定／設定速度の増加
④：システムの一時停止／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付

クルーズコントロールの速度の設定およびシステムの作動は、シフトレバーが **D** または **M** のときは2速以上で、時速40km 以上のときに可能です。
スピードリミッターはエンジン運転時に設定してください。

●スピードリミットインフォメーション（→ P.3-35）



タイプ1　　タイプ2

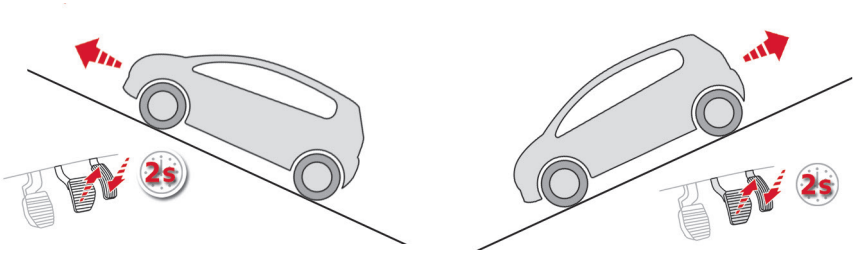
①：速度規制標識の制限速度表示
②：速度設定可能表示
③：現在のスピード表示
④：設定スピード表示

速度規制標識を認識して、インストルメントパネルに制限速度を表示します。
表示された制限速度は、クルーズコントロール／スピードリミッターの走行速度に設定することができます。
タイプ1は、ワイパーレバー先端のスイッチまたはステアリングスイッチのダイヤル操作でスピードリミットインフォメーションの画面を表示できます。

●ストップ&スタート（→ P.3-16）

ストップ&スタートの解除はタッチスクリーンで行います。
設定を変更するとメッセージが表示されます。
エンジンを始動すると、ストップ&スタートは作動状態になります。

●ヒルスタートアシスタンス（→ P.3-11）



ブレーキペダルから足を離しても一定時間（ブレーキペダルからアクセルペダルまで足を移動する間）ブレーキがかかった状態を維持して坂道発進を補助します。
この機能は以下の条件がすべて揃ったときに作動します。

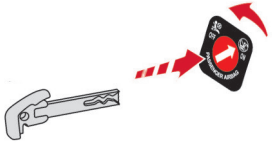
・坂道で車が完全に停止してブレーキペダルが踏まれている。
・運転席ドアが閉まっている。
・坂道の勾配が適正である。

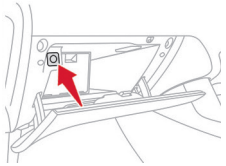
⚠警 告

ヒルスタートアシスタンス作動中は、車から離れないでください。

*仕様により異なります。

●助手席エアバッグキャンセルスイッチ（→ P.1-26）





1. イグニッションをオフにします。
2. 助手席エアバッグキャンセルスイッチに緊急用キーを差し込みます。
3. 助手席に大人が乗車しているとき、もしくは助手席に前向きチャイルドシートを取り付けた場合は **ON** にします。助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けた場合には、必ず **OFF** にします。
4. そのまま緊急用キーを抜きます。

●シートベルト着用／非着用警告ディスプレイ（→ P.1-13）



①：助手席側シートベルト警告灯
②：運転席側シートベルト警告灯
③：後席左側シートベルト警告灯
④：後席中央シートベルト警告灯
⑤：後席右側シートベルト警告灯

●電動チャイルドセーフティ *（→ P.2-16）



チャイルドセーフティをオンにすると、車内からリアドアを開けられなくなります。

●タッチスクリーン（→ P.5-10）

基本操作

← 前のページに戻ります。

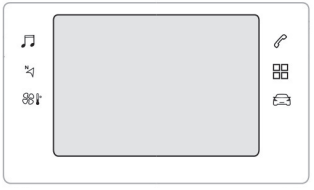
MEMO

タッチスクリーンのグレーアウトされたエリアにタッチすると前のページに戻ります。

OK 設定項目の変更後、変更画面にある OK にタッチして設定を有効にします。

さらに詳細な設定項目がある場合には、このアイコンにタッチします。

メニュー



オーディオやラジオの再生・設定画面を表示します。

ナビゲーションを表示します。（装着車のみ）
Apple CarPlay や Android Auto ™のナビゲーションを表示します。（使用中のみ）*

エアコンの設定画面を表示します。

ハンズフリー通話の通話・設定画面を表示します。
Apple CarPlay や Android Auto の画面を表示します。（使用中のみ）

画像ファイルを表示します。

車の機能の設定を表示します。

タッチスクリーンの画面上部のアイコンにタッチすると、タッチスクリーンの設定画面を表示します。

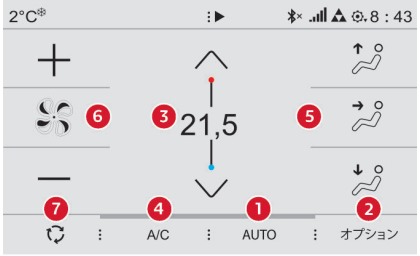
ツマミを回して音量を調節できます。ツマミを押すと、ミュート（消音／停止）になります。
イグニッションがオフのときに押すとタッチスクリーンの画面が点灯します。

MEMO

タッチスクリーンに指3本でタッチすると、メニューが表示されます。

*仕様により異なります。

●オートエアコン＊（→ P.5-5）



AUTO

①：オートモードの設定
オートモードを作動／停止します。

オプション

②：オプション
オートモードの作動モードを変更できます。

SOFT: 風量を制限して作動します。

NORMAL：通常の風量で作動します。

FAST: 風量を多めにして作動します。

③：温度の設定
ディスプレイの表示を希望の数値に合わせます。

A/C

④：エアコンのオン／オフ
冷房・除湿機能を作動／停止します。

⑤：吹き出し口の切り替え
吹き出し口が切り替わります。

⑥：風量の調整
風量が増減します。

⑦：内／外気の切り替え
内気モード／外気モードを切り替えます。

安全なドライブについて
安全装置について
運転装置について
もしものとき
その他

第１章　安全に運転するために

フロントシート…… 1-2
ミラー…… 1-6
リアシート…… 1-8
シートベルト……1-11
チャイルドシート……1-15
エアバッグ……1-24
走行する前に……1-29
使用燃料について……1-29
冬季の取り扱い……1-30
保安炎筒……1-31
触媒コンバーター……1-32

第２章　各部の開閉のしかた

スマートキー…… 2-2
イモビライザー（盗難防止システム）…… 2-8
ドア／ドアロック／オートドアロック……2-10
テールゲート……2-13
パワーウィンドウ……2-14
チャイルドセーフティ……2-16
パノラミックサンルーフ……2-17
ボンネット……2-21
フュエルリッド（給油口）……2-22

第３章　運転装置の使いかた

エンジンの始動…… 3-2
ステアリング／ホーン…… 3-4
パーキングブレーキ…… 3-5
6速オートマチックトランスミッション …… 3-6
シフトタイミングインジケーター……3-10
ヒルスタートアシスタンス……3-11
グリップコントロール……3-12
ヒルディセントコントロール……3-14
ストップ&スタート……3-16
ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール）……3-19
ブラインドスポットモニター……3-22
レーンデパーチャーウォーニング……3-25
ドライバーアテンションアラート……3-27
アクティブセーフティブレーキ……3-30
スピードリミットインフォメーション……3-35
クルーズコントロール／スピードリミッター……3-38
フロント／バックソナー……3-44
バックカメラ（トップリアビジョン機能付き）……3-47
パークアシスト……3-51
間接式タイヤ空気圧警告……3-59

第４章　メーター・ライト・ワイパー装置の使いかた

インストルメントパネル…… 4-2
警告灯類／表示灯類…… 4-5
冷却水温度計……4-15
エンジン油量インジケーター……4-16
サービスインジケーター……4-17
オドメーター／トリップメーター……4-19
マニュアルチェック……4-20
インストルメントパネルの調整（明るさ調整）……4-20
ライト類（ヘッドランプ、フォグランプ、方向指示器、
ハザードランプ）……4-20
ワイパー／ウォッシャー……4-30
ドライブコンピューター……4-34

第５章　室内装置の使いかた

エアコンディショナー…… 5-2
タッチスクリーン……5-10
ラゲッジルーム……5-17
ルームランプ……5-20
インテリア……5-22

第６章　お手入れ・メンテナンス

外装のお手入れ…… 6-2
内装のお手入れ…… 6-2
エンジンルームの点検…… 6-3
電球の交換…… 6-6
ヒューズの交換……6-12
燃費の改善について……6-13
推奨交換時期……6-14
推奨油脂類……6-14
推奨点検時期……6-15

もしものとき

ホイール（タイヤ）の交換…… 7-2
パンク修理キット…… 7-8
バッテリーが上がったとき……7-15
けん引されるとき……7-19

車両データ・アクセサリー類・索引

識別表示…… 8-2
外形寸法…… 8-3
アクセサリー類…… 8-4
索引…… 8-7
付録……8-13

安全のために

重大な事故や車両火災におよぶおそれのある内容と回避方法、一般的な注意事項などについて記載してあります。重要な内容ですので、必ずお読みください。

点検整備のお願い

点検整備を必ず実施してください

- 車を安全に使用していただくため、お客様の責任において日常点検と法定定期点検の実施が法律で義務付けられています。点検内容については、別冊の「**メンテナンスノート**」をお読みください。
- 日常点検を行い異常があるときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。（音、振動、臭い、水･油漏れなど）

走行する前の注意

燃えやすいものは積まないでください

- 燃料が入った容器や可燃性のガスが入ったスプレー缶などは積まないでください。炎天下の駐車で室内が高温になったときや万一のとき、引火や爆発するおそれがあります。



安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

運転席足元・運転席下にはものを置かないでください

・ 空き缶などを置くと、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、走行中にペダル操作ができなくなるおそれがあります。思わぬ事故につながりますので、絶対に行わないでください。



フロアマットはしっかりと固定して使用してください

・ 運転前にフロアマットが正しく取り付けられていることを点検してください。また、フロアマットを重ねて敷くことはしないでください。フロアマットがペダル操作の妨げになり、重大な事故につながるおそれがあります。

スピードメーターの速度の単位は必ずkm/h表示を使用してください

・ 誤って mph 表示（マイル）にすると、正確な速度を認識できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ダッシュボードなどにものを取り付けたり、置かないでください

・ ダッシュボードなどにものを置いたまま運転すると、視界の妨げや移動して安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ また、アクセサリー品を取り付けたり、シールを貼り付けると、エアバッグ作動の妨げやエアバッグ作動時にアクセサリー品が飛ばされて、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。



荷物は確実に固定してください

・ 助手席や後席に荷物を積むと、急ブレーキのときなど荷物が放り出されて乗員に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。荷物はできるだけラゲッジルームに積み、アクセサリー品（オプション）のネットやベルトを使用して固定してください。
・ 荷物の積み重ねによる後方視界の妨げがないようにしてください。

燃料補給時の注意

指定以外の燃料を使用しないでください

- 燃料は無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリンを給油してください。
- 有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（軽油、高濃度アルコール含有燃料など）を給油すると、エンジンなどに悪影響を与えますので使用しないでください。

燃料補給時には次のことをお守りください

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは、十分に注意して給油してください。

1. エンジンは必ず止めて、ドアやウィンドウを閉めます。
   タバコなどの火気は近付けないでください。
2. フュエルリッド、フュエルキャップを開けるなどの給油作業を行う前に、車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
   身体に静電気が帯電していると、放電による火花で燃料に引火し、やけどをするおそれがあります。また給油口には、身体の静電気を除去した方以外の人を近付けないでください。
3. フュエルキャップは、何度かに分けて開き、燃料タンク内の圧力を少しずつ下げてからはずします。
   フュエルキャップが「シュー」と音を出すときは、その状態で鳴り止むのを待ってから開けます。いっきに開けると、燃料が給油口から噴き返して、傷害を受けたり火災になるおそれがあります。
4. 給油作業中は、車内に戻ったり、帯電している人やものに触れないでください。再び帯電するおそれがあります。
5. 燃料を車体にこぼさないように注意してください。塗装面を傷めるおそれがあります。
6. 給油時に気化した燃料を吸い込まないように注意してください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがあります。
7. 給油後は、フュエルキャップが確実に閉まっていることを確認してください。
8. その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

走行するときの注意

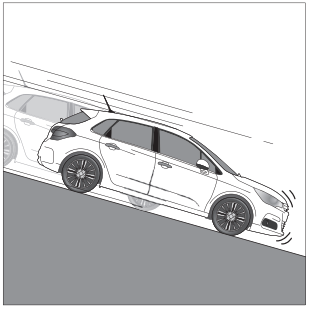
走行中はENGINE START/STOPスイッチを押さないでください

・ 走行中に **ENGINE START/STOP** スイッチを押し続けるとエンジンが停止して、ブレーキ倍力装置が働きません。
そのためにブレーキの効きが悪くなり、ハンドル操作も重くなるために思わぬ事故につながるおそれがあります。非常に危険なので、絶対に行わないでください。

長い下り坂ではエンジンブレーキ*を併用してください

・ ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。坂の勾配に応じて、適切なレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。

* エンジンブレーキ
走行中にアクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ



安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

車を移動するときはエンジンをかけてください

・ エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなります。ハンドルがロックされて操作ができなくなることもあります。
車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。車を押したり傾斜を利用して車を移動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行したり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください

・ ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください

・ ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を、運転中に操作することは法律で禁止されています。
・ ハンズフリーであっても注意力が散漫になり、事故の原因につながるおそれがありますので、車を安全な場所に停車して使用することをお勧めします。



カーナビゲーションシステムなどの操作は停車時に行ってください

・ 運転中にカーナビゲーションシステムなどを操作しないでください。操作は安全な場所に停車して行ってください。

安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

雨天の走行は次のことに注意してください

・濡れた路面では、タイヤのグリップが低下して滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけ、急加速、急ブレーキ、急激なエンジンブレーキ、急ハンドルを避けてください。
・わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、ハイドロプレーニング現象 * を起こしてハンドル操作やブレーキが効かなくなります。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起きやすいので注意してください。

* ハイドロプレーニング現象
水たまりを高速で走行しているときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、車がコントロールできなくなる現象。

・水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキの効きが悪いときは、周囲の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで繰り返しブレーキペダルを軽く踏んでください。

冠水した道路の走行は避けてください

・冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、水を吸い込んでのエンジン破損などの車両故障につながるおそれがあります。



やむを得ず冠水した道路を走行するときは次のことをお守りください。ただし、冠水した道路の水面が15cmを超えるような場合は走行しないでください

・ストップ&スタートを解除する
・エンストしない程度に速度を落とし、時速 10km 以上で走行しない
・車を停止したり、エンジンを停止したりしない

冠水した道路から脱出したら、できるだけ早く安全な場所で、ブレーキペダルを軽く数回踏み、ブレーキの湿りを乾かしてください。車の状態に不安がある場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

霧で見えにくいときはフォグランプを併用してください

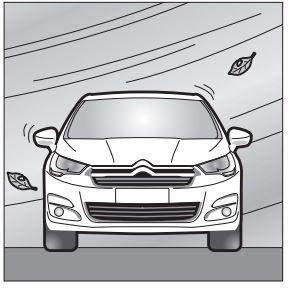
・霧で視界が悪いときは､昼間でもヘッドランプ（下向き）とフォグランプを点灯して、周囲の車や歩行者に車の存在を知らせてください。走行は、センターライン、ガードレール、前の車のテールランプを目安にして十分な車間距離をとってください。
・オートライトシステムは、周囲が明るい昼間はヘッドランプが点灯しません。手動で点灯してください。

雪が降っているときの滑りやすい路面に注意してください

・雪道や路面が凍結しているときは、非常に滑りやすくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。冬用タイヤまたはタイヤチェーン／ネットを使用していても急加速、急ブレーキ、急激なエンジンブレーキ、急ハンドルを避け、十分な車間距離をとり低速で走行してください。

横風が強いときに走行が乱れないように注意してください

・横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に下げてください。
・特にトンネルの出口、橋や土手の上、大型車の追い越しや追い越されたときなどには、横風の影響を受けやすいので注意してください。

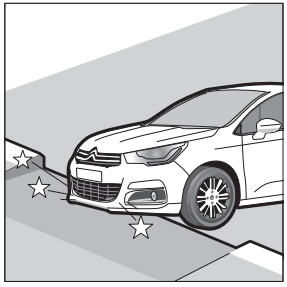


高速道路に入る前には燃料などの確認をしてください

・燃料は十分に給油してあるかを確認してください。
・タイヤの空気圧を確認してください。空気圧不足で高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するおそれがあります。
・万一のために、停止表示板（停止表示灯）を車に用意しておいてください。（法律で義務付けられています。）

段差ではフロントスポイラーのこすれに注意してください

・ 段差のある場所は、速度を落としてゆっくりと進んでください。路面の状態によっては、フロントスポイラーがこすれることがあります。
・ フロント側から進入すると車止めにこすれたり当たることがありますので注意してください。



車を後退させるときは周囲に注意してください

・ バックミラーやカメラには確認できない死角があります。車を後退させるときは、前もって車から降りて後方の人や障害物を確認してください。

お子さまを乗せるときの注意

お子さまは後席に座らせてください

・ お子さまを助手席に乗せないでください。走行中にお子さまの動作が気になったり、運転装置へのいたずらなど事故につながるおそれがあります。
・ また、万一の事故などで助手席の SRS エアバッグが作動したときに、ケガをするおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用させてください

・ お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを膝の上に抱いての乗車は、絶対にしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときにお子さまを支えることができず、ケガをするおそれがあります。シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨にかからないなどで正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシートやチャイルドシートを使用してください。



安 全 な ド ラ イ ブ に つ い て

チャイルドシートは後席に正しく取り付けてください（→P. 1-15）

- チャイルドシートの使用は 6 歳未満のお子さまに法律で義務付けられています。6 歳以上のお子さまでもシートベルトが正しく着用できないときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のため、短時間の走行でも身体に合ったシトロエン純正品のベビーシートやチャイルドシートを使用してください。
- 取り付け方法は、シートに付属している取扱説明書に従って後席に正しく取り付けてください。乳幼児用のベビーシートは進行方向に対して後ろ向きに、チャイルドシートは前向きに取り付けてください。
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席の位置を一番後ろに移動して前向きに取り付けてください。ベビーシートタイプで後ろ向きに装着するときは、助手席エアバッグキャンセルスイッチを **OFF** にしてください。衝撃でケガをしたり、最悪の場合死亡するおそれがあります。キャンセルスイッチがない車では、進行方向に対して後ろ向きに装着しないでください。
- シトロエン純正のベビーシート、チャイルドシートの詳細については、シトロエン販売店にお問い合わせください。

ドア、ウィンドウなどの開閉は大人が操作してください

- ドアやウィンドウなどの開閉は、お子さまに操作させないでください。開閉時に手や首、足などを挟み、思わぬケガをするおそれがあります。また、同乗者が操作するときも十分に注意してください。
- 後席にいるお子さまが操作できないように、リアドアのパワーウィンドウが作動しなくなるキャンセルスイッチや、室内からリアドアを開けられなくするチャイルドセーフティを必ずご利用ください。

ウィンドウやサンルーフから手や顔を出さないでください

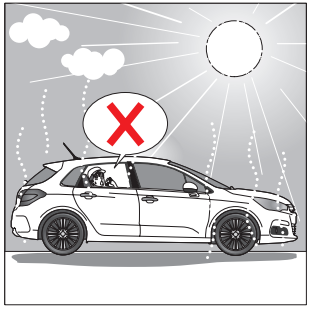
- 急ブレーキ時に窓枠にぶつけたり、車外の障害物に当たったりして、思わぬケガをするおそれがあります。

シートの可動部分に気をつけてください

- お子さまが、リアシートやフロントシートの隙間に手を入れたり、可動部分に触れたりして思わぬケガにつながるおそれがあります。同乗者の方が十分に注意をしてください。
- 走行中は必ずベビーシートやチャイルドシートに座らせるか、シートベルトをさせてください。

お子さまだけを車内に残さないでください

・車から離れるときは、エンジンを止め、キーを携行して必ずお子さまも一緒に降ろしてください。
・お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
・炎天下の車内は 50℃以上の高温になり、脱水症状、熱射病などの生命の危険に関わるおそれがあります。



駐停車するときの注意

燃えやすいものや植え込みに注意してください

・紙や枯草、木材などの燃えやすいものの上や近くには駐停車しないでください。特に走行後の排気管や排気ガスは高温になるため引火するおそれがあります。
・車両後方に燃えやすいものや植え込みがあるときは、車両後端から十分に距離を取って駐車してください。すき間が少ないと、排気ガスによる変色や着火、生育への悪影響につながるおそれがありますので、車の向きも配慮してください。

ハンドルをいっぱいに回した状態を続けないでください

・車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに切った状態を長く続けると、ハンドル操作力が重くなることがありますが異常ではありません。

車から離れるときはエンジンを止め、施錠してください

・ シフトレバーをP にし、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めてドアを施錠してください。無人で車が動き出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。坂道では、シフトレバーを P にし、状況に応じてタイヤに輪止めをしてください。
貴重品を車内に残さないでください。施錠しても盗難につながるおそれがあります。
・ お子さまや介護の必要な方だけを車内に残さないでください。車の発進や車内の高温／低温による思わぬ傷害などが発生するおそれがあります。

炎天下での駐車時は、ライター、スプレー缶、炭酸飲料などを車内に放置しないでください

・ 車体やシート、ステアリングなどが高温となり、やけどをするおそれがあります。駐車後に乗車されるときは注意してください。
・ 車内にお子さまやペットなどを乗せたまま車から離れることは、絶対におやめください。車内の温度が 50℃を超えることもあり、大変危険な状態になります。
・ ライターやスプレー缶、炭酸飲料などは、自然発火や破裂を起こすおそれがあります。車内に放置しないでください。
・ ガスライターを床やシートのすき間に落としたままにすると、シートを動かしたときに着火して火災につながるおそれがあります。
・ メガネをダッシュボードなどに置いたままにすると、変形やひび割れのおそれがあります。また、レンズにより火災を起こすことがあり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

・ 無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして車が発進するおそれがあります。
・ エンジンや排気管の異常過熱による火災が発生するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ 車内で仮眠するときは、エンジンを止め、助手席または後席でしてください。
・ 排気管が損傷していたり、風向きや風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



エンジンルーム内に可燃物を放置しないでください

・ エンジンルーム内に燃えやすい物を置き忘れないように注意してください。引火のおそれがあります。
・ 車両を長時間使用しなかった場合は、小動物や鳥類に持ち込まれた小枝などがないことを確認してください。もし走行中に焦げた臭いを感じたときは、直ちに停車して確認してください。

走行中に異常を感じたとき

警告灯が点灯・点滅したときは、直ちに停車して適切な処置をしてください

- 走行中に警告灯が点灯や点滅したときは、直ちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。(「第４章　メーター・ライト・ワイパー装置の使いかた」を参照)
  そのまま走行すると故障の原因になるだけでなく、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中は車の状態に気を配り、いつもと異なる音や臭い、振動などを感じたときは、直ちにシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
- 故障などでやむを得ず路上に停車するときは、ハザードランプの他に停止表示板を使用して、他の車両に停止していることを知らせてください。

走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは、あわてずに安全な場所に停車してください

- 走行中、タイヤに異常があったときは、あわてずにハンドルをしっかり握り、徐々に速度を下げて安全な場所に停車してください。
  急ブレーキや急ハンドルは、車のコントロールができなくなるおそれがあります。

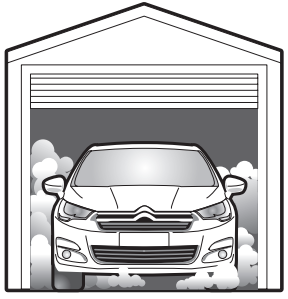
走行中に床下やタイヤなどに大きな音や衝撃を感じたときは車の下部を点検してください

- 直ちに安全な場所に停車し、車の下部を点検してください。
  ブレーキ液や燃料の漏れ、サスペンション部品、タイヤ関係、駆動系部品などの変形や損傷は、そのまま使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷を見つけたときは、運転を中止してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

排気ガスについての注意

換気が悪い場所や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください

- 車庫や屋内などの換気が悪い場所では、排気ガスが充満しやすいのでエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスには無色無臭の有害な一酸化炭素が含まれており、吸い込むと排気ガスによる一酸化炭素中毒になり重大な障害におよぶか死亡につながるおそれがあります。
- 排気管に腐食などによる穴や亀裂がないかをときどき点検してください。走行中に排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。



- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

車内で排気ガスの臭いがしたら次のことをしてください

- 直ちにすべてのウィンドウを全開にする。
- エアコンの内外気の切り替えを外気にして風量を最大にする。
- すみやかにシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
  放置すると、排気ガスによる一酸化炭素中毒になり重大な傷害におよぶか死亡につながるおそれがあります。

シート位置についての注意

走行する前に、正しい運転（乗車）姿勢がとれるシート位置に設定してください

- 運転操作を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 万一衝突したときにシートベルトや SRS エアバッグ、ヘッドレストなどの乗員保護装置の効果が軽減されて、重大な傷害を受けるおそれがあります。

運転者

- 背中が背もたれから離れないように、深く腰掛けます。
- フロントウィンドウから前方がよく見える位置に、シートの高さを調整します。
- ペダルが十分踏み込めるように、シートの前後位置を調整します。
- 膝がダッシュボードに当たらないようにします。
- ヘッドレストの高さは、上端と頭の上が揃うように調整します。
- ステアリングホイールは、ハンドルを握ったときにひじが伸びきらず、少し曲がっている状態で、メーター類が見やすい位置に調整します。

安 全 装 置 に つ い て

走行する前にミラーの位置を調整してください

・後方が確実に確認できるように、ドアミラー、バックミラーを正しく調整してください。
・走行中に調整すると、運転操作を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中は正しい運転姿勢を保ってください

・走行中は正しい運転姿勢を保ち、ステアリングホイールは、9時と3時の位置を外側から両手で持ってください。

他の乗員

・背中が背もたれから離れないように、深く腰掛けます。
・胸部がダッシュボードから 25cm 以上離れるように、シートの前後位置を調整します。
・ヘッドレストの高さは、上端と頭の上が揃うように調整します。

走行中は背もたれを倒しすぎないようにしてください

・急ブレーキをかけたときや万一衝突したときにシートベルトなどの乗員保護装置の効果が十分に発揮されず、身体がシートベルトの下に潜り込んだり、シートベルトが首にかかり傷害を受けるおそれがあります。

安 全 装 置 に つ い て

シートベルトについての注意

シートベルトは正しく着用してください

・ 乗車した全員が正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、万一衝突したときにプリテンショナー *、フォースリミッター ** 付きシートベルト、エアバッグなどの乗員保護装置の機能が適切に発揮されず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

* プリテンショナー
前方からの強い衝撃を受けたときに、瞬間的にシートベルトを引き込み身体を固定して乗員保護装置の効果を高める装置。

** フォースリミッター
シートベルトに一定以上の衝撃を受けたときに、身体にかかる衝撃を減少させる装置。

・ 肩部ベルトを肩に十分にかけ、首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。また、腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にしてください。

妊娠中の方や疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください

・ 医師に注意事項をご確認ください。
・ 腰部ベルトが腹部にかからないように、腰骨のできるだけ低い位置にしてください。また、肩部ベルトは腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

損傷のあるシートベルトは直ちに交換してください

・ 損傷したシートベルトを使用すると、衝突したときなどに十分な効果を発揮できず、重大な傷害を受けるおそれがあります。シートベルトやプレートを、シートやドアに挟まないでください。傷が付くおそれがあります。
・ 万一重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見受けられなくても、シート、シートベルトを交換してください。
・ プリテンショナー付きシートベルトの取りはずしや交換・廃棄はシトロエン指定サービス工場以外では行わないでください。

SRS エアバッグについての注意

- SRS エアバッグシステムは（SRS = Supplemental Restraint System）補助拘束のことです。
- SRS エアバッグは、センサーが一定以上の衝撃を感知したときにのみ作動します。衝突などで車が大きく変形しても、衝撃吸収ボディ構造により衝撃が段階的に吸収されたときは、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

フロントエアバッグの効果は正しい姿勢とシートベルトとで発揮します

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助するシステムで、シートベルトに代わるものではありません。このシステムはシートベルトを必ず着用してください。
- シートに正しく座りシートベルトを正しく着用していないと、衝突などで身体が前方に放り出されたときに SRS エアバッグシステムがふくらみ、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。
- 運転者とステアリングホイールとの間には、適当な距離を確保してください。あまり近すぎると、エアバッグの効果が低下したり、エアバッグそのものでケガを負うおそれがあります。
- ステアリングホイールは、9 時と 3 時の位置を外側から両手で持ってください。他の位置（12 時の位置や真ん中、内側）を持つと思わぬケガにつながったり、エアバッグが作動した際に重大なケガを負うおそれがあります。

フロントエアバッグは車両前方からの衝撃を緩和します

- SRS フロントエアバッグは、イグニッションがオンのときに車両前方から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに瞬時にふくらみ、乗員の頭や胸にかかる衝撃を緩和するシステムです。

フロントエアバッグの保護性能が発揮されるために次の点に注意してください

- 運転者が顔や胸をステアリングに近付けすぎると、SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け非常に危険です。常に正しい運転姿勢で座り、ステアリングに近付きすぎないようにしてください。
- 助手席に乗車する人は、シート前端に座ったり、ダッシュボードに足を乗せていたりすると、SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け非常に危険です。常に正しい乗車姿勢で座り、ダッシュボードに近付きすぎないようにしてください。

エアバッグの近くにものを置いたり、ステッカーなどを貼り付けないでください

- ステアリングを交換したり、ステアリングのパット部にステッカーなどを貼り付けないでください。
- 助手席側エアバッグの周辺（ダッシュボード）にカー用品や芳香剤を置いたり、傘などを立てかけないでください。エアバッグが正常に作動しなかったり、エアバッグがふくらんだときに飛ばされて、ケガをするおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ／カーテンエアバッグについての注意

・SRS サイドエアバッグ／カーテンエアバッグは、車両側面から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに瞬時にふくらみ、乗員の頭や胸にかかる衝撃を分散、緩和させる乗員保護装置です。

サイドエアバッグ／カーテンエアバッグは車両側面からの衝撃を緩和します

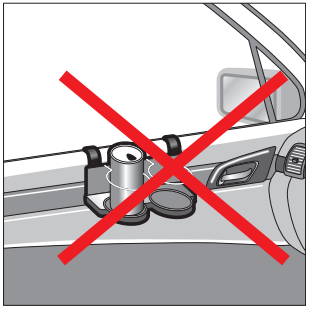
・サイドエアバッグは、前席の背もたれ側面（ドア側）に収納されています。カーテンエアバッグは、ドアピラー部からルーフにかけて収納されています。
・シートの側面周囲には、ものを置かないでください。
・シートにシートカバーや上着をかけたり、ベルトを巻きつけないでください。

ドアやウィンドウにもたれかからないでください

・SRS サイドエアバッグ収納部に手、足、顔を近付けたり、ドアやウィンドウにもたれかかるような姿勢でシートに座らないでください。エアバッグがふくらむときに強い衝撃を受け、非常に危険です。

ドアやサイドエアバッグの近くにカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください

・SRS サイドエアバッグ収納部の近くにカップホルダーなどのカー用品を取り付けたり、ステッカーなどを貼らないでください。エアバッグが正常に作動しなかったり、エアバッグがふくらんだときに飛ばされてケガをするおそれがあります。



運 転 装 置 に つ い て

ABS と ESC ／ ASR についての注意

ABS（アンチロックブレーキシステム）を過信しないでください

- ABS は Antilock Brake System の略で、急ブレーキをかけたときに車輪がロックするのを防ぎ車の操縦性を確保しようとする装置で、制動距離を短くするための装置ではありません。
- 次のような路面では、ABS なしの車よりも制動距離が長くなることがあります。速度は控えめにして車間距離を十分にとってください。
  - 砂利道や雪道、凍結路などを走行しているとき
  - タイヤチェーン／ネットを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 石だたみなどの悪路を走行しているとき

ESC／ASR（エレクトロニックスタビリティコントロール／トラクションコントロール）を過信しないでください

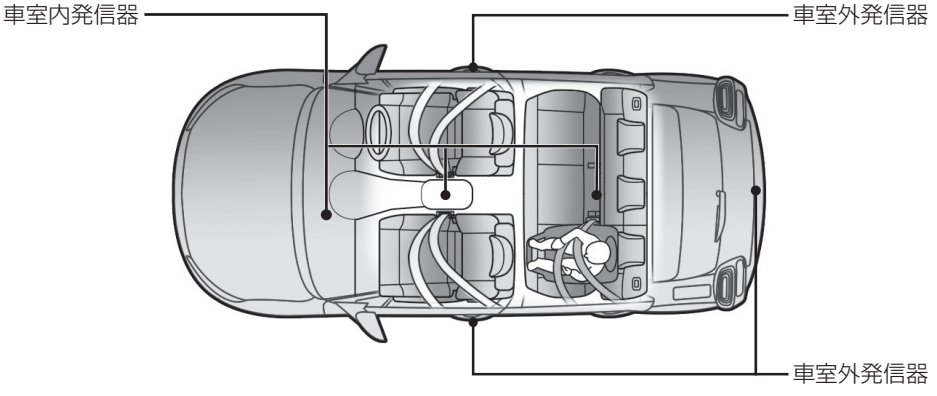
- ESC システムは、滑りやすい道路での旋回時などに、車の動きと運転者が意図するコースとに著しい差が発生したとき、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車の走行安定性を確保しようとするシステムです。
- ASR は滑りやすい道路での発進や急加速時に生じる空転を防ぎ、車の走行安定性を向上させようとするシステムです。
- ESC ／ ASR が作動した状態でも、車の走行安定性には限界があります。ESC ／ ASR を過信せずに速度を下げて、車間距離を十分にとって安全運転を心がけてください。

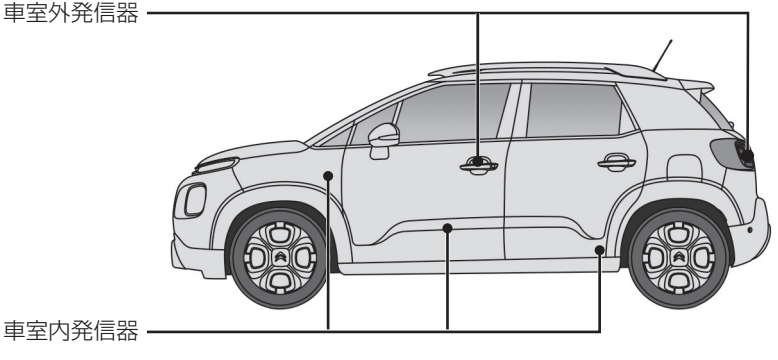
スマートキーについての注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートキー検知用の車室内発信器・車室外発信器から約22cm以内に近付かないようにしてください

- 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用機器を使用される場合は、電波による影響について医療用機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

アンテナ位置





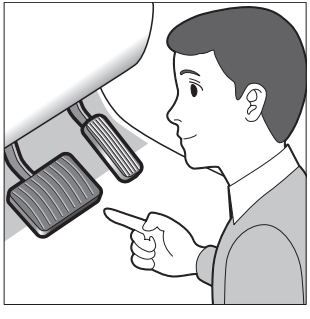
オートマチック車についての注意

クリープ現象に注意してください

・ クリープ現象とは、エンジンがかかっているときにシフトレバーを P または N 以外にすると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出すことです。
・ 停車中はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ 特にエンジンの始動直後やエアコン作動時のエンジン回転が上がっているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

ブレーキとアクセルのペダル位置に注意してください

・ ペダルの踏み違いは、思わぬ事故につながります。エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。
・ また、アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。



発進前／停車後のシフトレバーの操作はブレーキを踏んでください

・ エンジンをかけるときはシフトレバーが P にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでください。
・ シフトレバーの操作は、エンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んで行ってください。
・ 発進時のシフトレバーの操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで行ってください。急発進して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクセルペダルはゆっくり踏んでください

・ アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中はギアをNに入れないでください

・ 走行中にシフトレバーを N にすると、エンジンブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

運 転 装 置 に つ い て

後退した後はギアをNに戻してください

・後退した後は、すぐシフトレバーを R から N に戻す習慣をつけてください。

シフトレバー位置は目で確認してください

・エンジンをかけるときは P、前進するときは D、後退するときは R にあることを目で確認してください。

追い越しにはキックダウンを利用してください

・D または 2 速以上（マニュアルシフトポジション）で走行中に、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的に低速ギアに切り替わり、急加速が得られます。
・滑りやすい路面や急カーブなどでは使用しないでください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車はシフトレバーをPに入れてください

・駐車するときはシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをしっかりかけてください。クリープ現象などで無人で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込み、急発進したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

無用な空ぶかしはしないでください

・万一、シフトレバーが P、N 以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クルーズコントロールについての注意

クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをオフにしてください。
誤ってクルーズコントロールを作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ストップ & スタートについての注意

車から離れるときは、必ずイグニッションをオフにしてキーを携行してください。ストップ&スタート機能が作動していると、シートベルトをはずしたりドアを開けたときに自動的にエンジンが始動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドライビングサポート機能についての注意

アクティブセーフティブレーキなどのドライビングサポート各機能は、ドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、路面や天候などの条件によっては作動しない場合があります。機能を過信せずに常に安全運転をお願いします。

オーバーヒートについての注意

オーバーヒートの症状について

・ 次のような症状が現れるとともに、インストルメントパネルの **STOP** 警告灯が点灯します。
・ 冷却水温度計がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が急に低下する。
・ ボンネット（エンジンルーム）から蒸気が出てくる。

オーバーヒートの対応について

・ ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどをするおそれがあります。
・ 冷却水温度が下がるまで、冷却水タンクのキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が噴き出して、やけどをするおそれがあります。
・ オーバーヒートを起こしたまま走行を続けると、エンジンなどに重大な損傷を起こすおそれがあります。安全な場所に停車し、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

故障したとき／事故が起きたときの注意

走行中に路上で故障したとき

・ 一般道では、車を路肩などの安全な場所へ移動させ、非常点滅灯を点滅させます。必要に応じて、車の後方に停止表示板を置いてください。
・ 高速道路や自動車専用道路では、車を路肩などの安全な場所へ移動させ、車内の乗員を安全な場所に避難させてください。次に非常点滅灯を点滅させ、車の後方に停止表示板を置いて（法律で義務付けられています）ください。

路上で動けなくなったとき

・ 車を移動するときは、シフトレバーを **N** にしてパーキングブレーキを解除し、安全な場所へ移動させてください。

踏切内で動けなくなったとき

・ 同乗者や付近の人に協力してもらい安全な場所まで押してもらってください。車を移動するときは、イグニッションをオンにして、シフトレバーを **N** にしてパーキングブレーキは解除します。
・ 車を移動できないときは、乗員を安全な場所へ避難させ、直ちに踏切警報機に設置してある非常ボタンを押します。緊急を要するときは、保安炎筒を使用して列車に車が踏切内に停車していることを知らせます。

事故が起きたとき

・事故が起きてしまったときは、あわてずに次の処置をとります。

1. 続発事故を防ぐために、他の交通の妨げにならない安全な場所へ車を移動し、エンジンを止めます。
2. 負傷者がいるときは、救急車の出動を要請するとともに負傷者に応急手当を行います。
   ただし、頭部を負傷しているときは動かさないようにしますが、続発事故のおそれがあるときは安全な場所へ避難させます。
3. 警察に連絡します。
   事故が発生した場所、事故状況、負傷者の有無、負傷の程度を報告し、指示を受けてください。
4. 事故の相手があるときは、相手側の氏名や住所、電話番号、自動車保険の番号などを確認してください。
5. 車をご購入された販売店と保険会社に事故状況をご連絡ください。

そ の 他

盗難についての注意

キーは必ず携行してください

・車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、キーを携行してください。
・また、スペアキーを車内に置いたり、バンパーや車体の一部に貼り付けておくことは、盗難のおそれがありますので絶対におやめください。

ドア、ウィンドウを確認してください

・車から離れるときは、すべてのドアが正しくロックされていることを確認してください。また、ウィンドウやサンルーフもきちんと閉じているかを確認してください。

路上駐車は絶対におやめください

・短時間の駐車でも、いたずらや盗難を防ぐために違法な路上駐車を避け、明るく管理の行き届いた駐車場に入ることを心がけてください。

車内に現金や貴重品は絶対に置いたままにしないでください

・現金や貴重品、携帯電話、バッグ、上着などを車内に置いたまま車を離れないでください。

こんなことにもご注意を

車の改造は禁止されています

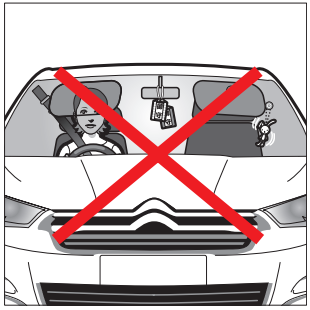
・車の改造やシトロエン純正部品以外の使用は、車の性能が十分に発揮できないだけでなく、思わぬ事故の原因につながるおそれがあります。また、保証の適用外になるだけでなく、故障の原因になることがあります。
・電装品や無線機などの取り付け、取りはずしは、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。
取り付け、取りはずしが適切でないと、電子機器部品に悪影響をおよぼすだけでなく、故障や火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ハンドルの取りはずしや交換は、絶対に行わないでください。
ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されていますので、正常に作動しなかったり不意に作動して思わぬ事故になるおそれがあります。

タイヤ、ホイールは指定サイズを使用してください

・タイヤ、ホイールは指定された規格の製品を使用してください。
指定以外の製品を装着すると、ブレーキシステムに悪影響をおよぼしたり、走行安定性を損なうおそれがあります。
・交換はシトロエン指定サービス工場で行ってください。

ウィンドウにアクセサリーを取り付けないでください

・ ガラス面にアクセサリーなどを取り付けると、視界の妨げになったり、走行中に飛んでケガをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ アクセサリーの吸盤がレンズの働きをして、火災を起こすことがあり危険です。



夏季はバッテリー上がりが起きやすくなります

・ 電装品の使いすぎは、バッテリー上がりにつながります。特に夏季は、エアコンなどの電装品の使用が増えますのでバッテリーにも負担がかかります。渋滞時の走行では充電量が不足してバッテリー上がりを起こしやすくなりますのでこまめな点検と早めの交換を心がけてください。

冬季はタイヤの滑り止めや解凍剤などをご用意ください

・ 冬季のトラブルを軽減するために、冬用タイヤチェーン／ネットや解凍剤などの準備およびバッテリーの点検を行っておくことをお勧めします。詳しくはシトロエン指定サービス工場にご相談ください。
・ 積雪や凍結した道路を走行するときは、安全のため冬用タイヤを装着してください。
冬用タイヤに交換するときは、必ず指定サイズで同じメーカーの同じ銘柄のものを 4 輪に装着してください。
・ タイヤチェーン／ネットは、タイヤサイズに合ったものを前輪に取り付けてください。
・ タイヤチェーン／ネットの装着は、安全な場所に停車し、各取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
装着後は 100m くらい走行して、ゆるみや車体に当たっていないかを再度確認してください。
・ バッテリーは、気温が低くなると性能も低下します。バッテリー液や比重、充電状態を点検してください。
・ ウォッシャー液の凍結を防ぐために、夏季よりも混合割合を高くしてください。

タバコの吸殻の火は消して灰皿へ入れてください

・ タバコやマッチなどの火は、確実に消して灰皿へ入れてふたを閉めてください。
・ 灰皿の中に吸殻を入れすぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。思わぬ火災につながるおそれがあります。

オーディオについての注意

このオーディオは Bluetooth® の機能を備えています。植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用されている方は、オーディオから約 22cm 以内に近付かないようにしてください

- 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用機器を使用される場合は、電波による影響について医療用機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

第1章　安全に運転するために

フロントシート…… 1-2
ミラー…… 1-6
リアシート…… 1-8
シートベルト…… 1-11
チャイルドシート…… 1-15
エアバッグ…… 1-24
走行する前に…… 1-29
使用燃料について…… 1-29
冬季の取り扱い…… 1-30
保安炎筒…… 1-31
触媒コンバーター…… 1-32

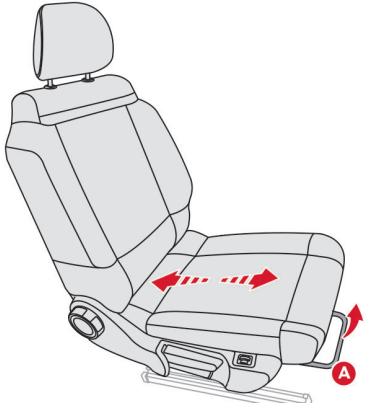
フロントシート

⚠警 告

●運転席のシート調整は、安全のため停車中に行ってください。
●シートを調整するときには、身体の一部や障害物が妨げにならないように注意し、正しい位置に固定してください。

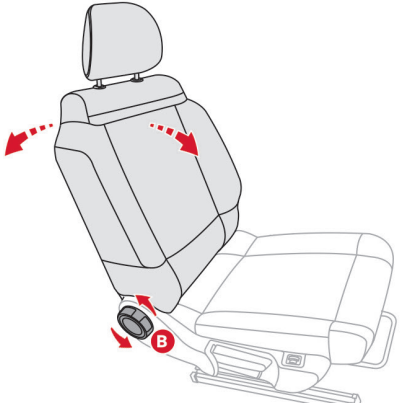
●フロントシートの調整

フロントシートの前後調整



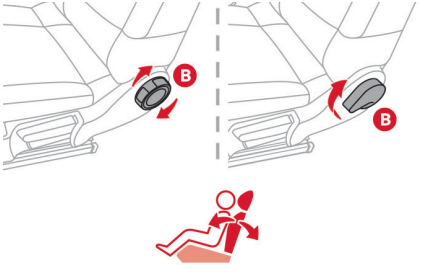
レバー A を引き上げたままシートを前後に動かします。レバーを放すとその位置で固定されます。

運転席の背もたれの角度調整



ダイヤル B を回して背もたれの角度を調整します。

助手席の背もたれの角度調整

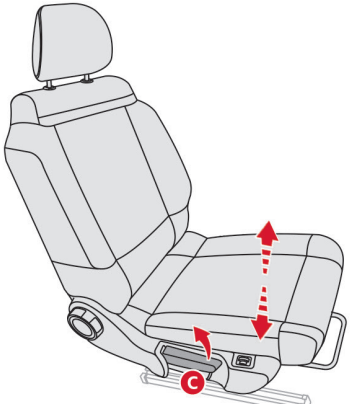


ダイヤル B を回すか、レバー B を引き上げたまま背もたれを動かして角度を調整します。レバー B を放すとその位置で固定されます。

⚠警 告

レバー **B** を引き上げて背もたれの角度を調整するときは、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に戻り、ケガをするおそれがあります。

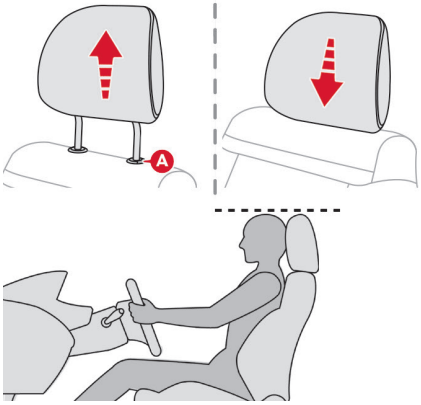
運転席の高さ調整



レバー **C** を上下に動かして高さを調整します。

●ヘッドレストの調整

高さ調整



ヘッドレストを引き上げると上がります。
ラグ **A** を押しながらヘッドレストを押すと下がります。

⚠警 告

高さはヘッドレストの上端と前席乗員の頭の上が揃うように調整してください。

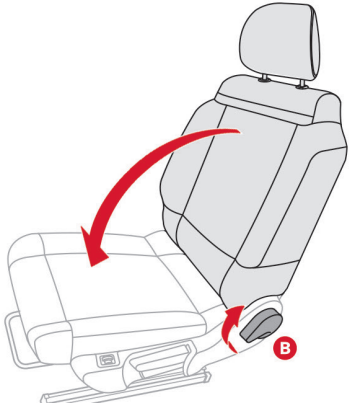
ヘッドレストの脱着

1. 背もたれを後方へ倒します。
2. ヘッドレストを最上の位置に移動します。
3. 根元のラグ **A** を押しながら引き上げます。
4. ヘッドレストを戻すには、ヘッドレストの支柱をシートの穴に合わせて押し込みます。

⚠警 告

- ヘッドレストは衝突の際にはずれないように、支柱によって支えられています。
- ヘッドレストをはずして運転しないでください。

● 助手席バックレストの折りたたみ *



長い物を載せるときなどに、助手席を折りたたむと荷室を広く使用できます。

折りたたみかた

1. ヘッドレストを一番低い位置にします。
2. レバー **B** を引き上げてバックレストを前方に倒します。

戻しかた

レバー **B** を押し下げてから、バックレストを持ち上げて固定します。
戻した後は、バックレストをゆすって確実に固定されているか確認してください。

* 仕様により異なります。

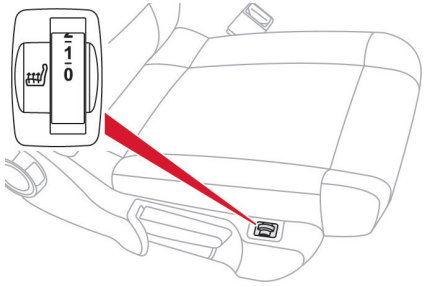
⚠警 告

●助手席バックレストを折りたたむときは、車を安全な場所に停車させてから行ってください。
●シートのまわりに障害物がないか確認してください。また、体がはさまれないように十分注意してください。
●助手席を折りたたむときは、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に戻り、ケガをするおそれがあります。
●助手席が折りたたまれているときは、助手席のすぐ後ろおよび中央のリアシートに乗員を乗せないでください。
●急ブレーキや事故の際に、折りたたんだ助手席のバックレストの上に置いた物が飛び、ケガをするおそれがあります。

注 意

折りたたんだ助手席のバックレストに固いもの、重い物、とがった物などを載せないでください。シートが破損するおそれがあります。

●シートヒーター *

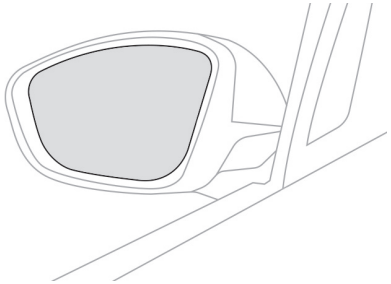


シートヒーターは運転席と助手席に装備され、エンジンがかかっているときに、別々に作動させることができます。
シート横にあるダイヤルを回すとヒーター温度が調整できます。
設定した温度は自動的に保たれます。

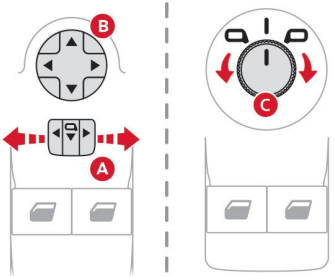
0：オフ
1：低
2：中
3：高

ミラー

●電動ドアミラー



ドアミラーの角度調整



調整するミラーに合わせて、スイッチ **A** または **C** を左側または右側に動かします。
ミラーは上下左右に角度が変えられます。スイッチ **B** の動かしたい側のボタンを押すか、スイッチ **C** を動かします。
調整が終わったら、スイッチ **A** または **C** を中央の位置に戻します。

ドアミラーの格納 *



スイッチ **A** を中央位置にして後方へ引くと、ミラーが格納できます。
手などを挟まないように、安全を確認してから操作してください。

⚠注 意

ミラーで見た距離感覚と実際の車との距離が異なります。車との感覚を判断する際には、この点に十分ご注意ください。

注 意

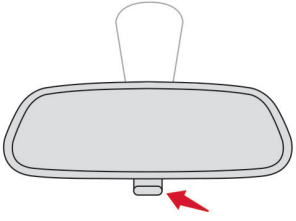
ドアミラーを手で倒したり、戻したりしないでください。

* 仕様により異なります。

MEMO

●スイッチ **A** を使用してドアミラーを格納した場合は、車を解錠してもドアミラーは復帰しません。スイッチ **A** を中央位置にして後方へ引いてドアミラーを復帰してください。
●ダッシュボードのコントロールパネルにあるリアウィンドウの視界確保モードスイッチは、ドアミラーの曇り取りも兼用しています。
●スマートキー機能、リモコン、または緊急用キーで施錠または解錠すると、ミラーが自動的に格納または展開されます。この機能を使用したくないときは、シトロエン指定サービス工場に設定の変更をお申し付けください。

●室内バックミラー *

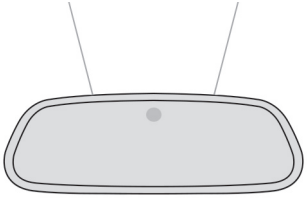


夜間に後続車のヘッドランプが眩しいときは、下部のツマミを前後に動かして調節してください。

⚠注 意

安全のため、ミラーは後方がよく見える位置に調整してください。

●自動防眩バックミラー *



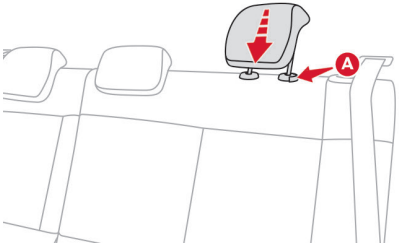
センサーでミラーにあたる光を感知し、昼と夜で自動的にミラーの明るさを調整します。また、夜間に後続車のヘッドランプがミラーに反射した場合も、自動的に暗くなって後方の視界を確保します。なお、シフトレバーを **R** に入れると、後方視界を確保するために一時的に明るくなります。

⚠注 意

安全のため、ミラーは後方がよく見える位置に調整してください。

リアシート

●リアシートヘッドレスト

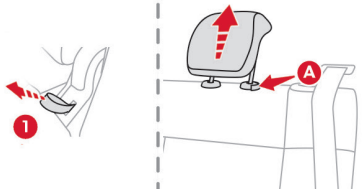


高さ調整

高い位置、低い位置の2段階が選択できます。

ヘッドレストを引き上げると上がります。ラグ **A** を押しながらヘッドレストを押すと下がります。

取りはずし



1. 背もたれ下部にあるストラップ①を引き上げたまま、背もたれを前方に倒します。
2. ヘッドレストを高い位置まで引き上げます。
3. ラグ **A** を押してヘッドレストを取りはずします。
4. ヘッドレストを戻すには、ヘッドレストの支柱をシートの穴に合わせて押し込みます。

⚠警 告

シートに座るときは、ヘッドレストを高い位置に調整してください。
また、ヘッドレストを取りはずしたまま走行しないでください。事故などのときにケガをする危険性があります。

●リアシートの調整

⚠警 告

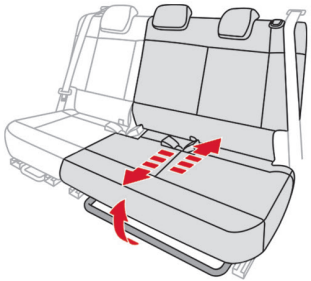
リアシートの調整をするときは、安全な場所に停車させてから行ってください。

⚠注 意

●シートのまわりに障害物がないか確認してください。また、体が挟まれないように十分に注意してください。
●お子さまがシートを調整する場合は、常に大人が一緒に確認してください。

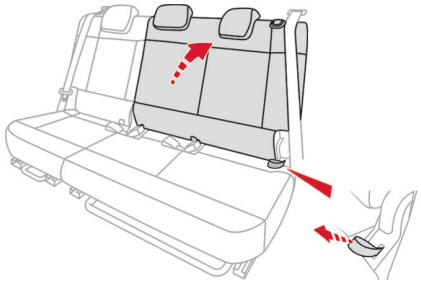
＊仕様により異なります。

リアシートの前後調整 *



レバーを引き上げたままシートを前後に動かします。レバーを放すとその位置で固定されます。

背もたれの角度調整 *

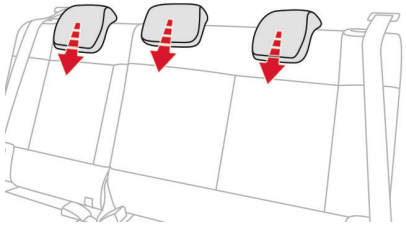


1. リアシートを前にずらします。
2. ストラップを引き上げたまま背もたれの角度を調整します。ストラップを放すとその位置で固定されます。

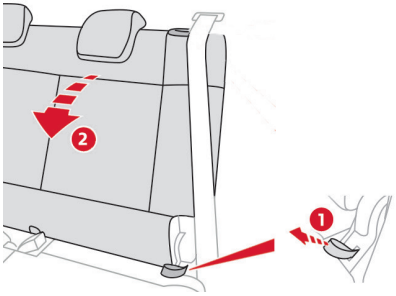
⚠警 告

背もたれの角度を調整するときは、必ず調整をするシートに着席した状態で操作してください。背もたれが急に戻り、ケガをするおそれがあります。

背もたれの折りたたみ

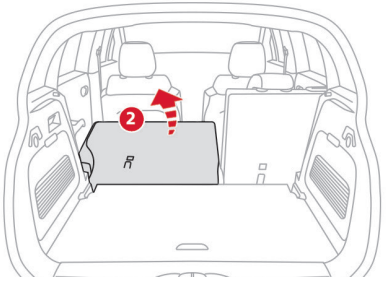


1. リアヘッドレストを低い位置にセットします。
2. フロントシートを前にずらします。
3. リアシートを後方いっぱいまでずらします。*



4. 両サイドのシートベルトを背もたれの脇によせます。中央のシートベルトは、ルーフの固定位置に格納されているか確認します。
5. シートベルトのバックルをシートクッションに格納します。
6. 背もたれ下部にあるストラップ①を引き上げたまま、背もたれ②を静かに倒してシートクッションの上に折りたたみます。

背もたれの戻しかた



1. 背もたれ②を持ち上げ、後方へ押してロックします。
2. 背もたれをゆすって確実に固定されているか確認します。
3. 背もたれ②がシートベルトを巻き込んでいないか確認します。

⚠警 告

リアシートを元に戻すときには、背もたれがしっかりと固定されていることを確認してください。しっかりと固定されていないと、急ブレーキや事故などのときにケガをするおそれがあります。また、ラゲッジルームの荷物が放り出され乗員がケガをするおそれがあります。

注 意

リアシートを戻すときにはシートベルトを巻き込まないようにしてください。

シートベルト

●フォースリミッター付きシートベルトプリテンションシステム

車体が強い衝撃を受けたとき、瞬間的にシートベルトを引き込み、身体を拘束する効果を高める装置です。
この機構は、イグニッションがオンのときに作動します。
フォースリミッターは、事故の際に身体にかかるシートベルトの衝撃を和らげる働きをします。

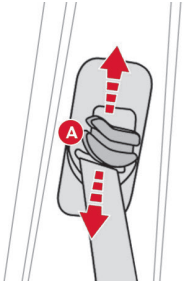
●フロントシートベルト

フロントシートベルトの着用



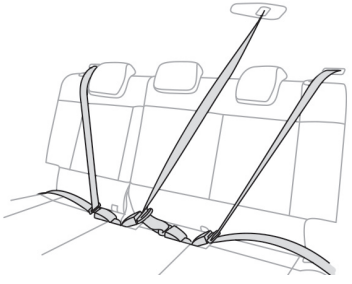
水平方向にあるベルトを、腹部ではなく腰骨に当たるようにしてバックプレートをカチッと音がするまでバックルに差し込みます。バックルの赤いボタンを押すとはずれます。

シートベルトの高さ調整



ベルトを引き出し、アンカー **A** の中央部を押しながらアンカー **A** を上下にスライドさせて、ベルトが肩先と首との間に当たるように合わせます。

●リアシートベルト



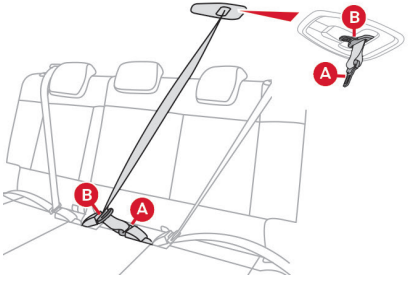
リア左右シートベルト

リア左右シートベルトは３点式で、フォースリミッター付きです。
シートベルトのストラップを引き出し、バックルに差し込みます。ストラップを引っ張って、正常に装着されたかを確認します。バックルの赤いボタンを押すとはずれます。

注 意

シートベルトが傷んだり、絡まったりしないように、シートベルトを使用しないときは、必ず正しい位置に収納してください。

リア中央シートベルト



着用

1. ストラップを引いてプレート **A** をシート左側のバックル **A** に差し込みます。
2. プレート **B** をシート右側のバックル **B** に差し込みます。
3. ストラップを引っ張ってプレートがバックルに確実に差し込まれていることを確認します。

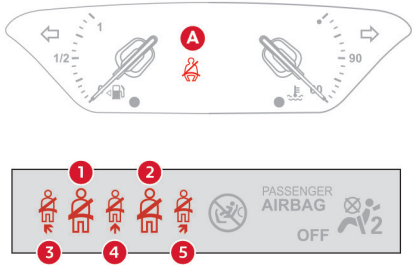
取りはずし

1. バックル **B** の赤いボタンを押します。
2. バックル **A** の黒いボタンを押します。
3. ストラップを巻き戻して、プレート **B**、プレート **A** の順でルーフのアンカーにマグネットで固定します。

注 意

シートベルトが傷んだり、絡まったりしないように、シートベルトを使用しないときは、必ず正しい位置に収納してください。

●シートベルトの着用警告



イグニッションをオンにしたとき、またはエンジンが始動しているとき、シートベルトを着用していない、または着用していたシートベルトをはずすと、インストルメントパネルとシートベルト着用／非着用ディスプレイのシートベルト警告灯が点灯または点滅します。

A：シートベルト警告灯
①：助手席側シートベルト警告灯
②：運転席側シートベルト警告灯
③：後席左側シートベルト警告灯
④：後席中央シートベルト警告灯
⑤：後席右側シートベルト警告灯

イグニッションがオンのときシートベルトを着用していないと、インストルメントパネルの警告灯 A が点灯します。シートベルト着用／非着用ディスプレイの警告灯①②③④⑤が赤く点灯した場合、点灯した席のシートベルトが締められていません。シートベルトが締められていると消灯します。
後席の警告灯③④⑤は、いずれかが赤く点灯したままであっても、エンジン始動後30秒経過すると警告灯が消灯します。
時速20km 以上で走行中にシートベルトを着用していない、または着用していたシートベルトをはずすと、約2分間段階的に変化する警告音とともにシートベルト警告灯が点滅します。
2分経過後は警告灯のみが点灯します。
上記の警告は、シートベルトを着用すると解除されます。

●着座検知

助手席の座面に圧力センサーがあり、約35kg 以上の重量が加わった状態でシートベルトをはずすと警告灯が点灯します。

MEMO

助手席に重い荷物を置いて走行する場合は、シートベルトのストラップを引き出してバックルを差し込むと警告灯が点灯しなくなります。

⚠警 告

●乗車中、短時間のドライブといえどもシートベルトを必ず着用してください。
●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。ただし、医師に注意事項をご確認願います。
●シートベルトは、正しい姿勢で身体に密着させなければ効果がありません。
●バックルを逆にしてバックプレートを差し込まないでください。また、差し込むときには、ねじらないでください。
●シートベルトは、上部を肩にしっかりとかけ、下部は腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
●シートベルトを2人以上で共有しないでください。
●お子さまを膝の上に抱いて走行しないでください。

⚠警 告

●シートベルトの部品をむやみにはずしたり改造しないでください。衝突の際に作動しなくなるおそれがあります。また、誤ってプリテンションシステムを作動させると、ケガをするおそれがあります。
●シートベルトにほつれや傷跡があるようなときは、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。部品交換が必要になることがあります。
●シートベルトを修理、交換する場合はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。
●シートベルトプリテンションシステムは、一度しか作動しません。作動後はかならず部品交換が必要になりますので、シトロエン指定サービス工場で整備を受けてください。
●シートベルトプリテンションシステムは、エアバッグとは関係なく作動します。大きな衝撃を受けたときは、シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

MEMO

●降車時には、シートベルトを確実に収納させてください。
●シート位置を調整したら、シートベルトが適切な位置に格納されているか確認してください。
●シートベルトがロックして引き出せないときは、ベルトを強く引いてから、ゆるめてください。
●シートベルトが汚れた場合は、せっけん水や洗剤で洗ってください。

チャイルドシート

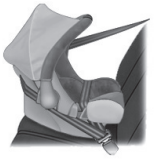
シトロエンでは、お子さまが乗る場合の安全を十分配慮して車の設計と製造を行っておりますが、お子さまが同乗するときの安全対策については、常に大人の方が十分ご注意いただくようお願いします。

⚠警 告

●短時間の乗車でも、チャイルドシートとシートベルトを着用してください。
また、思わぬ事故を防ぐためにも、リアドアのパワーウィンドウが作動しなくなるキャンセルスイッチや、室内からリアドアを開けられなくするチャイルドセーフティをご利用ください。
●後席のウィンドウは3分の1以上開けないようにしてください。
●お子さまの体格に合った正式に認可されたチャイルドシートを使用してください。適切なチャイルドシートにより、お子さまが守られます。
●お子さまを膝に乗せての運転はしないでください。大ケガや致命傷を負うおそれがあります。
●お子さまが正しい着座位置に座っていないと、急ブレーキや事故の際に大ケガや致命傷を負うおそれがあります。また、エアバッグが作動した場合にも、思わぬケガを負うおそれがあります。

●3点式シートベルトを使用したチャイルドシート

新生児から体重13kg まで



このタイプのシートは、体重13kg までのお子さまに適しています。減速時に首に負担がかからないように、進行方向とは反対向きに取り付けてください。

体重15kg から36kg まで



体重15kg ～36kg までのお子さまにお勧めするタイプです。



●チャイルドシートの推奨取り付け位置

次の表は、お子さまの体重と車のシート形状により、シートベルトを使用してどの位置に一般的なチャイルドシートを取り付けるかを示しています。取り付けは、後ろ向き、前向きともに可能です。

シート		体重グループ			
		13kgまで（グループ0、0+）	9～18kg（グループ1）	15～25kg（グループ2）	22～36kg（グループ3）
助手席	助手席エアバッグ OFF	U	U	X	X
	助手席エアバッグ ON	X	X	U	U
後席左右		U	U	U	U
後席中央		X	X	X	X

※グループ0（10kgまで）の乳児用シェル型チャイルドシートおよびキャリコットは助手席には取り付けられません。

※チャイルドシートを取り付ける際には、車のシートバックに確実に固定されているか確認してください。必要に応じて、ヘッドレストを取りはずし、チャイルドシートを確実に固定してください。

※シトロエンでは可能なかぎり、すべてのチャイルドシートにおいてリアシートに設置することを奨励しています。

U： 前向きおよび後ろ向きのユニバーサルチャイルドシートの取り付けに適しているシート位置。

X： チャイルドシートは取り付けできません。

⚠警 告

●助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付ける際には、必ず助手席エアバッグの機能をキャンセルしてください。お子さまが大ケガを負ったり、場合によっては致命傷を受けるおそれがあります。

●チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

MEMO

チャイルドシートは、メーカーの取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

●助手席へのチャイルドシートの取り付け（3点式シートベルトを使用）

後ろ向きチャイルドシート



後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付けた際、助手席エアバッグの機能をキャンセルすることが必要です。

⚠警 告

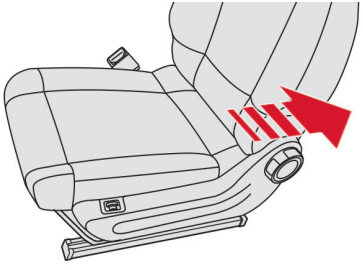
後ろ向きチャイルドシートを取り付ける際には、必ず助手席エアバッグの機能をキャンセルしてください。お子さまが大ケガを負ったり、場合によっては致命傷を受けるおそれがあります。

前向きチャイルドシート



前向きチャイルドシートを助手席に取り付けた際、助手席エアバッグの機能はキャンセルしないでください。

助手席の位置



助手席にチャイルドシートを取り付けたら、シートの位置は一番後ろ、バックレストは元の位置に戻してください。

⚠警 告

●シートベルトがしっかりと締まっていることを必ず確認してください。
●レッグサポート付きのチャイルドシートは、レッグサポートをしっかりとフロアに接地させてください。必要に応じて、助手席シート位置を調節してください。

●リアシートへのチャイルドシートの取り付け（3点式シートベルトを使用）

後ろ向きチャイルドシート



後ろ向きチャイルドシートをリアシートに取り付けた際、チャイルドシートが前席に接触しないように、前席の前後位置およびバックレストの角度を調整してください。

前向きチャイルドシート



前向きチャイルドシートをリアシートに取り付けた際、お子さまの足が前席に接触しないように、前席の前後位置およびバックレストの角度を調整してください。

リアシートの位置

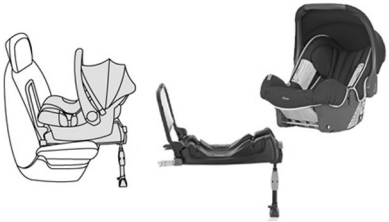
リアシートにチャイルドシートを取り付けたら、背もたれの角度調整機能および前後調整機能が装備されている場合は、リアシートのバックレストを元の位置に戻し、前後位置を一番後ろに調整してください。

⚠警 告

- ●シートベルトがしっかりと締まっていることを確認してください。
- ●レッグサポート付きのチャイルドシートは、レッグサポートをしっかりとフロアに接地させてください。
- ●後席中央のシートにはチャイルドシートを取り付けできません。

●ISOFIX チャイルドシート（シトロエン推奨）

新生児から体重13kg まで



後ろ向きチャイルドシート。高さ調整が可能なバーを備えています。
3点式のシートベルトで取り付けることも可能です。その場合シェルのみ使用してください。

体重9kg から18kg まで



前向きチャイルドシート、アッパーストラップ付き。
シートの角度を3段階に調節できます。
3点式のシートベルトで取り付けることも可能です。その場合、お子さまの足が前席に接触しないように、前席の前後位置およびバックレストの角度を調整してください。

●ISOFIX チャイルドシートの推奨取り付け位置

次の表は、ISOFIX チャイルドシートに関し、車内シート位置と一般的に認可された体重グループの関係を示しています（欧州安全規格に基づいています）。ISOFIX ユニバーサルチャイルドシートまたはセミユニバーサルチャイルドシートでは、A ～ G のアルファベットによる ISOFIX サイズコードがチャイルドシートの "ISOFIX ロゴ " の横に表示されています。

	体重グループ									
	10kgまで（グループ0）		10kgまで、13kgまで（グループ0、0+）			9～18kg（グループ1）				
ISOFIXチャイルドシートのタイプ	シェル型		後ろ向き			後ろ向き		前向き		
ISOFIXサイズコード	F	G	C	D	E	C	D	A	B	B1
助手席	X		X			X		X		
後席左右	X		IL			IL		IUF IL		
後席中央	X		X			X		X		

※リアシートに背もたれの角度調整機能および前後調整機能が装備されている場合は、バックレストを元の位置に戻し、前後位置を一番後ろに調整してください。

※チャイルドシートを取り付ける際には、確実に固定されているか確認してください。必要に応じて、ヘッドレストを取りはずし、チャイルドシートを確実に固定してください。

IUF：ISOFIX ユニバーサルチャイルドシート（トップベルトを備える ISOFIX「前向き」チャイルドシート）の取り付けに適しているシート位置。

IL：ISOFIX セミユニバーサルチャイルドシート（トップベルトまたはバーを備える ISOFIX「後ろ向き」チャイルドシート、バーを備える ISOFIX「前向き」チャイルドシート、およびトップベルトまたはバーを備える ISOFIX「シェル型」シート）の取り付けに適しているシート位置。

X：チャイルドシートは取り付けできません。

⚠警 告

チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

MEMO

チャイルドシートは、メーカーの取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

●i-Size チャイルドシート

i-Size チャイルドシートは、リアシートに設置されている、ISOFIX 規格のシトロエン車専用チャイルドシートをワンタッチで固定するための金具に取り付けます。

●i-Size チャイルドシートの推奨取り付け位置

次の表は、チャイルドシートが i-Size カテゴリーの場合に取り付けられるシートを示しています。

	i-Sizeチャイルドシート
助手席	X
後席左右	i-U
後席中央	X

※リアシートに背もたれの角度調整機能および前後調整機能が装備されている場合は、バックレストを元の位置に戻し、前後位置を一番後ろに調整してください。

※チャイルドシートを取り付ける際には、確実に固定されているか確認してください。必要に応じて、ヘッドレストを取りはずし、チャイルドシートを確実に固定してください。

i-U：前向きおよび後ろ向きの i-Size ユニバーサルチャイルドシートの取り付けに適しているシート位置。

X： チャイルドシートは取り付けできません。

⚠警 告

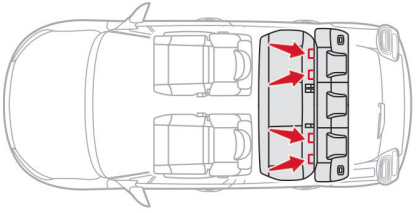
チャイルドシートを取りはずしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故などのときにケガをする危険性があります。

MEMO

チャイルドシートは、メーカーの取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

●ISOFIX チャイルドシートの取り付けかた

取り付け可能シート位置

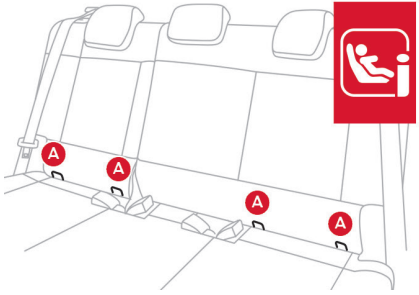


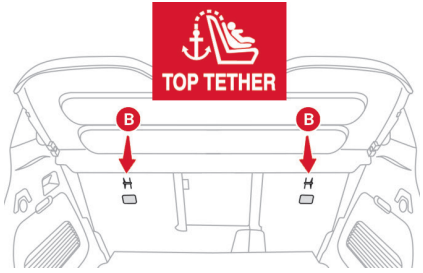
ISOFIX 規格のチャイルドシートを取り付けることができるシートを表しています。
取り付けが可能なシート位置にはそれぞれ3つの ISOFIX 規格のチャイルドシートをワンタッチで固定するための金具が装備されています。

MEMO

チャイルドシートを後席左側シートに取り付けるときは、後席中央シートのシートベルトの使用の妨げにならないようにしてください。

取り付け金具





ドア側のリアシートのバックレストとシートクッションの間に2つの金具 A があります。
トップテザー対応のシートは、ストラップをシート裏側のトップテザーアンカー B に装着してください。

取り付け方法については、チャイルドシートの説明書に従ってください。

⚠警 告

- ●チャイルドシートは正しく取り付けてください。事故などの場合に十分な保護ができなくなるおそれがあります。
- ●チャイルドシートは製造メーカーの指定に従って正しくご使用ください。チャイルドシートに指定された適正な年齢や体格を無視すると、シートベルトにより傷害を受けるおそれがあります。

エアバッグ

エアバッグはイグニッションがオンのときだけ作動します。
エアバッグは致命的な事故の際にフォースリミッター付きシートベルトを補助して乗員を最大限守るように設計されています。
万一の際、エアバッグシステムが急激な減速を感知してそれがある到達点にまで達していたら即座にシステムが起動して乗員の保護を行います。
その直後エアバッグはしぼんで乗員が脱出しやすい空間を確保します。
エアバッグはシートベルトが十分フォローできる範囲内の衝撃では開きません。

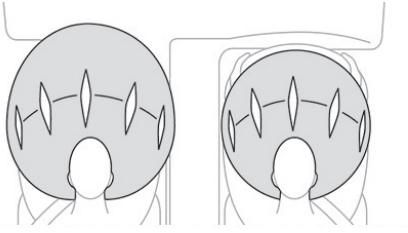
⚠警 告

展開後のエアバッグ構成部品は熱くなっておりますので、やけどを負う可能性があります。

MEMO

展開後のエアバッグはガスが抜けてすぐしぼむようにできています。このガスには若干の刺激性があります。

●フロントエアバッグ



運転席エアバッグはステアリング中央部に収納されています。
助手席エアバッグはダッシュボード内に収納されています。助手席エアバッグキャンセルスイッチが **OFF** のときは展開しません。

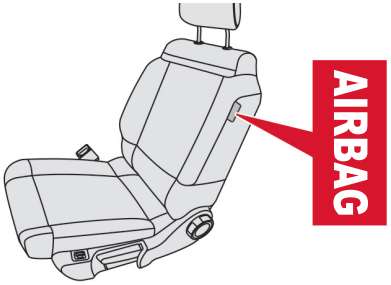
⚠警 告

●ステアリングのスポーク部を握って運転したり、センターパッド部に手を置いて運転しないでください。
●助手席に座る人は、ダッシュボードに足を乗せないでください。
●ステアリングをはずしたり、物を突き刺したり、激しく物を当てないでください。

⚠警 告

●ステアリングホイールと助手席ダッシュボードには、エアバッグが組み込まれています。正しく作動させるために次のことをお守りください。
・エアバッグの組み込まれた箇所にカバーをかけたり、ステッカーなどを貼らないでください。
・助手席側のダッシュボードの上に足や物を置いたり、立てかけたりしないでください。エアバッグがふくらむときに置いた物が飛び、ケガをするおそれがあります。
・エアバッグや近くにある部品をむやみにはずさないでください。衝突の際に作動しなくなるおそれがあります。また、誤ってエアバッグを作動させるとケガをするおそれがあります。
・喫煙中にエアバッグが作動するとケガややけどをするおそれがあります。
●ステアリングホイールやダッシュボードに近付きすぎる乗車姿勢では、作動したエアバッグによりケガをするおそれがあります。

●サイドエアバッグ



運転席および助手席のバックレスト側面（ドア側）に収納されており横からの衝撃に対してのみ、左右が独立して展開します。

⚠警 告

●シートカバーはシトロエンが推奨するものだけを使ってください。
●シートバック部にアクセサリーなどを取り付けたり貼ったりしないでください。
●ドア側に近付きすぎた座りかたをしないでください。

●カーテンエアバッグ

ドアピラー部から天井にかけて収納されており、横からの衝撃に対し前席と後席の乗員を保護するために左右が独立して展開します。

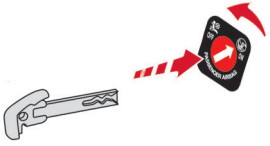
⚠警 告

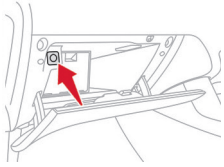
●天井やピラーにアクセサリーなどを取り付けたり貼ったりしないでください。
●天井にグリップハンドルが取り付けられている場合ははずさないでください。グリップハンドルは、カーテンエアバッグが機能するための一部になっています。

●故障しているときは

インストルメントパネルのエアバッグ警告灯が点灯します。
この警告灯が点灯したときは、衝撃を受けてもエアバッグは作動しません。
シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

●助手席エアバッグキャンセルスイッチ





チャイルドシートを進行方向とは逆向きに助手席へ取り付けるときは、助手席のエアバッグが作動しないようにします。これはエアバッグが作動してふくらんだときの衝撃からお子さまを守るためです。

ON

助手席に大人が着席しているときは、必ず助手席エアバッグキャンセルスイッチを **ON** にします。助手席エアバッグが作動します。チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに取り付けないでください。

作動中は、イグニッションをオンにすると、シートベルト着用／非着用警告ディスプレイの警告灯が約1分間点灯します。

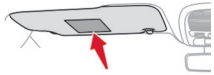
OFF

チャイルドシートを進行方向に対して後ろ向きに取り付けたときは、必ず助手席エアバッグキャンセルスイッチを **OFF** にします。助手席エアバッグは作動しません。

1. イグニッションをオフにします。
2. グローブボックスを開きます。
3. 助手席エアバッグキャンセルスイッチに緊急用キーを差し込み、 **OFF** の位置にします。
4. そのまま緊急用キーを抜きます。

キャンセル中は、イグニッションをオンにすると、シートベルト着用／非着用警告ディスプレイの警告灯が点灯します。

助手席のサンバイザーに下記の警告ラベルが貼り付けられています。



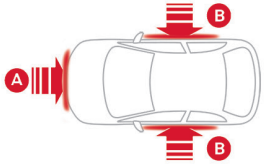


シート前方のエアバッグにより保護されるシートには、後ろ向きチャイルドシートを使わないでください。

⚠警 告

作動停止設定をしていない前側エアバッグで保護されている座席には、**絶対に**チャイルドシートを後ろ向きに装着しないでください。**お子さまの死亡**または**重症**の原因になることがあります。

●エアバッグの作動条件



A. フロント衝撃ゾーン
B. サイド衝撃ゾーン

フロントエアバッグの作動条件
フロント衝撃ゾーン **A** に、車両前方から後方へ縦方向の強い衝撃を水平に受けたときに、運転席エアバッグと助手席エアバッグが連動して作動します。
助手席エアバッグの作動を解除しているときは、助手席エアバッグは連動して作動しません。

サイドエアバッグの作動条件

サイド衝撃ゾーン B に、車両外側から内側へ横方向の強い衝撃を水平に受けたときに、衝撃を受けた側が作動します。

カーテンエアバッグの作動条件

サイド衝撃ゾーン B に、車両外側から内側へ横方向の強い衝撃を水平に受けたときに、サイドエアバッグと連動して作動します。

⚠警 告

- ●車両側面への衝撃や衝突が弱いとき、および横転、転覆したときは、エアバッグが作動しないことがあります。
- ●正面衝突したとき、または、追突されたときは、サイドエアバッグやカーテンエアバッグは作動しません。
- ●エアバッグ単独では衝撃を吸収する効果が十分ではありません。必ず、シートベルトを正しく着用してください。
- ●エアバッグ警告灯が点灯しているときは、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
- ●エアバッグシステムの改造は絶対に行わないでください。

MEMO

エアバッグは一度しか作動しません。フロントエアバッグ、サイドエアバッグやカーテンエアバッグが作動した場合は、シートや内装部材、コントロールユニットなどの交換が必要になります。事故の後は、必ずシトロエン指定サービス工場で点検や部品の交換を行ってください。

走行する前に

●タイヤの点検

空気圧の確認

タイヤの空気圧は、スペアタイヤも含めて毎月1回ないし長距離を走行する前に点検してください。
適正値は、助手席側のドアピラー部に表示されています。表示されている値は、タイヤの温度が低いときの値です。空気圧はタイヤの温度が上昇すると増加しますので、暖まっている状態で空気圧が高いからといって空気を抜かないでください。

間接式タイヤ空気圧警告灯（→ P.3-59）

車には、タイヤの空気圧に大きな変化があった場合に警告をする機能が付いています。警告灯が点灯したら、直ちに空気圧を点検してください。また、空気圧を調整した後は必ず初期化をしてください。

外観の点検

タイヤの接地面や両サイドに、著しい損傷や亀裂、釘や針金などの異物が刺さっていないかを点検してください。また、タイヤの接地面に部分的な異常摩耗がないかも点検してください。

スリップサイン

タイヤには、摩耗の限度を示すスリップサインが設けられています。タイヤの表面とスリップサインが同じ高さになったら、新品と交換してください。

使用燃料について

ガソリンは、オクタン価が95オクタン（リサーチ法）以上の無鉛ガソリンを使用してください。
ガソリンスタンドにおける公称オクタン価は安定していないので、無鉛プレミアム（ハイオク）ガソリンの使用をお勧めします。

注 意

粗悪ガソリンや有鉛ガソリン、有鉛プレミアムガソリン、アルコール含有燃料を使用しますと、エンジン・触媒装置などに悪影響を与えるので、絶対に使用しないでください。

冬季の取り扱い

●冬季用タイヤ

積雪や凍結した道路を走行するときは、安全のため冬季用タイヤを装着することをお勧めします。
冬季用タイヤに交換するときは、必ず納車時に装着されていたタイヤと同じサイズのものをご使用ください。
シトロエン販売店では、車に適した性能の冬季用スタッドレスタイヤも用意しております。
スタッドレスタイヤは、車のバランスを保つために4輪全部に装着してください。
雪道や凍結した道路では、スタッドレスタイヤでも万全ではありません。運転には十分ご注意ください。

●スノーチェーン、スノーネット

スノーチェーン、スノーネットは、タイヤサイズに合ったものを前輪に装着してください。
取り付けは、平坦な安全な場所で、それぞれの取扱説明書に従って確実に行ってください。
チェーンやネットの装着後は、100m 程度走行してゆるみや車体への当たりがないかを確認してください。
シトロエン販売店では、それぞれのタイヤに合わせた専用チェーンやネットを用意しております。

MEMO

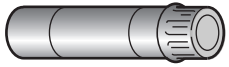
市販されているタイヤチェーンの中には、サイズが合っていても装着できないものがあります。

スタッドレスタイヤやスノーチェーンは、シトロエン販売店でお求めください。

●その他

・冬季には、バッテリーに高い負荷がかかります。バッテリーは常にフル充電にしてください。
・非常に冷え込んだ天候のときは、パーキングブレーキが凍結することがあります。温度が非常に低い日は、パーキングブレーキを解除し、シフトレバーをPに入れて輪止めをかけてください。
・ライト類や方向指示器などは、冬季は非常に汚れやすくなります。定期的に清掃するように心がけてください。
・キーシリンダーには、潤滑剤を使用して注油しておいてください。
・ドアのゴム製シールには、凍結を防ぐためにシリコン潤滑油を塗付します。
・空気取り入れ口は、いつもきれいに保つようにしてください。
・雪隔け時には特に車が汚れます。また、融雪剤には塩分を含んでいるものがあります。こまめに車全体を洗浄し、車体の下やホイールアーチ部もよく洗ってください。

保安炎筒



車室内に備え付けてあります。
踏み切りや高速道路などの危険な場所で故障したときに使用します。
使用方法は、保安炎筒に記載してあります。あらかじめよく読んでおいてください。
発炎時間は約5分間です。
保安炎筒に表示してある有効期間が切れる前に、新品をお求めになり交換してください。

⚠警 告

●お子さまに触らせないでください。いたずらなどによる発火で、思わぬ事故になるおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでの使用は危険です。また、炎を顔や体に向けるとやけどの危険があります。

⚠注 意

●非常用信号としてのみご使用ください。
●トンネル内ではハザードランプを使用してください。トンネル内で使用すると、煙により視界が悪くなり危険です。

触媒コンバーター

シトロエン C3 AIRCROSS には、日本の排気ガス基準に適合させるために、触媒コンバーターが装着されています。

●触媒コンバーター装着車についてのご注意

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンは触媒を傷めます。
- 燃料は早めに補給してください。
- ミスファイヤなどのエンジン不調のときは、運転を避け、故障箇所を直ちに修理してください。

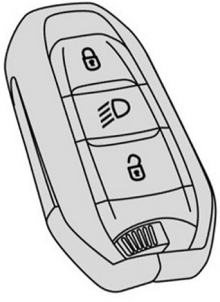
⚠警 告

長時間のエンジンの空ぶかしはしないでください。触媒コンバーターが過熱して発火、火災に至ることがあります。

第2章　各部の開閉のしかた

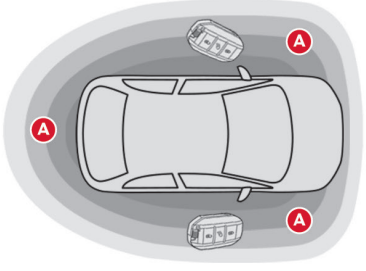
スマートキー…… 2-2
イモビライザー（盗難防止システム）…… 2-8
ドア／ドアロック／オートドアロック……2-10
テールゲート……2-13
パワーウィンドウ……2-14
チャイルドセーフティ……2-16
パノラミックサンルーフ……2-17
ボンネット……2-21
フュエルリッド（給油口）……2-22

スマートキー



スマートキーを携帯しているだけで、ドアやテールゲートの施錠・解錠やエンジンの始動ができます。
リモコンとしてボタンを使って施錠・解錠することもできます。
スマートキーには緊急用キーが付いています。

●スマートキー機能の作動範囲



スマートキー機能で施錠または解錠するときの検知エリア **A** の範囲は、車両から周囲約1m以内です。
車両周辺の検知エリア **A** にスマートキーがあれば、スマートキーを携帯していない人でもドアを操作して解錠することができます。

注 意

検知エリアにスマートキーがある場合は盗難に注意してください。

MEMO

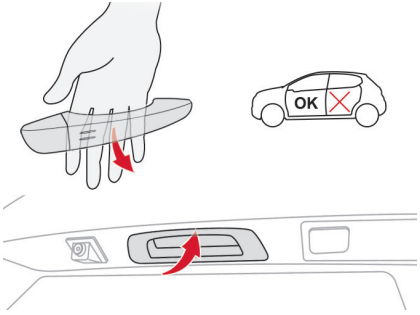
●スマートキーが車両に近付きすぎているときは作動しないことがあります。
●スマートキーは微弱な電波を使用しています。以下の場合は、正常に作動しなかったり、不安定な動作になったりすることがあります。
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話、無線機、パソコンなどの製品と一緒にスマートキーを携帯しているとき
- スマートキーが金属に接していたり、覆われたりしているとき

●解錠

リモコンを使用する

車に向けてリモコンの解錠ボタンを押します。すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。

スマートキー機能を使用する



車両周辺の検知エリアにスマートキーがあるときに、前席のドアハンドルに手を通す、またはテールゲートのスイッチを押すと、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。ドアハンドルをそのまま引くとドアを開けることができます。テールゲートのスイッチを押した場合は、テールゲートが少し開きます。

MEMO

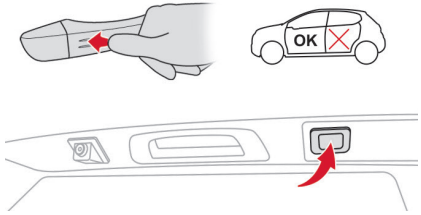
- ●解錠するとハザードランプが数秒間点滅します。ドアミラーは最初の解錠と同時に展開します。
- ●解錠した後、30秒以内にドアを開かないと、自動的に再度施錠されます。
- ●テールゲートを解錠した後は、必ずテールゲートを閉じて施錠してください。

●施錠

リモコンを使用する

車に向けてリモコンの施錠ボタンを押します。すべてのドアおよびテールゲートが施錠されます。

スマートキー機能を使用する



車両周辺の検知エリアにスマートキーがあるときに、前席のドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押します。すべてのドアおよびテールゲートが施錠されます。

MEMO

●スマートキーを携帯して車両から離れても自動的に施錠されることはありません。
●施錠するとハザードランプが数秒間点灯し、同時にドアミラーが格納します。
●以下のときは、施錠できません。
- イグニッションがオンのとき
- いずれかのドアまたはテールゲートが完全に閉まっていないとき
- スマートキーが車内にあるとき

MEMO

●長期間（3週間以上）車両を使用しないと、バッテリー消費を抑えるために、スタンバイモードとなってスマートキー機能が自動的に停止します。スマートキー機能を復帰させるには、リモコンのボタンを押すか、ステアリングコラムのリーダにスマートキーを当ててエンジンを始動してください。これは車外に保管しておいた予備キーでも同様です。
●スマートキーが家電製品の近くにあると電磁波の影響を受けて反応し、電池を著しく消耗します。これを防止するため自動的にスタンバイモードになることがあります。機能を復帰させるには、リモコンのボタンを押すか、ステアリングコラムのリーダにスマートキーを当ててエンジンを始動してください。

●スーパードアロック *

盗難防止のために、仮にガラスを壊すなどしても内側からドアロックが解除できなくなる機能です。

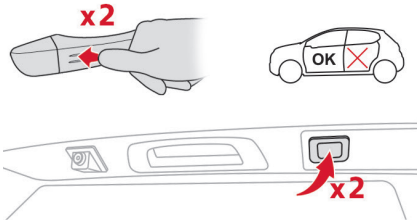
リモコンを使用する



施錠ボタンを押して、すべてのドアおよびテールゲートを施錠します。5秒以内に再度施錠ボタンを押します。

* 仕様により異なります。

スマートキー機能を使用する *



車両周辺の検知エリアにスマートキーがあるときに、前席のドアハンドルのスイッチまたはテールゲートのスイッチを押します。5秒以内に再度スイッチを押します。

緊急用キーを使用する *

緊急用キーをドアの鍵穴に入れて後方に回して施錠してから、５秒以内にもう一度回します。

MEMO

スーパードアロックをすると、ハザードランプが数秒間点灯します。

⚠警 告

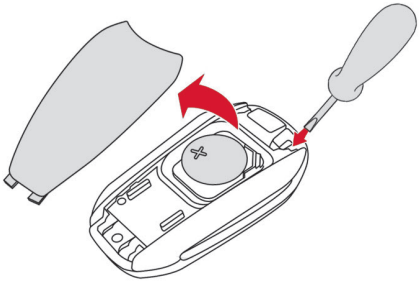
- ●車内に人がいるときは、スーパードアロックをかけないでください。車内からドアロックが解除できず、閉じ込められてしまいます。
- ●お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。思わぬ事故やケガのもととなります。

●駐車時照明機能（フォローミーホーム）

リモコンを使用する

車に向けてリモコンのフォローミーホームボタンを押すと、駐車時照明機能（フォローミーホーム）が約30秒作動します。
機能が作動している間に再度ボタンを押すと、キャンセルされます。

●電池（CR2032 3V）の交換



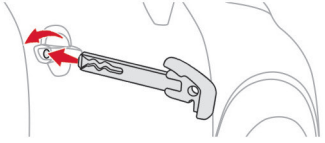
リモコンの電池が消耗すると、メッセージが表示されます。
切れ込みに細いドライバーなどを差し込んでケースを開け、電池を交換してください。

⚠警 告

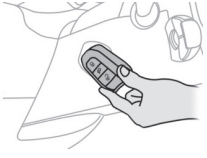
- ●電池交換の際には、お子さまが誤って飲み込むなどしないよう注意してください。
- ●リモコンの電波が心臓ペースメーカーなど医療用機器に影響をおよぼすおそれがあります。事前に医療用機器メーカーなどに確認してください。

●リモコンの初期化

電池交換の後などにリモコンが作動しなくなったら、以下の手順で初期化をしてください。



1. 運転席ドアの鍵穴に緊急用キーを差し込んで解錠します。



2. シフトレバーを **P** にします。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. ステアリングコラムのリーダにスマートキーを当てます。



5. ブレーキペダルを踏みながら、**ENGINE START/STOP** スイッチを押してエンジンを始動します。

MEMO

初期化の手順を行ってもリモコンが作動しないなど、不具合が解消しない場合は、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

MEMO

●キーナンバーのついたタグを保管しておいてください。スマートキーを紛失して、新しいスマートキーを作成する際にこの番号が必要となります。
●車を離れる際、ポケットの中などでリモコンのボタンを誤って押さないようご注意ください。気がつかないうちに車のロックが解除されてしまうおそれがあります。また、車から離れたところで何度もボタンを押すと、認識されなくなることがあります。その際は初期化をしてください。
●交換用電池はシトロエン指定サービス工場でお求めいただけます。
●環境汚染防止のため、使用済みの電池は正しく廃棄してください。

イモビライザー（盗難防止システム）

シトロエン C3 AIRCROSS には、エンジンイモビライザー（盗難防止装置）が装備されています。
これはスマートキーの内部に車を識別する装置が内蔵されており、車側とのコードが合致しないときは、エンジンの始動ができないようにするものです。

●スマートキー
車とともにお渡しするスマートキーの内部（プラスチック部分）には、車を識別する電子装置が内蔵されています。
それぞれのスマートキーは、車ごとに個別のコードが登録されています。イグニッションをオンにすると、車のイモビライザーシステムがこのコードを読み取って、エンジンの始動を可能にします。
もしコードが設定されていなかったり異なるコードのときは、エンジンを始動することはできません。
イグニッションをオフにすると、システムは直ちにエンジンをロックします。

システムに異常が発生したときは、イグニッションをオンにすると、メッセージが表示されます。エンジンは始動しません。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

注 意

●車から離れるときは、短い時間であってもスマートキーを携行してください。
●エンジンイモビライザーの改造をしないでください。故障の原因になるおそれがあります。
●スマートキーの内部には電子装置が組み込まれています。強い電磁波や高温にさらしたり、強い衝撃を与えたり、水に濡らしたりしないでください。故障の原因となります。

●スペアキー

車とともにお渡しするスペアキーにもコードが登録されています。
もし予備のスマートキーが必要なとき、あるいはスマートキーを取り替えるときには、すべてのスマートキーを登録し直す必要があります。お手持ちのすべてのスマートキーをシトロエン指定サービス工場にご持参の上、登録作業をお申し付けください。

注 意

万一、スマートキーを紛失したり盗難にあった場合は、安全のために他のスマートキーを登録し直して失ったスマートキーを無効にする（エンジンをかけられなくする）ことをお勧めします。お近くのシトロエン指定サービス工場にご相談ください。

MEMO

新しいスマートキーを購入しても、イモビライザーシステムにコードを登録しないかぎり、そのスマートキーでエンジンを始動することはできません。

ドア／ドアロック／オートドアロック

●車外からドアを開ける



P.2-2の「スマートキー」項を参照してください。

●車内からドアを開ける



内側ドアハンドルを引くと、すべてのドアのロックが解除されます。

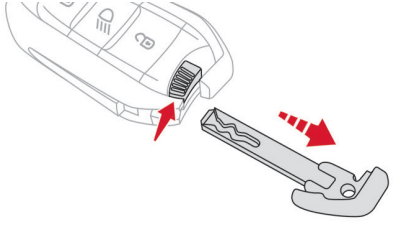
MEMO

スーパードアロックがされているときは内側ドアハンドルでは一切ドアを開けることができません。*

●半ドア警告

エンジンがかかっているときにドアを開けると、メッセージが表示されます。また、半ドア警告灯も点灯します。そのまま走行すると、時速10km以上では警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。

●緊急用キー



以下のようにスマートキーの機能が使用できないときは、運転席ドアの鍵穴に緊急用キーを差し込んで施錠／解錠します。

- スマートキーで施錠／解錠できないとき
- スマートキーの電池がないとき
- 車両が強い電磁波などを受けているとき

1. スマートキーのレバーを押して、緊急用キーを取り出します。
2. ドアの鍵穴に緊急用キーを差し込んで、車両を施錠または解錠します。

* 仕様により異なります。

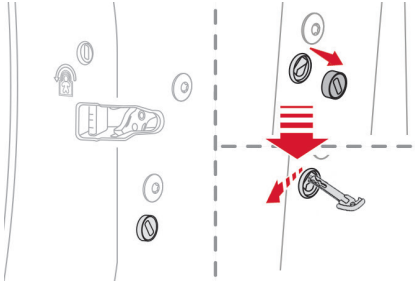
●マニュアルロック（非常時）

バッテリーが上がっているときや、バッテリーの接続をはずしているときなどで、集中ドアロックが作動しないときには次の方法でドアをロックすることができます。

前席ドア

緊急用キーをドアの鍵穴に差し込み施錠または解錠します。

後席ドア



1. チャイルドセーフティが解除されていることを確認します。
2. キーを使って、ドア端部にある穴から黒いゴムキャップをはずします。
3. キーを穴に差し込み、内側に動かしてドアをロックします。（キーは回さないでください。）
4. キーをはずし、ゴムキャップを元に戻してからドアを閉めます。

MEMO

ドアを閉める前に必ずキャップを元に戻してください。

●ドアロック／オートドアロック



ロックスイッチを押すと、車両の施錠ができます。施錠するとインジケーターが点灯します。
ドアのいずれかが開いている場合には内側からの集中ロックはできません。
解錠するときはスイッチを再度押してください。

MEMO

外側から施錠されている場合、またはスーパードアロック * がかかっている場合は、インジケーターが点滅し、ロックスイッチを押しても解錠しません。外側から施錠されている場合は、内側ドアハンドルを引いて解錠してください。スーパードアロックがかかっている場合は、キー、リモコンもしくはスマートキー機能を使って解錠してください。*

●オートドアロック機能

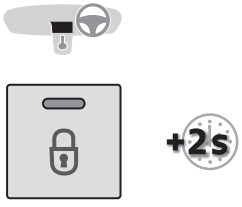
時速10km 以上で走行すると、自動的に施錠されます。
時速10km 以上で走行中にロックスイッチを押すと、ドアおよびテールゲートが一時的に解錠されます。

完全に閉まっていないドアやテールゲートがあると、オートドアロックは作動しません。時速10km 以上では、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。

MEMO

- ●テールゲートが開いたままでも、ロックスイッチを使用して集中ロックができます。
- ●車両が強い衝撃を受けると、ドアおよびテールゲートが自動的に解錠されます。

●オートドアロック機能のオン／オフ



機能をオンにするには

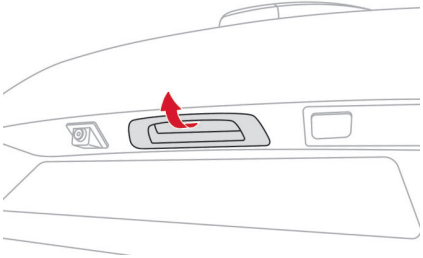
ロックスイッチを2秒以上押し続けます。
警告音とともに確認のメッセージが表示されます。

機能をオフにするには

ロックスイッチを再度2秒以上押し続けます。
警告音とともに確認のメッセージが表示されます。

* 仕様により異なります。

テールゲート



●テールゲートを開ける

P.2-2の「スマートキー」項を参照してください。

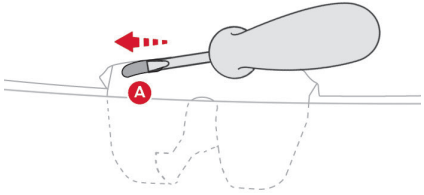
●テールゲートを閉める

テールゲート内側のハンドルを持って引き下げます。

●テールゲート閉め忘れ警告

エンジンがかかっているときにテールゲートを開けると、警告灯が点灯するとともに数秒間メッセージが表示されます。
そのまま走行すると、時速10km以上では警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。

●テールゲートが解錠しないとき



集中ドアロックシステムのトラブルなどでテールゲートが解錠できないときは、次のように行います。

1. リアシートを倒し、テールゲートの内側からロック機構にアクセスできるようにします。
2. 小さいドライバーを **A** に差し込んで中のバーを左に動かして解錠します。

MEMO

水没など予期せぬトラブルで車内に閉じ込められた場合、この方法でテールゲートを開けて脱出できます。

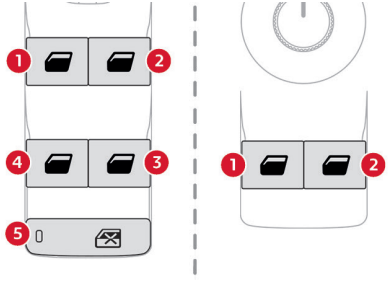
⚠警 告

- ●安全上、操作上、法律上の理由で、テールゲートを開けた状態での走行はしないでください。
- ●テールゲートを閉めるときには、指などを挟まないよう十分に注意してください。また、開閉の際はまわりの人などにぶつからないことを確認してください。
- ●テールゲートに損傷や作動不良がある場合は、すみやかにシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。テールゲートが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。

注 意

ストラットダンパーを引いてテールゲートを閉めないでください。ダンパーが変形して開閉ができなくなるおそれがあります。

パワーウィンドウ



①：助手席側ウィンドウ開閉スイッチ
②：運転席側ウィンドウ開閉スイッチ
③：後席右側ウィンドウ開閉スイッチ
④：後席左側ウィンドウ開閉スイッチ
⑤：リアウィンドウキャンセルスイッチ

●マニュアルウィンドウ開閉

スイッチを軽く押したり引いている間だけウィンドウが開閉します。スイッチから手を離すと同時にウィンドウも停止します。

●ワンタッチ開閉

スイッチを1回強く押すか引くと、スイッチから手を離しても、ウィンドウは自動的に全開閉します。

途中で止めるときは、再度スイッチを押すか引きます。

MEMO

- ●後席ドアは、開くときのみワンタッチ操作が作動します。閉めるときは、マニュアル操作のみ作動します。
- ●イグニッションをオフにしてから約45秒間パワーウィンドウの操作ができます。それ以降は、再度イグニッションをオンにしてから操作をしてください。

●挟み込み防止機能（前席ウィンドウのみ）

パワーウィンドウには、挟み込み防止機能が付いており、障害物があると上昇をやめて数センチ下降します。
冬期など氷結のために挟み込み防止機能が働いてしまい、ウィンドウを閉じることができないときは、以下のようにしてください。

1. 一度完全にウィンドウを下げます。
2. 直ちにウィンドウが完全に閉まるまでスイッチを引き続けてください。
3. ウィンドウが完全に閉まった後約1秒間、スイッチを引き続けます。

パワーウィンドウ挟み込み防止機能が機能しなくなったら、直ちにシトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

⚠注 意

操作中は挟み込み防止機能は働きません。安全に配慮してください。

●パワーウィンドウの再初期化

バッテリーをはずした後など正常に動作しないときは、以下の手順で初期化をしてください。

1. スイッチを押してウィンドウを全開にします。
2. ウィンドウを閉じる操作をします。（1回の操作で2～3cm 程度しか動きません）
3. ウィンドウが全閉するまで手順2の操作を繰り返します。
4. ウィンドウが全閉したら、さらにスイッチを1秒以上引き続けてください。

⚠注 意

初期化中は挟み込み防止機能は働きません。安全に配慮してください。

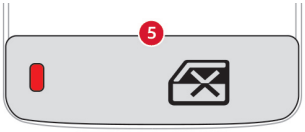
⚠警 告

- ●運転者が運転席以外のウィンドウを操作する場合は、ウィンドウを閉めるのに障害物がないか確認をしてください。
- ●ウィンドウを閉めているとき、誤って障害物などが接触したときは、直ちにウィンドウを開けてください。
- ●乗員がウィンドウを閉める際には運転者がその操作に対して注意を払ってください。
- ●お子さまにはウィンドウの操作をさせないでください。
- ●車から離れるときは、短い時間であってもスマートキーを携行してください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも50cm 以上ウィンドウやドアシールから離してご使用ください。

●リアウィンドウキャンセルスイッチ



スイッチ⑤を押すと、後席のパワーウィンドウスイッチによる操作ができなくなります。お子さまの危険防止に有効です。スイッチ⑤のインジケーターが点灯している場合は、後席での操作はできません。スイッチ⑤のインジケーターが消灯している場合は、後席での操作は可能です。

チャイルドセーフティ

●電動チャイルドセーフティ *

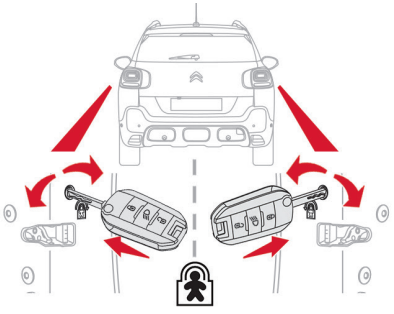


イグニッションがオンのときにスイッチを押すと、インジケーターが点灯し、メッセージが表示され、チャイルドセーフティがオンになります。車内から後席ドアを開けられなくなります。お子さまの危険防止に有効です。オフにするには、もう一度スイッチを押してください。

MEMO

- ●インジケーターが点灯／消灯以外のときは、機能に異常があります。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
- ●チャイルドセーフティは、ドアロックの作動とは別に独立して作動します。
- ●チャイルドセーフティがオンになっていても、外からドアを開けることができます。

●手動チャイルドセーフティ *



車内のドアハンドルで後席ドアを開けられなくすることができます。お子さまの危険防止に有効です。

ロック

緊急用キーをドアの端部にある赤い穴に差し込み、左側のドアは時計回りに、右側のドアは反時計回りに回します。

ロック解除

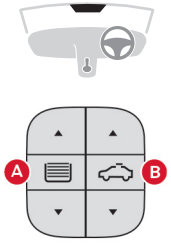
緊急用キーをドアの端部にある赤い穴に差し込み、左側のドアは反時計回りに、右側のドアは時計回りに回します。

MEMO

- ●手動チャイルドセーフティはドア端部にある赤い穴に緊急用キーを差し込みロックします。ドア端部にある黒いゴムキャップはバッテリー上がりなどのときにドアをロックするために使用します。間違えないように注意してください。
- ●チャイルドセーフティは、ドアロックの作動とは別に独立して作動します。
- ●チャイルドセーフティをかけていても、外からドアを開けることができます。

* 仕様により異なります。

パノラミックサンルーフ *



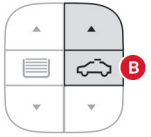
A：サンシェード開閉スイッチ
B：サンルーフ開閉スイッチ

MEMO

- ●サンルーフを開くとサンシェードが連動して開きます。ただし、サンルーフとサンシェードが閉じている状態からサンルーフをチルトアップしてもサンシェードは連動して開きません。また、サンルーフを閉じてもサンシェードは連動して閉じません。サンルーフが開いている場合は、サンシェードはサンルーフの開口部まで閉じることができます。
- ●イグニッションをオフにしてから約45秒間は、サンルーフやサンシェードの操作ができます。それ以降は、再度イグニッションをオンにしてから操作をしてください。イグニッションがオンでも、エコノミーモードに入るとサンルーフやサンシェードの操作はできなくなります。

●サンルーフ

開くとき

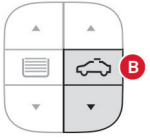


スイッチ B の後ろを1回軽く押すと、サンルーフがチルトアップした状態になります。再度、スイッチ B の後ろを1回軽く押すと、サンルーフが全開します。

スイッチ B の後ろを軽く押し続けると、押している間はサンルーフが開きます。スイッチ B から手を離すとサンルーフが停止します。

スイッチ B の後ろを1回強く押すと、サンルーフは自動的に全開します。
途中で止めるときは、再度スイッチ B を押します。

閉じるとき



スイッチ B の前を1回軽く押すと、サンルーフが閉じて、チルトアップした状態に戻ります。再度、スイッチ B の前を1回軽く押すと、サンルーフが全閉します。

スイッチ B の前を軽く押し続けると、押している間はサンルーフが閉じます。スイッチ B から手を離すとサンルーフが停止します。

スイッチ B の前を1回強く押すと、サンルーフは自動的に全閉します。
途中で止めるときは、再度スイッチ B を押します。

挟み込み防止機能

サンルーフには、挟み込み防止機能が付いており、閉作動中に障害物があるとサンルーフが止まって少し開きます。
挟み込み防止機能は時速120km 以下で走行中に機能します。

サンルーフの初期化

バッテリーをはずした後など、正常に動作しないときは、以下の手順で初期化をしてください。

1. スイッチ B の後ろを押してサンルーフを全開にします。
2. サンルーフが全開したら、さらにスイッチ B の後ろを3秒以上押し続けてください。

●サンシェード

手動で開くとき



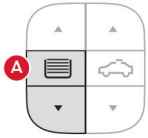
スイッチ A の後ろを軽く押している間だけサンシェードが開きます。スイッチから手を離すと同時にサンシェードも停止します。

自動で開くとき



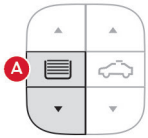
スイッチ A の後ろを1回強く押すと、サンシェードは自動的に全開します。
途中で止めるときは、再度スイッチ A を押します。

手動で閉じるとき



スイッチ **A** の前を軽く押している間だけサンシェードが閉じます。スイッチから手を離すと同時にサンシェードも停止します。

自動で閉じるとき



スイッチ **A** の前を1回強く押すと、サンシェードは自動的に全閉します。途中で止めるときは、再度スイッチ **A** を押します。

挟み込み防止機能

サンシェードには、挟み込み防止機能が付いており、閉作動中に障害物があるとサンシェードが止まって少し開きます。

サンシェードの初期化

バッテリーをはずした後など、正常に動作しないときは、以下の手順で初期化をしてください。

1. スイッチ **A** の後ろを押してサンシェードを全開にします。
2. サンシェードが全開したら、さらにスイッチ **A** の後ろを3秒以上押し続けてください。

⚠警 告

- 走行中や一時停止したときに開いたサンルーフから手や頭、ものなどを出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキや事故の際に大ケガや致命傷を負うおそれがあります。
- 走行中や一時停止したときに開いたサンルーフの端部に腰掛けたりしないでください。急ブレーキや事故の際に投げ出されるおそれがあります。
- サンルーフやサンシェードを操作するときは、障害物がないか確認をしてください。誤って接触したときは、直ちにサンルーフやサンシェードを開けてください。
- 同乗者がサンルーフやサンシェードを操作するときも十分に注意してください。
- お子さまにはサンルーフやサンシェードの操作をさせないでください。

注 意

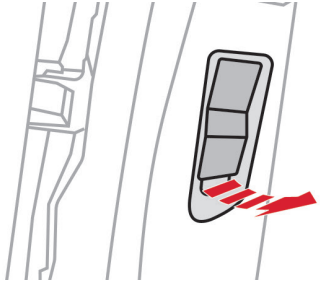
●ルーフキャリアの荷物などがサンルーフの動きを妨げないように注意してください。
●サンルーフに重い荷物などを置かないでください。
●サンルーフに雪が積もっているときは、サンルーフ上の雪を取り除いてから操作してください。故障するおそれがあります。
●サンルーフの雪を取り除くときは、車体に傷が付かないようなものを使用してください。
●サンルーフが凍結しているときは、氷などが完全に溶けるまで操作を控えてください。無理にサンルーフを動かすと破損するおそれがあります。
●洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも30cm 以上サンルーフシールから離してご使用ください。

MEMO

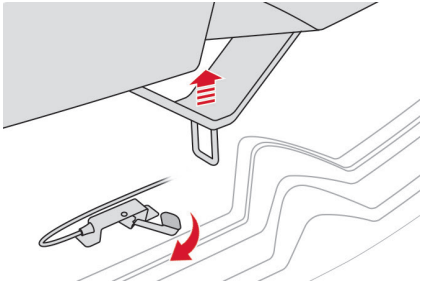
●車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉じていることを確認してください。
●雨の後や洗車後など、サンルーフが濡れているときは、サンルーフ上の水を拭き取ってから操作してください。室内に水が入ることがあります。
●サンルーフシールにゴミや汚れなどが溜まると正常に作動しなくなることがあります。常に汚れを落としてください。

ボンネット

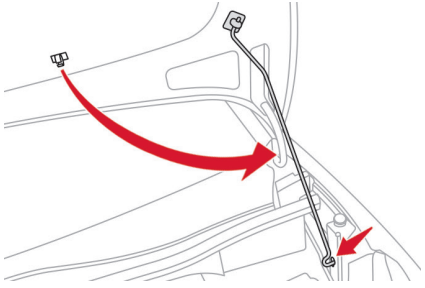
●ボンネットを開けるには



1. 助手席側ドアを開き、ドアシル部にあるレバーを引きます。



2. ボンネットの下のロックレバーを左へ動かしてから持ち上げます。



3. 支柱をキャッチに固定します。

⚠警 告

エンジンルームでどのような作業を行うときも、あらかじめストップ＆スタートの作動を解除しておいてください。エンジンが急に始動して、思わぬケガをするおそれがあります。

⚠注 意

●ボンネットを開ける操作は、必ず停車してから行ってください。
●強風時はボンネットが風であおられないようご注意ください。

ボンネットを開ける際には、6-3ページの警告をお読みください。

●ボンネットを閉めるには

支柱を元の位置に戻してからボンネットを引き下げ、下から30cm ぐらいの位置で手を離すと、重みで自然に閉まります。上から押さないでください。

⚠警 告

ボンネットを閉めた後、ロックされたことを確認してください。

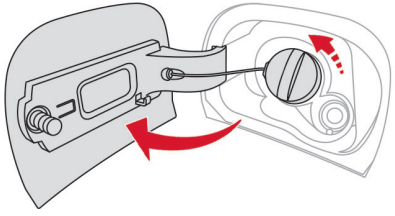
フュエルリッド（給油口）

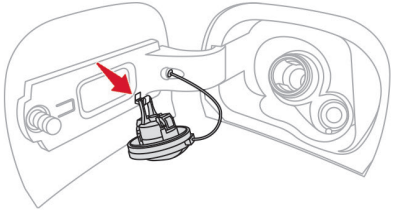


警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されたときは、燃料が少なくなっています。
警告灯が点灯した場合、残量は約5リットルです。早めに燃料を補給してください。
もし燃料をすべて使用してしまった場合、少なくとも5リットル以上は給油してください。

⚠警 告

- ●給油中はイグニッションをオフにしてエンジンを停止してください。ストップ&スタートで停止しているときに給油しないでください。
- ●給油口にあふれるまで給油しないでください。ガソリンが熱で膨張し、あふれて火災を起こすおそれがあります。
- ●給油後は、フュエルキャップが確実に閉まっていることを確認してください。





1. ドアを解錠すると、フュエルリッドも連動して解錠されます。
2. 給油フラップの後ろ側を押して開きます。
3. フュエルキャップを左（反時計方向）に回してはずします。
4. はずしたフュエルキャップは、フラップの内側にあるフックに引っかけておきます。
5. 給油ノズルを一番奥まで差し込み、給油を開始します。
6. 給油ノズルのオートストップが3回働いたら、それ以上給油口にあふれるまで給油しないでください。燃料タンクの容量は、約45リットルです。
7. 給油が終わったらノズルを抜いて、フュエルキャップを取り付けます。
8. 給油フラップを閉めます。

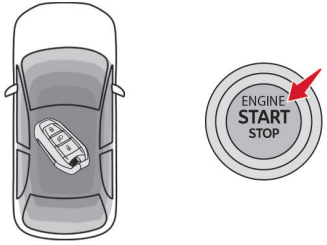
●燃料遮断装置

シトロエン C3 AIRCROSS には、衝突したときに燃料供給を停止させる安全装置が装備されています。

第3章　運転装置の使いかた

エンジンの始動……3-2
ステアリング／ホーン……3-4
パーキングブレーキ……3-5
6速オートマチックトランスミッション……3-6
シフトタイミングインジケーター……3-10
ヒルスタートアシスタンス……3-11
グリップコントロール……3-12
ヒルディセントコントロール……3-14
ストップ&スタート……3-16
ESC（エレクトロニックスタビリティ
コントロール）……3-19
ブラインドスポットモニター……3-22
レーンデパーチャーウォーニング……3-25
ドライバーアテンションアラート……3-27
アクティブセーフティブレーキ……3-30
スピードリミットインフォメーション……3-35
クルーズコントロール／スピードリミッター……3-38
フロント／バックソナー……3-44
バックカメラ（トップリアビジョン機能付き）……3-47
パークアシスト……3-51
間接式タイヤ空気圧警告……3-59

エンジンの始動



スマートキーが車内の検知エリアにあるときに、エンジンを始動および停止することができます。

⚠警 告

- ●エンジンを始動するときは、必ずパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。急発進して人や物を傷付けるおそれがあります。
- ●換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ●エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

●エンジンの始動

1. スマートキーを携帯して乗車します。
2. シフトレバーを **P** または **N** にします。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. ブレーキペダルを踏みながら **ENGINE START/STOP** スイッチを押します。
5. スターターが回り、エンジンが始動します。

MEMO

- ●エンジンの始動条件を満たしていない場合は、メッセージが表示されます。
- ●エンジン始動後は、不必要に長い時間の暖機運転は必要ありません。

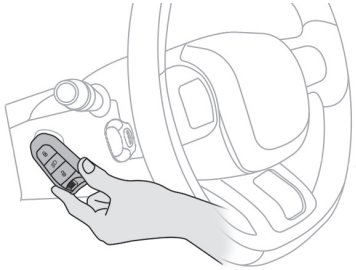
●エンジンの停止

1. 車を完全に停止します。
2. シフトレバーを **P** または **N** にします。
3. パーキングブレーキをかけます。
4. **ENGINE START/STOP** スイッチを押します。
5. エンジンが停止し、ステアリングがロックされます。

●ENGINE START/STOP スイッチの役割

スイッチの状況	運転者の操作内容	車両の動作内容
アクセサリーポジション	ブレーキペダルを踏まずに、ENGINE START/STOP スイッチを押します。スイッチを押す度に、イグニッションのオン／オフが切り替わります。	イグニッションがオンとなり、警告灯類が点灯します。しばらくの間、ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。
スタートポジション	ブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP スイッチを押します。	エンジンが始動します。ラジオやパワーウィンドウなどのアクセサリー装備が使用できます。

●エンジンの緊急始動



スマートキーが車内の検知エリアにあるにも関わらず、ENGINE START/STOP スイッチを押してもエンジンが始動しない場合は、以下の手順でエンジンを始動します。

1. シフトレバーを P または N にします。
2. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
3. ステアリングコラムのリーダにスマートキーを当てます。
4. ブレーキペダルを踏みながら ENGINE START/STOP スイッチを押します。
5. スターターが回り、エンジンが始動します。

MEMO

緊急時以外は使用しないでください。

●エンジンの緊急停止

緊急時のためにエンジンを強制的に停止することができます。

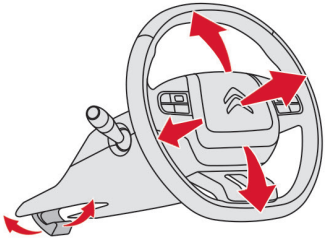
ENGINE START/STOP スイッチを約3秒間押し続けます。車両が停止すると同時にステアリングがロックされて動かなくなります。

MEMO

●緊急時以外は使用しないでください。
●スマートキーが車内にないときは、ドアを閉じるとメッセージが表示されます。車内にスマートキーがない状態でエンジンを停止しようとすると、緊急停止の操作を確認するメッセージが表示されます。
●エンジンを再始動するには、スマートキーが必要です。

ステアリング／ホーン

●チルト・テレスコピックステアリング



ロックレバーを手前に引くと、ステアリングのロックが解除されます。
ステアリングホイールの高さや奥行きを調整し、ロックレバーを押し下げてロックしてください。ステアリングがしっかり固定されていることを確かめてください。

⚠警 告

ステアリングの調整は、車を停止して行ってください。

⚠注 意

シート位置を調整してからステアリング位置を調整してください。

●ホーン



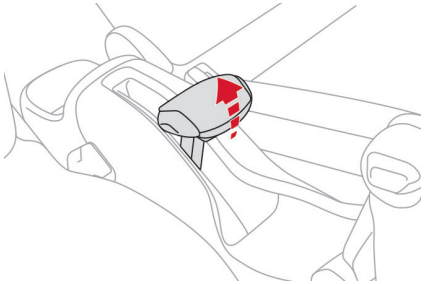
ステアリングホイールのセンターパッドを押してください。

MEMO

ホーンを使用する際には、節度を守り、差し迫った危険を感じるなどの緊急の場合に使用してください。

パーキングブレーキ

●作動

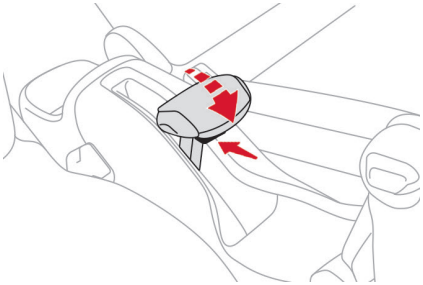


レバーを引き上げるとパーキングブレーキがかかり、同時にブレーキ警告灯が点灯します。

MEMO

坂道に駐車するときには、タイヤを路肩に斜めに当ててパーキングブレーキをかけてください。

●解除

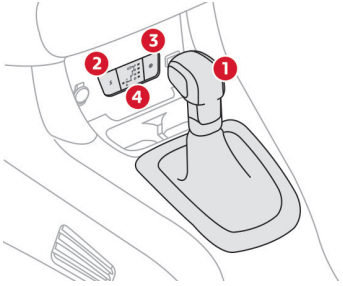


パーキングブレーキを解除するときは、レバーを少し引き上げ、ボタンを押してレバーを完全に倒します。
ブレーキ警告灯が消灯することを確認してください。

走行中に警告音とともにブレーキ警告灯と STOP 警告灯が点灯し、メッセージが表示されたら、パーキングブレーキが完全に解除されていません。直ちに安全な場所に車を停止させ、ブレーキを踏んだまま、パーキングブレーキを解除してください。

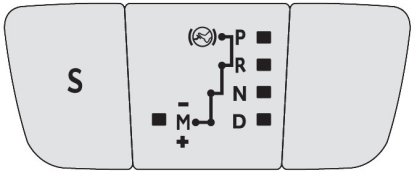
6 速オートマチックトランスミッション

●シフトゲート



①：シフトレバー
②：スポーツモードスイッチ
③：スノーモードスイッチ *
④：シフトポジション表示

●シフトポジション





シフトポジションはシフトゲート前方のパネルとインストルメントパネルに表示されます。

P. パーキング：駐車するときに使用します。
エンジンを始動できます。パーキングブレーキを併用してください。

R. リバース：後退します。

N. ニュートラル：エンジンを始動できます。パーキングブレーキを併用してください。

D. ドライブ：走行に応じて自動的にギアが切り替わります。

M. マニュアルシフトポジション：＋方向に動かすとシフトアップし、－方向に動かすとシフトダウンします。アクセルペダルを踏み込んだままシフトチェンジすることができます。

-：この表示が点灯したときは、オートマチックトランスミッションのプログラム不良です。

ブレーキ作動促進表示灯 *

この表示が現れたら、ブレーキを踏んでください。

* 仕様により異なります。

注 意

Nから**R**や**D**、**M**にシフトするときは、エンジン回転がアイドリングまで下がっていることを確認してください。

MEMO

マニュアルモードのシフト操作は、エンジン回転の許容範囲でのみ行うことができます。その範囲を超えるときは、一時的にオートマチックモードになります。

●モードセレクター

オートマチックトランスミッションでは、スポーツ、スノーの2つのモードの選択、またはスポーツのみの選択が可能です。シフトゲート前方にあるスポーツモードスイッチまたはスノーモードスイッチを押すと作動します。選択されたモードは、インストルメントパネルに表示されます。
選択したモードを解除するには、もう一度同じスイッチを押してください。

スポーツモード：エンジンのパフォーマンスを最大限に発揮する変速パターンになります。

スノーモード*：滑りやすい雪道に合わせた穏やかな変速パターンが選択されます。

●クリープ現象

停車中にシフトレバーを**D**、**R**または**M**にすると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
特にエンジン始動直後やエアコン作動時などエンジン回転が高いときには車が動こうとする力が強くなります。そのため、お子さまが乗車しているときは、エンジンを始動したままお子さまだけを残して車を離れないでください。
点検のためにエンジンをかけたまま車外に出るときは、パーキングブレーキをかけてシフトレバーを**P**に入れてください。

●キックダウン

追い越しなどで急加速したいときは、シフトレバーには手を触れずにアクセルペダルをいっぱいに踏み込んでください。シフトダウンが起こり、エンジン回転が最高に達するまでそのギアを維持し、より短い時間で加速することができます。ある一定の速度に達すると、自動的にシフトアップします。またブレーキを踏むと、エンジンブレーキを効かせるためにシフトダウンします。ただし、安全のため、急にアクセルペダルを離してもシフトアップはしません。

●エンジンブレーキ

長い下り坂などブレーキを踏み続ける状態では、**D** レンジでもより効果的にエンジンブレーキを効かせるため自動的に低いギアに切り替わりますが、状況に応じて随時、シフトレバーを **M** レンジにして低いギアを選択することができます。(たとえば **D** →**3**、**3**→**2**)

ただし、**2**から**1**への切り替えは急激な減速を伴いますので、滑りやすい道路条件（雪道や凍った道路）では十分にご注意ください。

●シフトロック

急発進防止のため、ブレーキペダルを踏んでいないと **P** からほかにレバーを動かすことはできません。

注 意

シフトレバーが P に入っているときにバッテリーが上がると、シフトロックは解除されず、レバーを動かすことができません。無理にレバーを動かすと破損するおそれがあります。



警告音とともにこの警告灯が点灯し、メッセージが表示されたときは、システムはセーフティーモードに入り、**3**（3速）に固定されて走行します。

P や **N** から **R** にシフトしたときに、大きなショックを伴うことがありますがトランスミッションを損傷することはありません。時速100km 以下の速度で走行して、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠警 告

●走行中は、シフトレバーを **N** に入れないでください。エンジンブレーキが効かなくなり、ブレーキのフェード現象が起きやすくなり事故を起こすおそれがあります。

●車から離れるときは、シフトレバーを **P** に入れてパーキングブレーキをかけてください。クリープ現象で車がひとりでに動いて、人や物に衝突するおそれがあります。
停車後、シフトレバーが **P** 以外のときにドアを開けると、警告音とともにメッセージが表示されます。また、シフトレバーが **P** 以外のときにイグニッションをオフにして約45秒経過すると、警告音が鳴ります。

●エンジンがかかっているときは、お子さまを車内に残して車を離れないでください。急発進して人や物を傷付けるおそれがあります。

⚠注 意

●エンジンを始動するときは、シフトレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。急発進して人や物を傷付けるおそれがあります。

●シフトレバーを **N** から **D** または **R** に入れるときは、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら行ってください。急発進して人や物を傷付けるおそれがあります。

注 意

車が完全に停止する前にシフトレバーを **P** や **R** に入れないでください。トランスミッションを破損するおそれがあります。

MEMO

渋滞時などエンジンをかけたまま停車する場合は、シフトレバーを **N** に入れてパーキングブレーキをかけることにより、燃料消費を抑えることができます。

シフトタイミングインジケーター*



オートマチックトランスミッションのマニュアルモードで走行中、燃費向上のためにシフトアップをうながして燃費向上のアドバイスをします。
アクセルペダルを軽く踏んで運転している状況で、システムが燃費向上の観点から現在のギアよりも1段または2段高いギアを使用した方が良いと判断した場合、インストルメントパネルに矢印のマークが表示されます。

MEMO

- ●シフトタイミングインジケーターの機能をオフにすることはできません。
- ●追い越しをするときなどアクセルペダルを強く踏み込んだときは表示されません。
- ●シフトタイミングインジケーターは、以下の変速はうながしません。
  - ・1速への変速
  - ・リバースギアへの変速
  - ・シフトダウン

⚠警 告

シフトタイミングインジケーターはあくまで燃費向上のための機能です。実際のギアシフトは運転者が周囲の交通量や安全性に応じて判断して行ってください。誤った変速は事故につながるおそれがあります。

* 仕様により異なります。

ヒルスタートアシスタンス

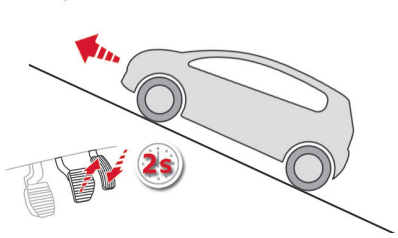
ヒルスタートアシスタンスは坂道発進を補助するための機能で、ブレーキペダルから足を離しても一定時間（ブレーキペダルからアクセルペダルまで足を移動する間）ブレーキがかかった状態を維持します。

この機能は以下の条件がすべて揃ったときに作動します。

- 坂道で車が完全に停止してブレーキペダルがしっかりと踏まれている。
- 運転席ドアが閉まっている。
- 坂道の勾配が適正である。

⚠警 告

ヒルスタートアシスタンス作動中は、車から出ないでください。やむを得ずエンジンをかけたまま駐車して車を離れるときは、パーキングブレーキをかけ、インストルメントパネルのブレーキ警告灯が点灯していることを確認してください。

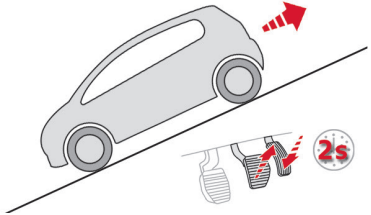


●登り坂で前方へ発進するとき

シフトレバーがDまたはMのとき、ブレーキペダルから足を離すと一定時間ブレーキがかかった状態を保ちます。

MEMO

ヒルスタートアシスタンスの機能を解除することはできません。ただし、パーキングブレーキをかけると、ヒルスタートアシスタンスの機能が一時的に解除されます。



●下り坂で後方へ発進するとき

シフトレバーがRのとき、ブレーキペダルから足を離すと一定時間ブレーキがかかった状態を保ちます。

●ヒルスタートアシスタンスの故障

ヒルスタートアシスタンスに異常が発生したときは、SERVICE警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

グリップコントロール *



グリップコントロールは、駆動輪（前輪）へのトルクを制御して車両の安定性を高める装置です。雪上、泥地、砂地などの滑りやすい路面の走行時に、それぞれの路面状況に応じた設定を行うことによって最適な効果を発揮します。
路面状況に応じて、センターコンソールにある5ポイントセレクターを操作します。
設定が変更されると、メッセージが表示されます。

●ノーマルモード（ESC のみ）



若干のホイールスピンを許す、通常の路面状況に対応したモードです。イグニッションをオンにすると自動的に**ノーマルモード**に設定されます。

●スノーモード



雪道など、発進時に駆動輪が滑りやすい路面状況に対応したモードです。
時速80km 以下で走行中に作動します。

⚠警 告

スノーモードは、あらゆる雪道での走行を可能にするものではありません。道路の規制や地域の気象条件に合わせて、適切なスノーチェーンやスタッドレスタイヤを装着し、急カーブや滑りやすい路面では慎重に運転してください。

●マッドモード



左右の駆動輪を制御して、タイヤに付着した泥を取り除き、泥地からの発進時のグリップを改善するモードです。
時速50km 以下で走行中に作動します。

●サンドモード



左右の駆動輪を適切に制御して、車両が砂に埋もれることを防止しながら走行させるモードです。
時速120km 以下で走行中に作動します。

注 意

砂地では他のモードを選択しないでください。

* 仕様により異なります。

●OFF モード



ASR システムを解除することができます。
ASR システムは、イグニッションをオフにした場合や時速50km 以上で走行すると、自動的に復帰します。

⚠警 告

●グリップコントロールは、基本的に舗装道路での走行を想定しています。障害物や飛び石などによってボディ下部にある装置（サスペンションやマフラーなど）を損傷させるようなオフロードや、急勾配かつ滑りやすい悪路、渡河などを可能にする装置ではありません。
●標準で装着されているオールシーズンタイプのタイヤを装着しているときに有効です。

MEMO

グリップコントロールを正しく作動させるには、十分なアクセルの踏み込みが必要です。エンジンが高回転になることがありますが、正常な動作です。

ヒルディセントコントロール *

ヒルディセントコントロールは、急な下り坂や滑りやすい路面を下るとき、段階的に自動でブレーキ操作を行い、一定の速度を保って走行する補助をします。
この機能は、以下の条件がすべて揃ったときに作動します。

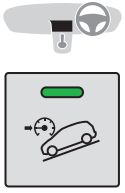
- 機能がオンのとき
- シフトレバーがR、DまたはNのとき
- 時速30km以下のとき
- アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき
- 坂道の勾配が5%以上のとき

ヒルディセントコントロールの作動中は、ストップランプが点灯します。

MEMO

ヒルディセントコントロールの作動中も、アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で走行速度を変更することができます。

●システムの作動



時速50km以下のとき、インジケーターが点灯するまでボタンを押すと、機能がオンになります。



時速30km以上のときは、インストルメントパネルの表示灯が灰色に点灯します。

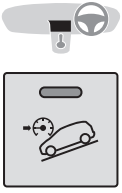


時速30km以下のとき、作動条件が揃っていない場合は、インストルメントパネルの表示灯が緑色に点灯します。走行速度の制御は行いません。



システムが作動し、走行速度の制御を行っていると、インストルメントパネルの表示灯が点滅します。

●システムの解除



インジケーターが消灯するまでボタンを押すと、機能がオフになります。
インストルメントパネルの表示灯が消灯します。時速が70km以上のときは、システムが自動で解除されます。

* 仕様により異なります。

MEMO

●イグニッションをオフにするとヒルディセントコントロールは解除されます。
●ヒルディセントコントロールの機能をオンにすると、アクティブセーフティブレーキが自動的に解除されます。

●システムの異常



システムに異常が発生したときは、表示灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠警 告

ブレーキの作動をヒルディセントコントロールのみに頼らないでください。極端な下り坂や、路面が凍結している場合や滑りやすい場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。速度の制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ストップ&スタート

ストップ&スタートには交通渋滞や赤信号などで停止しているときにエンジンを止める停止モードと、発進するときにエンジンをかけるスタートモードがあります。
エンジンの始動は瞬時で騒音もなく、都市部での使用において燃費と排出ガスの削減を可能にします。

●停止モードへの移行

以下のときに停止モードに移行します。

- 停止中にブレーキペダルを踏んだとき
- 停止中にシフトレバーを **N** に入れたとき

エンジンが停止すると、インストルメントパネルの表示灯が点灯します。

タイマーが停止時間の積算を行います。時間は、イグニッションをオンにする度にゼロにリセットされます。

⚠警 告

停止モードのまま給油しないでください。必ず **ENGINE START/STOP** スイッチを押してエンジンを停止してください。

MEMO

●車庫入れなど、**R** からギアを入れ替えたときは、エンジンは数秒間停止モードになりません。
●停止モードによって、ブレーキの効きやパワーステアリングに影響が出ることはありません。

●停止モードにならないとき

以下のときは、エンジンは停止モードになりません。

- 坂道の勾配が急なとき
- 運転席ドアが開いているとき
- 運転席のシートベルトが締められていないとき
- ENGINE START/STOP スイッチを押してエンジンを始動してから時速10km を超えていないとき
- エアコンが曇り取りモードのとき
- 車内の温度を快適に保つためにエンジンの運転が必要なとき
- 充電その他エンジンの運転がシステム上必要なとき



インストルメントパネルの表示灯が数秒間点滅して消灯しますが、異常ではありません。

●スタートモードへの移行

以下のときにスタートモードに移行します。

- シフトレバーを D か M にしてブレーキペダルを放したとき
- シフトレバーが N でブレーキペダルを放し、シフトレバーを D か M に入れたとき
- シフトレバーを R に入れたとき



エンジンが始動すると、インストルメントパネルの表示灯が消灯します。

●自動的にスタートモードになるとき

以下のときは、運転者への注意喚起や制動力の確保、バッテリー電圧の維持などのためにエンジンが自動的にスタートモードになります。

- 運転席のドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトをはずしたとき
- 時速3km を超えているとき
- 充電その他エンジンの運転がシステム上必要なとき



インストルメントパネルの表示灯が数秒間点滅して消灯しますが、異常ではありません。

●ストップ&スタートの作動と解除

ストップ＆スタートの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。
設定を変更するとメッセージが表示されます。

注 意

停止モードのときに作動を解除すると、直ちにエンジンが始動します。

MEMO

エンジンを始動すると、システムは作動状態になります。

●ストップ&スタートの故障

システムに故障が発生したときは、メッセージが表示されることがあります。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
停止モードのときに故障した場合は、警告灯が点灯してエンジンが始動しません。イグニッションをオフにしてからエンジンを始動してください。

●点検時の注意点

エンジンルームでどのような作業を行うときも、あらかじめストップ&スタートの作動を解除しておいてください。エンジンが急に始動して、思わぬケガをするおそれがあります。

また、このシステムではストップ＆スタート専用に設計されたバッテリーを使用しています。不適当なバッテリーの使用はシステムの故障につながります。バッテリーの交換はシトロエン指定サービス工場にご相談ください。

ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール）

ESC は急なハンドル操作や急ブレーキ時および滑りやすい路面の走行時などに、次の機能を総合的に制御して運転を補助し車両の安定性を高めます。

- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- EBFD（電子式制動力制御装置）
- EBA（ブレーキアシスト）
- ASR（トラクションコントロール）
- DSC（ダイナミックスタビリティコントロール）

●ABS（アンチロックブレーキシステム）

電子式制動力制御装置（EBFD）を備えた ABS システムは、ホイールがロックしそうになると ABS が作動して、滑りやすい路面での操縦安定性を向上させます。

●EBA（ブレーキアシスト）

ブレーキアシストシステムは、急ブレーキ時のペダルの動きに応じて作動し、ブレーキの効きを最大限に高めて停止距離を短縮する装置です。

●ASR(トラクションコントロール)

路面状況に応じた制御をすることによって、急加速時のホイールスピンを防止して、車の走行安定性を向上させる機能です。

●DSC（ダイナミックスタビリティコントロール）

4輪のブレーキとエンジン出力を自動的に制御することによって、旋回時の前輪または後輪の横滑りを防止する機能です。

MEMO

- ●イグニッションをオンにしたまま、ホイールやタイヤ交換などの作業を行い、シャフトを回転させると、メモリに故障情報が入力されて ABS 警告灯が点灯する場合があります。シトロエン指定サービス工場にご相談ください。
- ●ABS や EBA が作動するとブレーキペダルが振動することがありますが、正常な作動であって故障ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ●凍結した路面や砂地などのオフロードを走行するときは、ASR システムを解除してください。

●システムの異常



この警告灯が点灯したときは ABS の機能に異常があります。ブレーキをかけたときに車のコントロールを失う可能性があります。通常のブレーキは機能します。注意して速度を下げて走行し、直ちにシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。





警告灯とともにこれらの警告灯が点灯し、メッセージが表示されたときはブレーキシステムに異常があります。直ちに停車してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

⚠警 告

ABS や EBA は、どのような状況下でも制動距離を短くする装置ではありません。路面の摩擦によっては、かえって制動距離が伸びることがありますので、滑りやすい路面では慎重に運転してください。
この装置は、正しい仕様のタイヤを適正な状態で使用したときに効果を発揮します。

●ASR ／ DSC システムの作動

エンジンを始動すると、ASR ／ DSC システムは自動的に作動可能状態になります。車両の走行安定性に問題が生じたときは、システムが作動して車両を制御します。

ASR ／ DSC システムが作動すると、この警告灯が点滅して運転者に注意を促します。

●ASR システムの解除

雪道や泥道で動けなくなったときなどに、ある程度ホイールスピンをさせてタイヤの接地力を回復させる必要が発生します。このようなときに、手動で ASR システムの解除ができます。

タッチスクリーンで解除する *

ASR システムの解除は、タッチスクリーンで設定します。

ASR システムを解除するとメッセージが表示され、運転者に ASR システムが停止したことを知らせます。

グリップコントロールスイッチで解除する *



グリップコントロールスイッチを **OFF** の位置へ回すと ASR システムが解除されます。

ASR システムを解除するとメッセージが表示され、運転者に ASR システムが停止したことを知らせます。

* 仕様により異なります。

●ASR システムの復帰

解除したシステムは、次の状態で自動的に復帰します。

・ イグニッションをオフにする。
・ 時速50km 以上で走行する。
・ 手動で復帰させるときは、タッチスクリーンで設定するか *、グリップコントロールスイッチ * を OFF 以外の位置に回します。

ASR システムが復帰するとメッセージが表示されます。

●ASR ／ DSC システムの異常



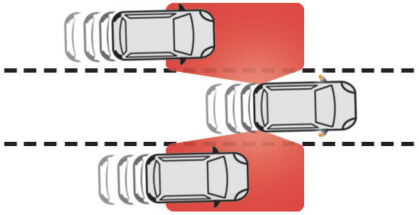
システムに異常が発生したときは、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

⚠警 告

●ASR ／ DSC システムは、通常の運転状況下において安全性を向上させるもので、オーバースピードや危険な運転を補正する装置ではありません。急カーブや滑りやすい路面では、従来と同じく慎重に運転してください。この装置は、タイヤやホイール、ブレーキ部品、電子部品などの仕様が正しく、かつシトロエン指定サービス工場で適正な整備や修理を受けた状態で使用したときに効果を発揮します。事故の後や大きな衝撃を受けたときは、シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

●この装置は、正しい仕様のタイヤを適正な状態で使用したときに効果を発揮します。

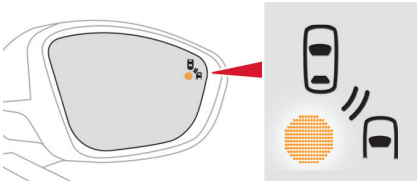
ブラインドスポットモニター



ブラインドスポットモニターは、ドアミラーでの確認が困難な範囲に他車が進入した際に、その存在を検知して運転者に警告するシステムです。

⚠警 告

このシステムは安全確認を補助するための装備であり、ルームミラーやドアミラーの代わりではありません。運転者の責任の下で、道路状況、他車との距離、相対速度を必ず確認し、車線変更などを行ってください。



他車を検知した側のドアミラーに警告灯が点灯します。

- 自車が追い越しをされる場合は、追い越そうとする車がブラインドゾーンに進入した直後に点灯します。
- 自車が追い越しをする場合は、追い越してから約1秒後に点灯します。

●システムの作動

ブラインドスポットモニターの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。

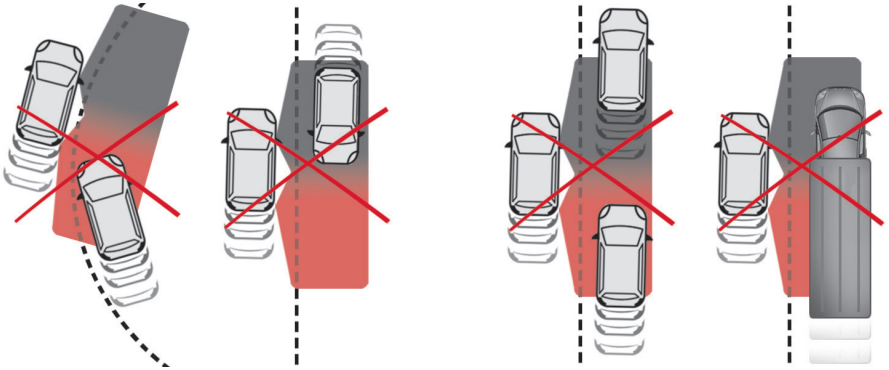
ブラインドスポットモニターが作動すると、インストルメントパネルの表示灯が点灯します。作動を解除すると、表示灯が消灯し、メッセージが表示されます。

MEMO

イグニッションをオフにしても、システムの作動／解除の設定は保持されます。

以下の条件を満たすとき、車両を検知してドアミラーの警告灯が点灯します。

- 自車を含めた周囲すべての車が同じ方向に走行している
- 時速12km 以上で走行している
- 追い越しをしている場合、他車との速度差が時速10km 未満
- 追い越される場合、他車との速度差が時速25km 未満
- 道路状況が混雑していない
- 追い越しをしている場合、追い越し状態が継続していて、かつ追い越された車両が依然としてブラインドゾーンにある
- 直線またはゆるやかなカーブを走行している
- トレーラーなどをけん引していない



以下の物や状況の場合、警告灯は点灯しません。

- 静止している物（駐車している車、壁、街灯、道路標識）
- 自車とは逆方向に走行している車
- 曲がりくねった道や角度のきついカーブを走行しているとき
- 大型車を追い越す（または追い越される）とき
  （大型車の先頭部分が運転者の視界にあり、かつ大型車の後方部分がブラインドゾーンにあることを検知したとき）
- 道路状況が混雑しているとき
  （前方の車とブラインドゾーンにある車を同時に検知するため、システムは大型車と判断がつかない）
- 急速に追い越すとき

●システムの故障



システムに異常が発生したときは、表示灯が点滅した後に消灯するとともに、SERVICE 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

⚠警 告

●ドアミラーにある警告ゾーン、フロントバンパーおよびリアバンパーにあるセンサーをステッカーなどで覆わないでください。システムの妨げとなり、正常に機能しません。
●悪天候や冬期には、泥や氷雪などでセンサーが覆われないように注意してください。

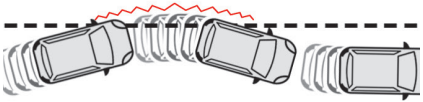
注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも30cm 以上フロントバンパーおよびリアバンパーにあるセンサーから離してご使用ください。

MEMO

●システムは雨や雪などの天候に左右される可能性があります。
●濡れた路面を走行しているときに、霧状の水しぶきなどを誤って検知することがあります。

レーンデパーチャーウォーニング



レーンデパーチャーウォーニングは、カメラが走行車線の車線マーカーを検知し、時速60km 以上で走行中に、車両のふらつきから運転者の注意力が低下していると判断すると警告を表示するシステムです。



レーンデパーチャーウォーニングが車両のふらつきを検知すると、警告音とともに警告灯が点滅します。

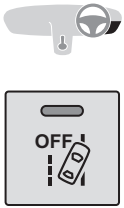
⚠警 告

レーンデパーチャーウォーニングは、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意や雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。前方に注意し安全運転に努めて走行してください。安全の確保は運転者の義務です。

MEMO

- 方向指示器が作動している間は警告を表示しません。
- レーンデパーチャーウォーニングは、高速道路や自動車専用道路などで走行しているときの使用が効果的です。

●レーンデパーチャーウォーニングの作動と解除



運転席側のダッシュボードのスイッチを長く押すと、スイッチのインジケーターと警告灯が点灯し、レーンデパーチャーウォーニングが解除されます。
再度スイッチを押すと、スイッチのインジケーターと警告灯が消灯し、作動が再開します。

MEMO

エンジンを始動するとシステムは作動状態になります。

⚠警 告

●以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。
- 車線マーカーが検知しにくいとき（不明瞭、汚れや雪などで隠れている）
- カメラの前のフロントウィンドウに泥や雪、汚れなどが付着しているとき
- 消された車線マーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき
- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けたとき
- トンネルの出入り口など、明るさに急な変化があったとき

●フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警 告

●フロントウィンドウ上部のカメラ付近をステッカーなどで覆ったり、物を置いてカメラの視界を遮らないでください。システムの妨げとなり、正常に機能しません。

●ルーフ上に積載した荷物などがカメラの視界を遮らないように注意してください。

●冬期に、ルーフやボンネットに雪が積もっているときは取り除いてください。

●フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。

●天候や乗車状況によってはフロントウィンドウのウィンドウガラスが曇ることがあります。ウィンドウガラスが曇るとカメラが正常に作動しません。エアコンの曇り取り機能を使用してウィンドウガラスの曇りを取り除いてください。

●傷んだり汚れたフロントワイパーは視界を妨げ、カメラが正常に作動しません。常にワイパーブレードが良好な状態であることを確認してください。

●システムの異常



システムに異常が発生したときは、表示灯が点滅した後に点灯するとともに、SERVICE 警告灯が点灯します。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

ドライバーアテンション アラート

ドライバーアテンションアラートには以下の２つの機能が備わっています。
・ 連続運転警告
・ 疲労検知システム

⚠警 告

ドライバーアテンションアラートは、運転時間やハンドル操作から運転者の疲労増加や注意力の低下を検知し、運転者へ休憩をとるように促すシステムです。疲労時の運転を補助するものではありません。システムを過信せず、十分に休憩をとり、安全運転に努めて適切なハンドル操作をしてください。

●連続運転警告

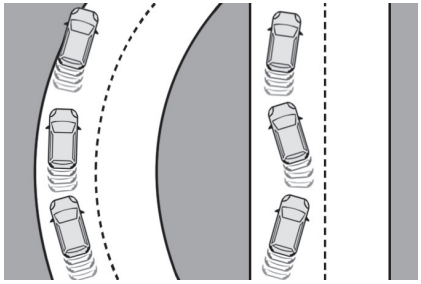
連続運転警告は、運転者が休憩をとらずに時速65km 以上で2時間以上走行したとシステムが検知したとき、警告音とともにメッセージを表示し、運転者に休憩をとるように促します。

連続運転警告は、次のような対処が行われるまで、1時間おきに警告を表示します。
・ エンジンがかかっている状態で、15分以上停止した
・ イグニッションをオフにして数分間経過した
・ 運転席のシートベルトをはずしてドアを開けた

MEMO

時速65km 以下で走行しているときは走行時間として積算されません。

●疲労検知システム



疲労検知システムは、フロントウィンドウ上部のカメラで走行車線の車線マーカーを検知し、車両のふらつきから運転者の疲労増加や注意力の低下を判断し、警告音とともにメッセージを表示して運転者に休憩をとるように促します。
高速道路や自動車専用道路など、時速65km 以上で走行しているときの使用が効果的です。



疲労検知システムが車両のふらつきを検知すると、警告音とともにメッセージを表示します。走行状態が改善されない場合、4回目の警告からは異なる警告音とともにメッセージが表示されます。

MEMO

路面の状態が悪い道路の走行中や、強い風が吹いているときなどは、運転者の疲労の増加や注意力の低下の程度に関わらず、警告を表示することがあります。

●システムの作動と解除

ドライバーアテンションアラートの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

イグニッションをオフにしてもシステムの設定の記憶は残ります。

⚠警 告

以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けたとき
- 路面の水たまりの反射光が強いとき
- トンネルの出入り口など、明るさに急な変化があったとき
- カメラの前のフロントウィンドウに泥や雪、汚れなどが付着しているとき
- 車線マーカーが検知しにくいとき（不明瞭、汚れや雪などで隠れている）
- 消された車線マーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき
- 前方の車両に近付きすぎたとき
- 細く曲がりくねった道路を走行するとき

⚠警 告

●フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●フロントウィンドウ上部のカメラ付近をステッカーなどで覆ったり、物を置いてカメラの視界を遮らないでください。システムの妨げとなり、正常に機能しません。
●ルーフ上に積載した荷物などがカメラの視界を遮らないように注意してください。
●冬期に、ルーフやボンネットに雪が積もっているときは取り除いてください。

⚠警 告

●フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。
●天候や乗車状況によってはフロントウィンドウのウィンドウガラスが曇ることがあります。ウィンドウガラスが曇るとカメラが正常に作動しません。エアコンの曇り取り機能を使用してウィンドウガラスの曇りを取り除いてください。
●傷んだり汚れたフロントワイパーは視界を妨げ、カメラが正常に作動しません。常にワイパーブレードが良好な状態であることを確認してください。

アクティブセーフティブレーキ





アクティブセーフティブレーキは、フロントウィンドウ上部のカメラにより同じ方向に走行している前方の車両や停車中の車両、歩行者を検知し、衝突の危険性が高まったとき、警告を表示して運転者に注意を促します。また、運転者が衝突回避動作を取らなかったときは、自動ブレーキを作動させることで車両の速度を落とし、衝突の回避支援、または衝突時の速度を低減するシステムです。
システムは時速5km 以上で走行すると作動を開始します。

アクティブセーフティブレーキには以下の3つの機能が備わっています。
・ ディスタンスアラート
・ エマージェンシーブレーキ
・ インテリジェントエマージェンシーブレーキアシスト

⚠警 告

●アクティブセーフティブレーキは、どのような状況下でも衝突を回避できるシステムではありません。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な車間距離を保って走行してください。安全の確保は運転者の義務です。
●ブレーキの作動をアクティブセーフティブレーキのみに頼らないでください。衝突事故を起こすことがあります。常に車間距離に注意して走行し、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。

⚠警 告

●アクティブセーフティブレーキは、以下のようなときは、前方の車両、歩行者を検知しないことがあります。
- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けたとき
- 路面の水たまりの反射光が強いとき
- トンネルの出入り口など、明るさに急な変化があったとき
- カメラの前のフロントウィンドウに泥や雪、汚れなどが付着しているとき

⚠警 告

●以下のようなときは、アクティブセーフティブレーキを解除してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トレーラーなどをけん引しているとき
- ルーフ上に長い荷物を積んでいるとき
- エンジンを始動したまま自走式の洗車機を使用するとき
- 点検などで車両をローラーに乗せて走行しているとき
- エンジンを始動した状態でけん引されるとき
- スペースセーバータイヤを装着して走行しているとき
- フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたとき
- ストップランプが故障しているとき

MEMO

●アクティブセーフティブレーキは、以下の車両などは検知しません。
- 対向車線を走行している車両
- 前方を横切って通過する車両
- 自転車、オートバイ、動物
- 路上の落下物

●システムが前方の車両などを検知すると、自動ブレーキの作動準備による作動音がしたり、減速するように感じられることがありますが、異常ではありません。

●ディスタンスアラート

前方の車両との車間距離や走行車線に進入した歩行者との距離が設定した警告時間を下回ると警告を表示します。

ディスタンスアラートの警告表示機能



警告レベル1：設定した警告時間を下回っているときに、警告が表示されるとともにメッセージが表示されます。



警告レベル2：警告レベル1の状態が持続し、さらに前方の車両との接近状況から、そのままでは衝突に至ると判断されたときは、警告が表示されるとともに警告音が鳴り、メッセージが表示されます。

MEMO

●ディスタンスアラートの警告は、車間距離だけではなく自車両および前方の車両の速度差や自車両の運転操作の状態、旋回中かどうかなどの情報を総合して表示されます。
●自車両の接近速度が高いとき、警告レベル1を経ずに警告レベル2が表示されることがあります。

警告時間の設定

警告を開始する時間の設定は、タッチスクリーンで行います。

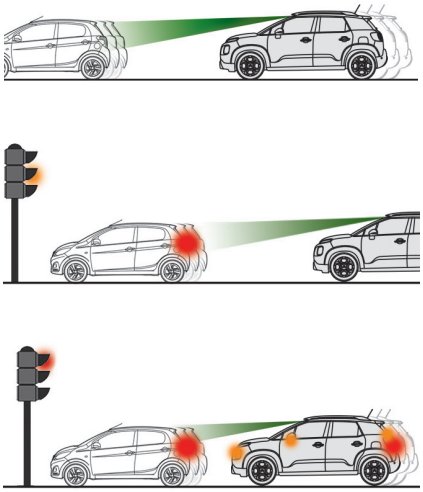
警告時間は以下の3種類から選択できます。

- **長い**：早めに警告が表示されます。
- **標準**：標準的な警告時間です。
- **短い**：やや遅れて警告が表示されます。

MEMO

●警告時間を**短い**に設定すると、警告レベル1を経ずに警告レベル2が表示されます。
●イグニッションをオフにしても、警告時間の設定の記憶は残ります。

●エマージェンシーブレーキ



ディスタンスアラートの警告が表示された後も運転者が衝突回避動作を取らなかったとき、自動ブレーキが作動し、衝突回避を支援したり、衝突時の速度を低減します。

エマージェンシーブレーキの作動中は、警告灯が点滅します。

動作条件

エマージェンシーブレーキは以下のときに作動します。

- 時速5km ～時速85km で走行中に、走行中の前方車両を検知したとき
- 時速80km 以下で走行中に、停車中の前方車両を検知したとき
- 時速60km 以下で走行中に、歩行者を検知したとき
- ASR システムが解除されていないとき
- ESC システムが正常に作動しているとき
- 乗員全員がシートベルトを着用しているとき
- 直線道路を一定の速度で走行しているとき

⚠注 意

エマージェンシーブレーキによる自動ブレーキで車両が停止すると、車両が停止してから約2秒後にブレーキが自動的に解除されます。ブレーキペダルを踏んでクリープ現象による車の発進を防止してください。

MEMO

●次のようなときは、システムによるブレーキの作動が解除されます。
- アクセルペダルを踏み込んだとき
- ハンドルを大きく、または素早く切ったとき

●運転者がハンドル操作をしているとき、アクセルペダルを踏んでいるときは、エマージェンシーブレーキの作動開始タイミングが遅れたり、作動しない場合があります。
●自動ブレーキの作動中はストップランプが点灯します。
●エマージェンシーブレーキが作動するとブレーキペダルが振動することがありますが、正常な作動であって故障ではありません。
●エマージェンシーブレーキにより自動ブレーキが作動中であっても、運転者が回避操作を行ったり、ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだりすることで、衝突を回避する効果が高まります。

●インテリジェントエマージェンシーブレーキアシスト

運転者のブレーキ操作が不十分で、衝突の危険があるときは自動ブレーキが作動します。

MEMO

インテリジェントエマージェンシーブレーキアシストは運転者がブレーキ操作を行ったときにのみ作動します。

●システムの作動と解除

アクティブセーフティブレーキの作動と解除は、タッチスクリーンで設定します。

システムを解除すると、警告灯が点灯します。

MEMO

エンジンを始動すると、システムは作動状態になります。

3

●システムの異常



システムに異常が発生したときは、警告音とともに警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

MEMO

事故の後や大きな衝撃を受けるとシステムが自動的にオフになります。シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。

⚠警 告

●フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●フロントウィンドウ上部のカメラ付近をステッカーなどで覆ったり、物を置いてカメラの視界を遮らないでください。
システムの妨げとなり、正常に機能しません。

●ルーフ上に積載した荷物などがカメラの視界を遮らないように注意してください。

●冬期に、ルーフやボンネットに雪が積もっているときは取り除いてください。

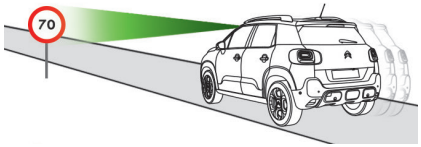
⚠警 告

●フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラやレーダーが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。

●天候や乗車状況によってはフロントウィンドウのウィンドウガラスが曇ることがあります。ウィンドウガラスが曇るとカメラが正常に作動しません。エアコンの曇り取り機能を使用してウィンドウガラスの曇りを取り除いてください。

●傷んだり汚れたフロントワイパーは視界を妨げ、カメラが正常に作動しません。常にワイパーブレードが良好な状態であることを確認してください。

スピードリミットインフォメーション

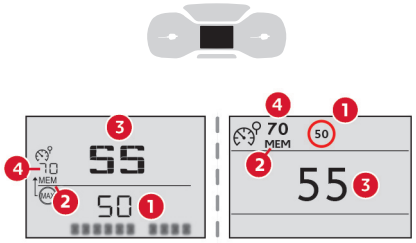


スピードリミットインフォメーションは、カメラが車両の速度規制標識を認識して、インストルメントパネルに制限速度を表示する機能です。
インストルメントパネルに表示された制限速度は、クルーズコントロールやスピードリミッターの走行速度に設定することができます。

⚠警 告

スピードリミットインフォメーションが正しく作動するために、スピードメーターの速度の単位は必ず km/h 表示を使用してください。誤って mph 表示（マイル）にすると、正確な速度を認識できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

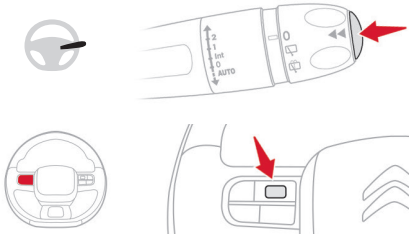
●インストルメントパネルの表示



タイプ1　　タイプ2

スピードリミットインフォメーションの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。

①：速度規制標識の制限速度表示
②：速度設定可能表示
③：現在のスピード表示
④：設定スピード表示



インストルメントパネルがタイプ1の場合は、ワイパーレバーの先端のスイッチを数回押す、またはステアリングスイッチの左側のダイヤルを回すとスピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を表示することができます。

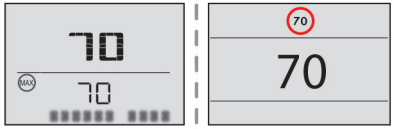
●制限速度の表示



スピードリミットインフォメーションは作動していますが、認識した速度規制標識はありません。



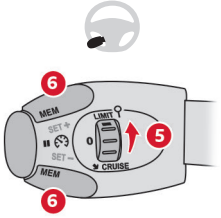
スピードリミットインフォメーションが速度規制標識を認識し、制限速度を表示しました。



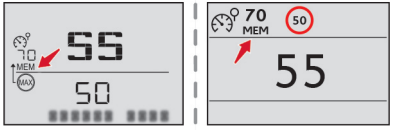
スピードリミットインフォメーションが認識した制限速度をクルーズコントロールやスピードリミッターの走行速度に設定することができます。

●速度の設定

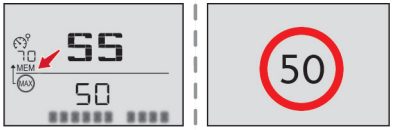
インストルメントパネルに表示された制限速度は任意でクルーズコントロールやスピードリミッターの走行速度に設定することができます。



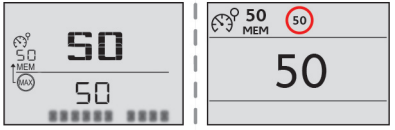
1. 速度を設定したい機能に合わせ、コントロールレバーのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ⑤を回します。



2. スピードリミットインフォメーションが速度規制標識を認識し、制限速度を表示したら、**MEM** が点滅します。



3. コントロールレバーのスイッチ⑥を押して、表示された制限速度を設定速度として受け付けます。



4. 再度コントロールレバーのスイッチ⑥を押して設定速度を記憶します。

MEMO

- 認識された速度制限と現在の設定速度の差が時速9km 以下のとき、**MEM** は表示されません。
- 道路状況により異なる制限速度が連続して表示されることがあります。

●スピードリミットインフォメーションの作動と解除

スピードリミットインフォメーションの作動／解除は、タッチスクリーンで設定します。
インストルメントパネルがタイプ1の場合は、スピードリミットインフォメーションが作動すると、インストルメントパネルに **MAX** と表示されます。

⚠警 告

●スピードリミットインフォメーションは、法定速度を守った走行や、安全運転を支援する機能です。システムを過信せず、運転者の責任の下で速度規制標識を確認し、走行速度には十分注意してください。
●速度規制標識の角度や配置、汚れ、気象条件（雨、雪、光など）によっては、カメラが速度規制標識を正しく読み取ることができなかったり、制限速度を表示しない場合があります。
●以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。
- 視界が悪いとき（周囲が十分に明るくない、雪、雨、霧など）
- フロントウィンドウが汚れている、曇っている、雪が積もっている、ステッカーを貼っている、カメラ部分が覆われているとき
- カメラが故障したとき
- 速度規制標識が車、立木、汚れなどによって見えにくいとき
- 速度規制標識が損傷するなどしていて見えにくいとき

⚠警 告

●以下のような個別の状況に応じて規制された速度制限は認識されません。
- 悪天候（雨、雪など）
- 大気汚染
- トレーラーなどのけん引
- スペースセーバータイヤやスノーチェーンを装着しての走行
- パンク修理キットで応急修理をしたタイヤでの走行

●フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●フロントウィンドウ上部のカメラ付近をステッカーなどで覆ったり、物を置いてカメラの視界を遮らないでください。システムの妨げとなり、正常に機能しません。
●ルーフ上に積載した荷物などがカメラの視界を遮らないように注意してください。
●冬期に、ルーフやボンネットに雪が積もっているときは取り除いてください。

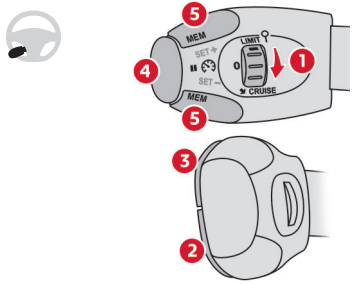
⚠警 告

●フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。
●天候や乗車状況によってはフロントウィンドウのウィンドウガラスが曇ることがあります。ウィンドウガラスが曇るとカメラが正常に作動しません。エアコンの曇り取り機能を使用してウィンドウガラスの曇りを取り除いてください。
●傷んだり汚れたフロントワイパーは視界を妨げ、カメラが正常に作動しません。常にワイパーブレードが良好な状態であることを確認してください。

クルーズコントロール／スピードリミッター

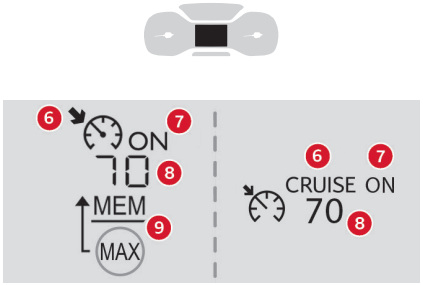
クルーズコントロールは、ドライバーによって時速40km 以上で設定された速度（シフトレバー **D**、またはマニュアルモード2速以上）を、アクセルペダルを踏まなくても道路の状態にかかわりなく常に一定に保って走行する機能です。
スピードリミッターは、あらかじめドライバーが設定した速度（最低時速30km 以上）を超えて走行しないようにする機能です。設定速度以上にアクセルペダルを踏み込んでも加速しません。

●クルーズコントロール



クルーズコントロールは、コントロールレバーのスイッチを使用して設定します。
①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：速度設定／設定速度の減少
③：速度設定／設定速度の増加
④：システムの一時停止／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付

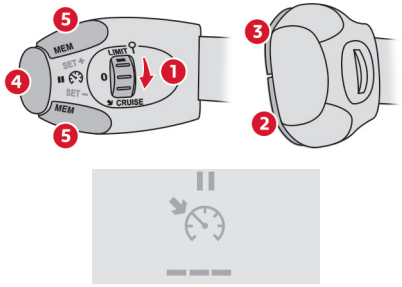
●表示パネル



クルーズコントロールの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。

⑥：クルーズコントロール選択表示
⑦：クルーズコントロールオン／オフ状況表示
⑧：設定スピード表示
⑨：スピードリミットインフォメーションオン／オフ状況表示

●クルーズコントロールの設定



コントロールレバーのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ①を **CRUISE** 側に回すと、クルーズコントロール機能が使用可能になりますが、速度は設定されていません。**O**または **LIMIT** の位置に回すとオフになります。

●走行速度の設定



希望する速度（時速40km 以上）で走行中にコントロールレバーのスイッチ②か③を押すと、その速度が記憶されて自動的にその速度を維持して走行します。
スピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を、スイッチ⑤の操作で走行速度に設定することができます。詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

⚠警 告

クルーズコントロールを過信せず、走行速度には十分注意してください。

MEMO

クルーズコントロールを使用中でも、アクセルペダルを踏んで加速することができます。その際、速度の表示が点滅します。アクセルペダルから足を離すと元の速度で走行します。
急な下り坂など、アクセルペダルを踏まなくても設定の速度を超えてしまう場合にも速度表示が点滅します。



●設定速度の変更

定速走行中に、スイッチ②を押すと設定速度が減少し、スイッチ③を押すと増加します。短く押すと1km／hずつ、長く押すと5km／hずつ速度が変化します。
またはアクセルペダルを踏んで加速した後にコントロールレバーのスイッチ②か③を押すと、あらためてその速度にセットされます。

●設定速度の解除

スイッチ④を押すか、ブレーキペダルを踏むと、クルーズコントロールが解除されます。また、ESCが作動したときにも解除されます。
解除後、再度スイッチ④を押すと最後の設定速度に戻ります。

●設定速度の消去

イグニッションをオフにしたり、スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチをOにすると設定速度の記憶が消去されます。

●システムの異常

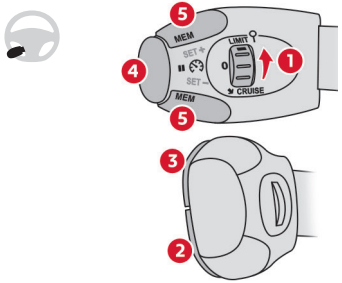


速度表示が消えてーが点滅しているときは、システムに異常があります。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠警 告

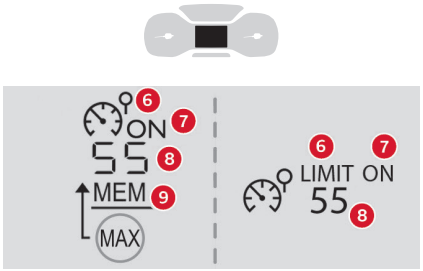
●スイッチ②または③を押し続けて速度を変更するとき、急加速または急減速することがありますので十分注意してください。
●交通量が多い道路や滑りやすい路面では、クルーズコントロールを使用しないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
●クルーズコントロールシステムを作動させている場合においても、適切な車間距離を保って走行してください。前を走行している車両との車間距離を適切に保つのは、運転者の義務です。
●クルーズコントロールシステムを使用しない場合には、クルーズコントロール機能をオフにしてください。誤ってシステムが働いてしまうのを防止します。
●道路状況や交通状況に応じた車速を設定してください。誤った速度設定は事故につながるおそれがあります。

●スピードリミッター



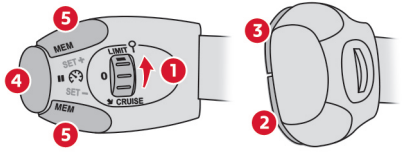
スピードリミッターは、コントロールレバーのスイッチを使用して設定します。
①：スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ
②：設定速度の減少
③：設定速度の増加
④：システムの一時停止／復帰
⑤：スピードリミットインフォメーションの表示速度受付

●表示パネル



スピードリミッターの情報は、インストルメントパネル内のディスプレイに表示されます。
⑥：スピードリミッター選択表示
⑦：スピードリミッターオン／オフ状況表示
⑧：設定スピード表示
⑨：スピードリミットインフォメーションオン／オフ状況表示

●スピードリミッターの設定





コントロールレバーのスピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチ①を **LIMIT** 側に回すと、スピードリミッター機能が使用可能になり、設定速度が表示されます。
イグニッションをオフにしたり、スピードリミッター／クルーズコントロール切り替えスイッチを**O**または **CRUISE** にするとシステムはオフになりますが、設定速度の記憶は残ります。

●最高速度の設定

コントロールレバーのスイッチ②か③を押して、希望する速度を設定します。スイッチ②を押すと設定速度が減少し、スイッチ③を押すと増加します。
短く押すと1km／hずつ、長く押すと5km／hずつ速度が変化します。
スピードリミットインフォメーションが認識した速度規制標識の制限速度を、スイッチ⑤の操作で走行速度に設定することができます。詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

●スピードリミッターの作動



スイッチ④を押すと、スピードリミッターが作動します。アクセルペダルを踏み込んでもその速度以上では走行しません。再度スイッチ④を押すと、解除されます。

⚠警 告

スピードリミッターを過信せず、走行速度には十分注意してください。

MEMO

スピードリミッターが作動中でも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むことで一時的に加速することができます。その際、速度の表示が点滅します。また、急な下り坂など、アクセルペダルを踏まなくても設定速度を超えてしまう場合は、警告音とともに速度の表示が点滅します。
これらの場合、スピードリミッターは一時的に解除されます。車速が設定速度まで戻ると、スピードリミッターは再度作動します。

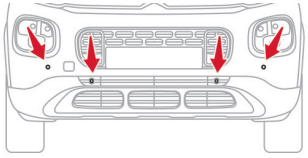


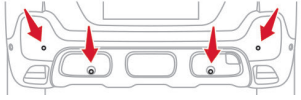
●システムの異常



速度表示が消えてーが点滅しているときは、システムに異常があります。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

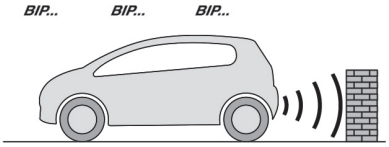
フロント／バックソナー





フロント／リアバンパーに埋め込まれたセンサーが障害物（歩行者、車、立木、門など）を検知します。
システムは、エンジン回転中にシフトレバーを **R** に入れると作動します。シフトレバーを **R** 以外に入れると、システムは解除されます。
以下のとき、フロントソナーは作動を停止します。

- 時速10km 以上のとき
- 前進方向で3秒以上停止したとき
- 障害物が車両前方の検知範囲から出たとき





フロント／バックソナーは、警告音と表示の色で運転者に車両と障害物とのおおよその距離をお知らせします。
障害物に接近すると、警告音の頻度が上がり、およそ30cm 以内に接近すると連続した警告音に変わります。
表示の色は、障害物までのおおよその距離を表示します。

- 白色のバー：遠い
- 橙色のバー：近い
- 赤色のバー：とても近い（危険を表すアイコンが表示されます）

●フロント／バックソナーの設定

フロント／バックソナーの機能をオン／オフするには、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

イグニッションをオフにしても、システムのオン／オフの設定は保持されます。

● システムの異常



この機能に異常が発生したときは、シフトレバーを R に入れると、警告音とともに SERVICE 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警 告

●障害物の形状によってはセンサーが検知できないことがあります。システムを過信せず、目視で障害物の有無を確認してください。
●以下のようなときは、センサーが障害物を検知しないことがあります。
- センサーが検知することが困難な範囲に障害物があるとき、または一度検知した障害物が、センサーが検知することが困難な範囲に入ったとき
- 他の車両のホーン、オートバイやトラックのエンジン音、ドリルなど、騒音の大きいものが近付いたとき
- 綿や雪などの音波を吸収しやすいもの（着用している衣類の種類によっては、人を検知できないことがあります）
- 路面に雪や落ち葉が積もっているとき
- フロント／リアバンパーに衝撃を受け、センサーの設置位置がずれるなどしたとき
- 車両姿勢が傾いたとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）

⚠ 警 告

●フロント／リアバンパーに衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●フロント／リアバンパーのセンサーが、泥や雪などで覆われていると障害物の検知ができません。常に汚れを落としてください。

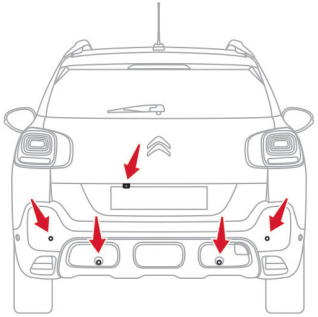
注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも30cm 以上フロントバンパーおよびリアバンパーにあるセンサーから離してご使用ください。

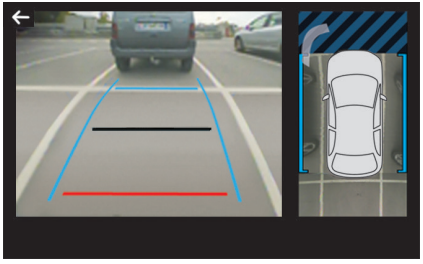
MEMO

- ●シフトレバーを **R** に入れたときに、長い警告音が鳴る場合は、フロント／リアバンパーのセンサーに泥や雪、汚れなどが付着していないか確認してください。
- ●フロント／リアバンパーの真下付近は検知しません。
- ●けん引するときや自転車用リアキャリアを装着しているときは、システムを解除する必要があります。

バックカメラ（トップリアビジョン機能付き）

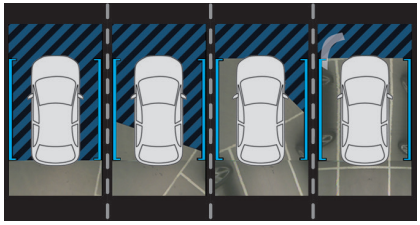






テールゲートのカメラ、およびリアバンパーに埋め込まれたセンサーがタッチスクリーンに車両周囲の映像を映し出し、駐車や出庫の際の安全確認を補助します。
タッチスクリーンの画面は左右2分割され、左側にバックビュー、右側にトップリアビジョンが表示されます。

●トップリアビジョン

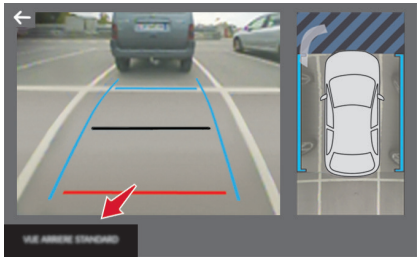


トップリアビジョンは、テールゲートのカメラの映像を合成して表示します。駐車や出庫の際に、車両周辺の障害物を確認できます。
バックビューに連動して作動します。

MEMO

- ●長時間車を停止させていると、トップリアビジョンの映像がオフになることがあります。
- ●作動直後は、正しい映像を表示するまでに時間がかかることがあります。

●バックビュー



バックビューは、テールゲートのカメラが車両後方の映像を映し出します。オートモードで作動し、リアバンパーに埋め込まれたセンサーが周囲の状況を検知し、自動で**スタンダード**と**ズームビュー**を切り替えます。
また、以下のタッチスクリーンの操作で、**スタンダード**、**180°ビュー**または**ズームビュー**に切り替えることができます。

1. タッチスクリーン左下のアイコンにタッチします。
2. タッチスクリーンにタッチして切り替えたい映像の種類を選択します。

●バックビューの作動

バックビューは、シフトレバーが**R**で、時速10km以下のときに作動します。

バックビューは、以下のときに解除になります。

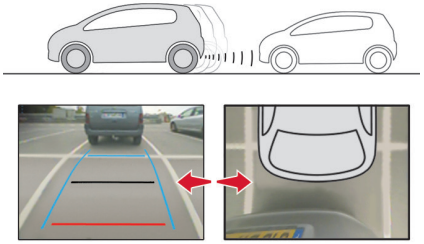
- シフトレバーを**R**以外に入れたとき
- 時速10km以上のとき
- テールゲートを開けたとき
- タッチスクリーン左上の←にタッチしたとき

MEMO

シフトレバーを R 以外に入れても、約7秒間はカメラの映像が保持されます。

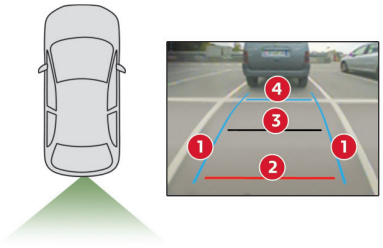
●バックビューの表示

オートモード



リアバンパーに埋め込まれたセンサーが周囲の状況を検知し、障害物が赤いライン（リアバンパーの後方約30cm）に近付くと自動で**スタンダード**から**ズームビュー**に切り替えます。

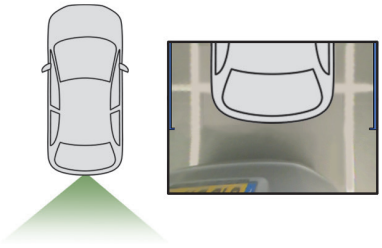
スタンダード



車両後方の映像がタッチスクリーンに表示されます。
映像には距離や車幅の目安となるラインが表示されます。

- 縦の青いライン①：ドアミラーを除いた車幅の目安です。ハンドル操作と連動しています。
- 赤いライン②：バンパーの後方約30cmの目安です。
- 黒いライン③：パンパーの後方約1mの目安です。
- 横の青いライン④：パンパーの後方約2mの目安です。

ズームビュー

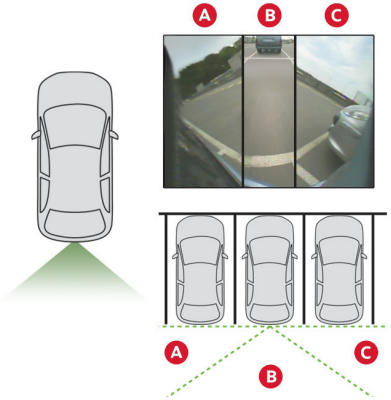


テールゲートに取り付けられたカメラが、タッチスクリーンに車両を上から見たような映像を映し出します。

MEMO

タッチスクリーンの映像は、車や障害物などが実際より遠くに見えることがあります。必ず目視やミラーで確認をしてください。

180° ビュー



垂直駐車から後退して出るときに、左右から近付く車、自転車や歩行者の映像を左方向 **A**、後方 **B**、右方向 **C** に分けて映し出します。

⚠警 告

画面だけを見ながら運転操作をしないでください。必ず目視やミラーで確認をしてください。

⚠警 告

●バックカメラは運転を補助する機能です。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な操作をしてください。安全の確保は運転者の義務です。
●バックカメラの映し出す映像を過信せず、必ず目視やミラーでの確認も行ってください。
●フロント／リアバンパーに衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラやセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●フロント／リアバンパーのセンサーが、泥や雪などで覆われていると障害物の検知ができません。常に汚れを落としてください。
●カメラに泥や雪などが付着すると映像の映りが悪くなります。常に汚れを落としてください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも30cm 以上カメラやセンサーから離してご使用ください。

MEMO

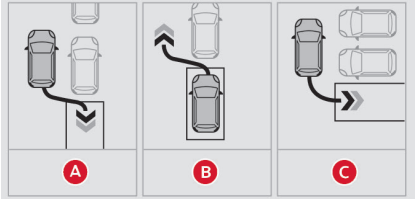
●カメラレンズの特性により映像がゆがむことがあります。
●気象条件などにより、映像が見えにくくなることがあります。また、夜間など暗い場所では画質が低下します。

パークアシスト

パークアシストは、センサーによって駐車可能なスペースを検知し、自動的にステアリング操作を行います。
運転者は画面に表示された指示に従って、アクセルペダル、ブレーキペダルおよびシフトレバーの操作を行います。駐車スペースによっては、数回切り返しを行うことがあります。
また、パークアシストは以下の条件では作動しません。

・けん引しているとき
・運転席側ドアが開いているとき
・時速70km 以上で走行しているとき

パークアシストでは、以下の3種類の駐車および発進を行うことができます。



A：縦列駐車する
B：縦列駐車から発進する
C：垂直に駐車する

⚠警 告

●パークアシストは運転を補助する機能です。システムを過信せず、安全運転に努めて適切な操作をしてください。安全の確保は運転者の義務です。
●パークアシストの作動中、後退または前進するときは、車両の後方や前方、および周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。
●センサーは、小さな障害物を検知しないことがあります。必ず目視での確認も行ってください。
●以下のような状況では、駐車位置や切り返し位置を適切に調整できないことがあります。運転者が必ず目視での確認を行ってください。必要に応じてパークアシストを中止し、運転者の操作で駐車してください。
  • 駐車禁止区域、工事中などにより路面の状態が悪い場所、溝や穴など地面より低いところがある場所（駐車に適さない場所を駐車可能スペースと判断することがあります）

⚠警 告

- 駐車スペースが角度のきついカーブ付近にある
- 駐車スペースが広すぎる場所
- 駐車スペースに縁石などの段差や突起物、木やポールなどの幅の狭い障害物がある
- センサーが検知することが困難な範囲に障害物がある、または一度検知した障害物が、センサーが検知することが困難な範囲に入った
- 綿や雪などの音波を吸収しやすい障害物がある（着用している衣類の種類によっては、人を検知できないことがあります）
- フロント／リアバンパーに衝撃を受け、センサーの設置位置がずれるなどした
- 車両姿勢が傾いた

⚠警 告

●以下のようなときは、パークアシストを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 駐車スペースの側面に穴や溝、崖などがあるとき
- 自車両の外形寸法からはみ出すような積載物（スキーなど）を積んでいるとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が不足しているとき
- スペースセーバータイヤを装着しているとき
- 正しい仕様のタイヤを装着していないとき
- フロント／リアバンパーに損傷があるとき
- フロント／リアバンパーにアクセサリーを取り付けたとき
- カメラが故障したとき
- シトロエン指定サービス工場以外でフロント／リアバンパーの塗装や塗装面の修復を行ったとき
- シトロエン純正以外のセンサーを取り付けたとき
- 凍結したり、滑りやすい路面
- トレーラーなどをけん引しているとき

●以下のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- 路面に雪や落ち葉が積もっているとき
- 他の車両のホーン、オートバイやトラックのエンジン音、ドリルなど、騒音の大きいものが近付いたとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）

⚠注 意

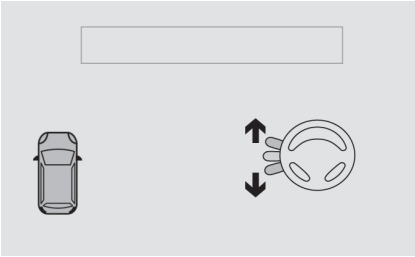
自動操作によってステアリングホイールが速く動くことがあります。スポーク部に手を入れたり、ステアリングホイールに巻き付くようなものは、遠ざけてください。

MEMO

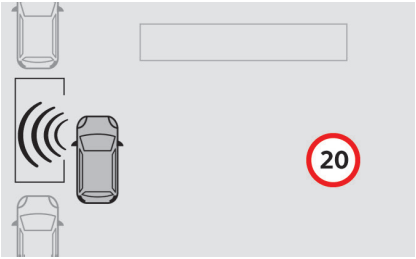
- ●パークアシストは切り返しを4回まで行います。4回の切り返しでも正しく駐車（発進）できなかった場合は、手動で操作してください。
- ●パークアシストが駐車可能スペースを測定しているときは、フロント／バックソナーは作動しません。
- ●パークアシストがステアリングアシストを行っているときは、バックカメラ（トップリアビジョン機能付き）、フロント／バックソナーが自動的に作動します。
- ●パークアシストの作動中は、ブラインドスポットモニターは作動しません。
- ●パークアシストの作動中は、ストップ＆スタートは作動しません。ストップ＆スタートの停止モードのときにパークアシストを作動すると、直ちにエンジンが始動します。

●縦列駐車する

1. 駐車できそうな場所の手前で停止します。
2.  タッチスクリーンのアイコンにタッチします。
3. **ドライビング機能**にタッチします。
4. **パークアシスト**にタッチします。
5. **縦列駐車**にタッチします。



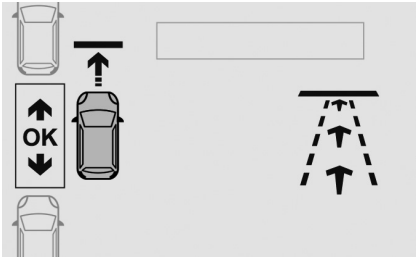
6. 方向指示器で、駐車スペースがある方向を指定します。



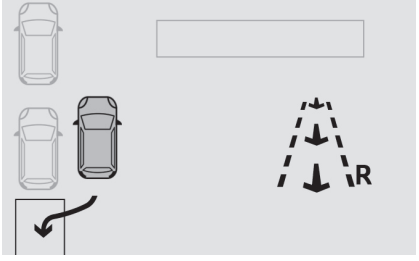
7. タッチスクリーンの指示に従って、ゆっくり（時速20km 以下）前進します。

注 意

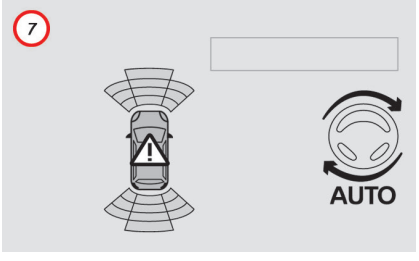
駐車されている車両との間の距離を0.5m ～1.5m とって走行してください。



8. センサーが駐車可能かどうか測定します。前進の表示が消えチャイムが鳴るまで前進を続けてください。



9. 車を止め、シフトレバーを **R** に入れます。



10.アクセルペダルを踏み、ゆっくり（時速7km 以下）後退します。
11.自動的にステアリング操作が行われます。ステアリングから手を離してください。



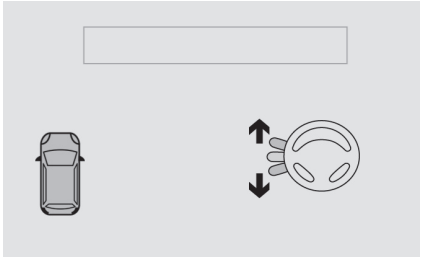
12.駐車が完了すると自動的にパークアシストが終了します。

MEMO

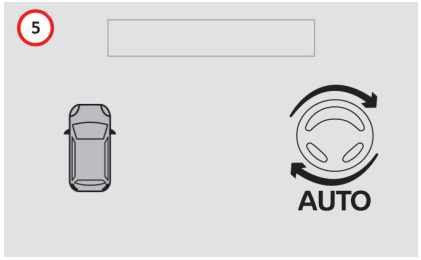
切り返しが必要な場合は前進や後退の指示が表示されます。画面に従ってシフトレバーとアクセルペダルの操作を行ってください。前進や後退をする度に自動的にステアリングが操作されます。

●縦列駐車から発進する

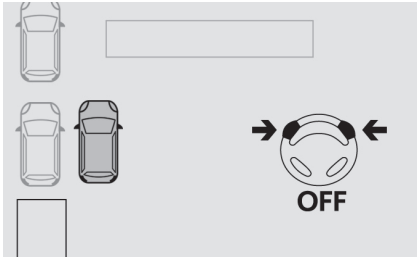
1.  タッチスクリーンのアイコンにタッチします。
2. **ドライビング機能**にタッチします。
3. **パークアシスト**にタッチします。
4. **縦列駐車から出る**にタッチします。



5. 方向指示器で、発進する方向を指定します。



6. アクセルペダルを踏み、ゆっくり（時速5km 以下）前進します。
7. 自動的にステアリング操作が行われます。



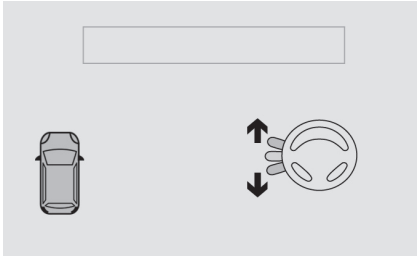
8. 駐車スペースから出ると自動的にパークアシストが終了します。

MEMO

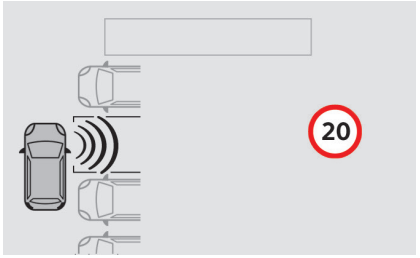
切り返しが必要な場合は前進や後退の指示が表示されます。画面に従ってシフトレバーとアクセルペダルの操作を行ってください。前進や後退をする度に自動的にステアリングが操作されます。

●垂直に駐車する

1. 駐車できそうな場所の手前で停止します。
2.  タッチスクリーンのアイコンにタッチします。
3. **ドライビング機能**にタッチします。
4. **パークアシスト**にタッチします。
5. **並列駐車**にタッチします。



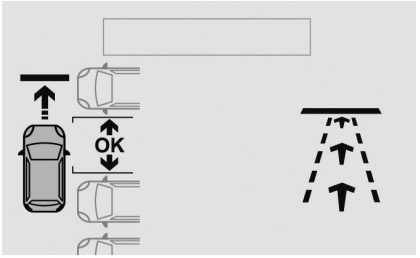
6. 方向指示器で、駐車スペースがある方向を指定します。



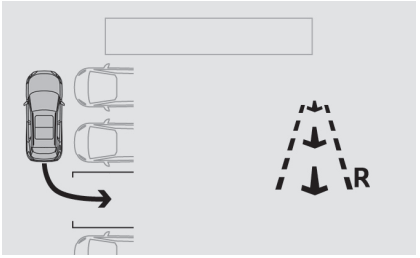
7. タッチスクリーンの指示に従って、ゆっくり（時速20km 以下）前進します。

注 意

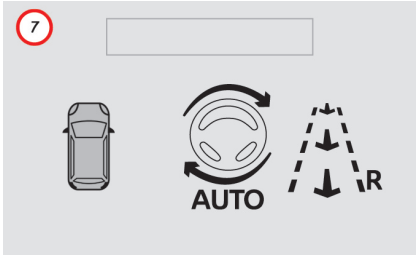
駐車されている車両との間の距離を0.5m～1.5mとって走行してください。



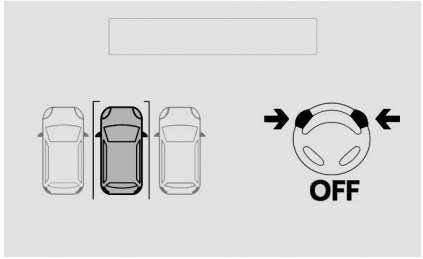
8. センサーが駐車可能かどうか測定します。前進の表示が消えチャイムが鳴るまで前進を続けてください。



9. 車を止め、シフトレバーを **R** に入れます。



10.アクセルペダルを踏み、ゆっくり（時速7km 以下）後退します。
11.自動的にステアリング操作が行われます。ステアリングから手を離してください。



12.駐車が完了すると自動的にパークアシストが終了します。

MEMO

切り返しが必要な場合は前進や後退の指示が表示されます。画面に従ってシフトレバーとアクセルペダルの操作を行ってください。前進や後退をする度に自動的にステアリングが操作されます。

●パークアシストの解除

パークアシストの動作中にタッチスクリーン左上の←にタッチするとパークアシストを解除できます。
また、以下のときには、パークアシストが自動的に解除されます。

- イグニッションをオフにしたとき
- エンジンが停止したとき
- 駐車方法を選択してから5分以上運転操作が行われなかったとき
- 長時間車を停止させているとき
- ASR システムが作動したとき
- 速度が制限を超えたとき
- 運転者がステアリング操作を行ったとき
- 4回切り返しを行ったとき
- 運転席側ドアが開いたとき
- フロントタイヤへの衝撃が検知されたとき

●システムの異常



システムに異常が発生したときは、警告音とともに SERVICE 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

STOP

パワーステアリングに異常がある場合には、STOP 警告灯が点灯するとともにメッセージが表示されます。直ちに安全な場所に車を停止させ、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

⚠警 告

●フロント／リアバンパーに衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラやセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●フロント／リアバンパーのセンサーが、泥や雪などで覆われていると障害物の検知ができません。常に汚れを落としてください。
●カメラに泥や雪などが付着すると映像の映りが悪くなります。常に汚れを落としてください。

注 意

洗車場などで高圧洗浄する場合、洗浄ノズルを少なくとも30cm 以上カメラやセンサーから離してご使用ください。

MEMO

●駐車可能スペースと自車両の距離が離れている場合は、駐車スペースの測定ができないことがあります。
●駐車可能スペースが広すぎるとセンサーが正確に距離を測定できません。また、システムはスペースの中央に車両を誘導しますので、2台分以上のスペースがあるときは、手動で位置を修正する必要があります。
●自車両の外形寸法からはみ出すような積載物（スキーなど）を積んでいる場合は、取りはずしてください。
●カメラレンズの特性により映像がゆがむことがあります。
●気象条件などにより、映像が見えにくくなることがあります。また、夜間など暗い場所では画質が低下します。
●駐車や発進の際、バックカメラ（トップリアビジョン機能付き）を併用することをお勧めします。

間接式タイヤ空気圧警告

ESC システムが検知しているタイヤの回転に関する情報をもとにして、タイヤの空気圧に大きな変化があった場合に、警告をする機能です。

この機能は、以下のような状況のときに正常に作動します。
・ 初期化がされている。
・ 時速5km 以上の速度で走行している。

警告音とともに間接式タイヤ空気圧警告灯が点灯し、メッセージが表示された場合はすみやかに停止し、タイヤの空気圧を確認して必要な処置をしてください。

MEMO

●タイヤの空気圧に20%以上の変化があった場合に警告灯が点灯します。
●異常が検知された場合は、8分以内に警告灯が点灯します。

●間接式タイヤ空気圧警告システムの初期化

タイヤの空気圧を調整したり、ホイールを変更したりした場合は、必ず間接式タイヤ空気圧警告機能を初期化してください。

1. タッチスクリーンのアイコンにタッチします。
2. **ドライビング機能**にタッチします。
3. **タイヤ空気圧警告　初期化**にタッチします。
4. **Yes** にタッチします。

MEMO

スノーチェーンの脱着については、その都度初期化する必要はありません。

⚠注 意

●初期化を行う前に、すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
●間接式タイヤ空気圧警告機能は、初期化時の空気圧が適正であるかどうかを検知することはできません。

●システムの異常

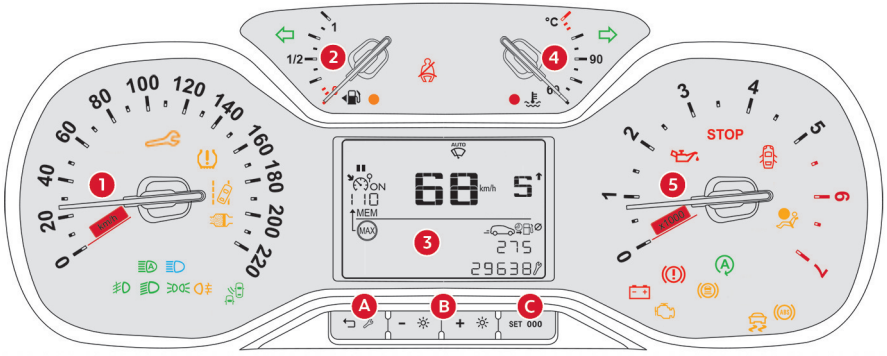
間接式タイヤ空気圧警告システムに異常が発生した場合は、間接式タイヤ空気圧警告灯が点滅後に点灯します。また、警告音とともに **SERVICE** 警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

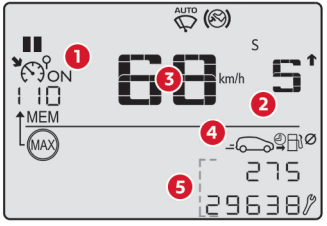
第4章　メーター・ライト・ワイパー装置の使いかた

インストルメントパネル……4-2
警告灯類／表示灯類……4-5
冷却水温度計……4-15
エンジン油量インジケーター……4-16
サービスインジケーター……4-17
オドメーター／トリップメーター……4-19
マニュアルチェック……4-20
インストルメントパネルの調整（明るさ調整）……4-20
ライト類（ヘッドランプ、フォグランプ、方向指示器、ハザードランプ）……4-20
ワイパー／ウォッシャー……4-30
ドライブコンピューター……4-34

インストルメントパネル

●タイプ1





メーター

1. アナログスピードメーター
2. 燃料計
3. ディスプレイ
4. 冷却水温度計
5. タコメーター

ボタン

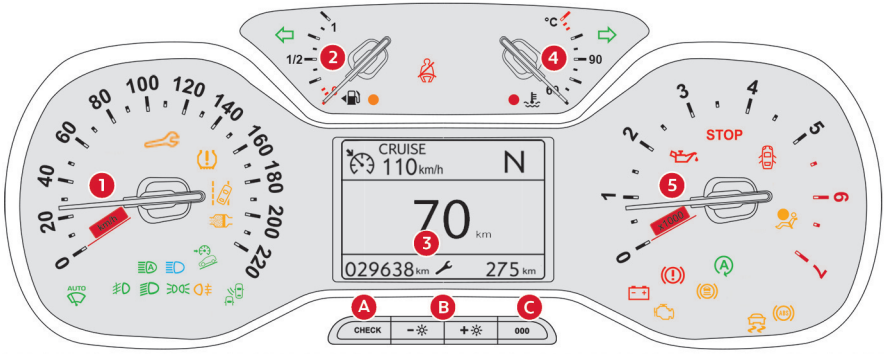
A. サービスインジケーターリセット／マニュアルチェック（エンジン油量インジケーター＊／サービスインジケーター／タイヤ空気圧警告＊など）
B. インストルメントパネル照明コントローラー
C. ドライブコンピューターリセット

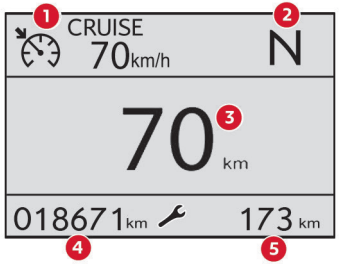
ディスプレイ

1. クルーズコントロール／スピードリミッター／スピードリミットインフォメーション表示
2. シフトポジション／シフトタイミングインジケーター＊／スポーツモード、スノーモード＊表示
3. デジタルスピードメーター
4. ドライブコンピューター
5. トリップメーター／オドメーター／サービスインジケーター

＊仕様により異なります。

●タイプ2





メーター

1. アナログスピードメーター
2. 燃料計
3. ディスプレイ
4. 冷却水温度計
5. タコメーター

ボタン

A. サービスインジケーターリセット／マニュアルチェック（エンジン油量インジケーター＊／サービスインジケーター／タイヤ空気圧警告／現在の不具合状況）
B. インストルメントパネル照明コントローラー
C. トリップメーターリセット

ディスプレイ

1. クルーズコントロール／スピードリミッター／スピードリミットインフォメーション表示
2. シフトポジション／シフトタイミングインジケーター＊／スポーツモード、スノーモード＊表示
3. デジタルスピードメーター／メッセージ
4. オドメーター／サービスインジケーター
5. トリップメーター

言語の設定

インストルメントパネルとタッチスクリーンの言語を切り替えるには、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

初期設定は日本語になっています。

⚠警 告

- スピードメーターの速度の単位は必ず km/h 表示を使用してください。誤って mph 表示(マイル)にすると、正確な速度を認識できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 安全上の理由から、インストルメントパネルの設定などの操作は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

警告灯類／表示灯類

●警告灯について

警告灯には、イグニッションがオンになると数秒間点灯するものがあります。エンジンが始動するとそれらの警告灯は消えます。
いずれかの警告灯が、車が動き出す前まで点灯していたり、走行中に点灯または点滅したときは、関連する情報を参照してください。
いくつかの警告灯は、点灯状態と点滅状態で異なる意味を表すものがあったり、ひとつの警告灯で通常の作動状態を表示している場合と、故障を表している場合とがあります。また、警告音やメッセージ表示とともに点灯するものがあります。

●表示灯について

表示灯は、作動状態を表示するものと機能停止を表示するものがあります。
いくつかの表示灯は、点灯状態と点滅状態で異なる意味を表すものがあったり、ひとつの表示灯で通常の作動状態を表示している場合と、故障を表している場合とがあります。また、警告音やメッセージ表示とともに点灯するものがあります。

⚠警 告

●**STOP** 警告灯と連動して警告灯が表示されたときは直ちに車を停止させてください。
●警告灯が表示される故障は、深刻なケガや車両へのダメージを引き起こすおそれがあります。安全な場所に停車し点検してください（6-3ページ参照）。

MEMO

高速道路など自動車専用道路での燃料切れは、道路交通法違反になります。走行前に燃料が十分あることを確認してください。

●赤色の警告灯／表示灯一覧表

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
STOP	STOP	点灯／警告音／メッセージ	エンジン、ブレーキ、パワーステアリング、オートマチックトランスミッションなどに異常が発生しています。	直ちに車を安全な場所に停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。
	パーキングブレーキ	点灯	パーキングブレーキがかかっています。	ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを解除してください。
	エンジン油圧	点灯	油圧が不足しています。	直ちに車を安全な場所に停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。
	冷却水温	点灯／警告音／メッセージ	冷却水の温度が過剰に上昇しています。	直ちに車を安全な場所に停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
 STOP	自動診断	点灯（STOP 警告灯も点灯）	エンジンに重大な不良が発生しています。	直ちに車を安全な場所に停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
	バッテリー	点灯	充電機能に異常が発生しています。	エンジンを始動すると消灯します。警告灯が消えない場合は、直ちに車を安全な場所に停止させ、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	半ドア	点灯／メッセージ（時速10km 以下）	ドアまたはテールゲートが開いています。	ドアまたはテールゲートを閉めてください。
		点灯／警告音／メッセージ（時速10km 以上）		
	シートベルト	点灯	・シートベルトを着用していません。 ・着用していたシートベルトをはずしました。	ベルトを引き出しバックルに差し込んでください。警告はシートベルトを着用するまで続きます。
		点滅／警告音		
	ブレーキ	点灯	ブレーキ液量が大幅に低下しています。	直ちに安全な場所に車を停止させ、エンジンを止め、シトロエン推奨のブレーキ液を補給してください。問題が解消されない場合は、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
			ブレーキシステムに異常が発生しています。	直ちに車を安全な場所に停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
			電子式制動力制御装置（EBFD）に異常が発生しています。	直ちに安全な場所に車を停止させ、エンジンを止め、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

●黄色の警告灯／表示灯一覧表

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	自動診断	点灯（**SERVICE** 警告灯も点灯）	エンジンに軽微な不良が発生しています。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
		点灯	排気ガス浄化システムに異常が発生しています。	エンジンを始動しても警告灯が消えない場合は、直ちにシトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
		点滅	エンジン制御システムに異常が発生しています。	触媒コンバーターが損傷するおそれがあります。 シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。
	**ABS（アンチロックブレーキ）**	点灯	アンチロックブレーキシステムに異常が発生しています。	通常のブレーキとして機能します。 注意して速度を下げて走行し、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	SERVICE	点灯（一時的）／メッセージ	軽微な不良が発生しているおそれがあります。	表示されたメッセージと連動しています。 ・ タイヤ空気圧 ・ エンジンオイル油量 ・ ウィンドウウォッシャー液量 ・ リモコンの電池切れ　など 解決しない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
		点灯／メッセージ	重大な不良が発生しているおそれがあります。	表示されたメッセージと連動しています。 シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	アクティブセーフティブレーキ	点滅	アクティブセーフティブレーキの自動ブレーキが作動中です。	前方の車両との衝突速度を抑制するために自動的にブレーキが作動しました。ブレーキを踏んでスピードを落としてください。
		点灯／警告音／メッセージ	アクティブセーフティブレーキ機能に異常があります。	シトロエン指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。
		点灯	アクティブセーフティブレーキ機能が解除されています。	詳細は「アクティブセーフティブレーキ」項を参照してください。

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	**ASR／DSC**	点滅	ASR／DSCシステムが作動中です。	システムは正常です。 安定した走行に戻ると消灯します。
		点灯／警告音／メッセージ	ASR／DSCシステムに異常が発生しています。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	**空気圧警告**	点灯／警告音／メッセージ	タイヤの空気圧に異常があります。	タイヤの空気圧を確認して必要な処置をしてください。
		点滅後に点灯／警告音／メッセージ（**SERVICE** 警告灯も点灯）	タイヤ空気圧警告システムに異常が発生しています。システムは作動していません。	タイヤの空気圧を確認して必要な処置をしてください。 直ちにシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	**エアバッグ**	点灯（一時的）	システムの点検中です。（数秒間点灯した後に消灯）	エンジンを始動すると消灯します。警告灯が消えない場合は、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
		点灯	エアバッグまたはシートベルトプリテンションシステムに異常が発生しています。	シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

＊仕様により異なります。

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	**燃料残量**	点灯／警告音／メッセージ	燃料の残量が約5リットル以下になりました。	燃料が少なくなっています。早めに燃料を補給してください。 イグニッションをオンにする度に警告灯は点灯します。 燃料タンクの容量は約45リットルです。 燃料がなくなるまで、走行を続けないでください。排気ガス浄化システムおよび点火系統が損傷するおそれがあります。
	**レーンデパーチャーウォーニング**	点灯	レーンデパーチャーウォーニング機能が解除されています。	詳細は「レーンデパーチャーウォーニング」項を参照してください。
		点滅／警告音	車線マーカーを逸脱する可能性があると判断されました。	適切なハンドル操作を行ってください。詳細は「レーンデパーチャーウォーニング」項を参照してください。
		点滅後に点灯（**SERVICE** 警告灯も点灯）	レーンデパーチャーウォーニング機能に異常があります。	レーンデパーチャーウォーニング機能が作動していません。 注意して走行し、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
	**リアフォグランプ**	点灯	ライトスイッチレバーのリングを2回前方へ回しました。	ライトスイッチレバーのリングを後方へ回すと消灯します。
	**FAP(ディーゼルパティキュレートフィルター)***	点灯	イグニッションをオンにすると数秒間点灯しますが、異常ではありません。	-

●緑色の警告灯／表示灯一覧表

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	ブラインドスポットモニター	点灯	ブラインドスポットモニター機能が作動しています。	詳細は「ブラインドスポットモニター」項を参照してください。
	ヒルディセントコントロール *	点灯	坂道の勾配や選択されているギアなどの走行条件が適さないため、ヒルディセントコントロール機能は作動していません。	詳細は「ヒルディセントコントロール」項を参照してください。
		点滅	ヒルディセントコントロール機能が作動し、走行速度を制御しています。	詳細は「ヒルディセントコントロール」項を参照してください。
	ストップ&スタート	点灯	赤信号などで停止したときに、ストップ&スタートによってエンジンが停止しています。	発進時には警告灯が消灯し、自動的にエンジンがかかります。
		数秒間点滅して消灯	停止モードが一時的に使用不可、または自動的にスタートモードになりました。	詳細は「ストップ&スタート」項を参照してください。
	ウィンカー	点滅／ブザー	ライトスイッチレバーが上または下に動かされています。	ライトスイッチレバーを水平にすると消灯します。
	ポジションランプ	点灯	ライトスイッチがポジションランプの位置にあります。	-

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	**ロービーム**	点灯	ライトスイッチがロービームの位置にあります。 ライトスイッチが **AUTO** の位置にあります。（周囲の明るさに応じて点灯）	-
	**インテリジェントハイビーム**	点灯	タッチスクリーンの設定で機能が有効になっていて、ライトスイッチが **AUTO** の位置にあります。 周囲の明るさや運転状況により、ロービームが点灯しています。	フロントウィンドウ上部のカメラが周囲の明るさや運転状況を検知し、ハイビーム／ロービームの切り替えを行います。 詳細は「インテリジェントハイビーム」項を参照してください。
		点灯	タッチスクリーンの設定で機能が有効になっていて、ライトスイッチが **AUTO** の位置にあります。 周囲の明るさや運転状況により、ハイビームが点灯しています。	
	**フロントフォグランプ**	点灯	ライトスイッチレバーのリングを前方へ回しました。	ライトスイッチレバーのリングを後方へ回すと消灯します。
	**オートワイパー ***	点灯	オートワイパーが作動中です。	**OFF** にするには、レバーをもう一度押し下げるか、**O** 以外のポジションに戻します。

* 仕様により異なります。

●青色の警告灯／表示灯一覧表

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	ハイビーム	点灯	ライトスイッチレバーが手前に引かれています。	ライトスイッチレバーを再度手前に引くとロービームに戻ります。

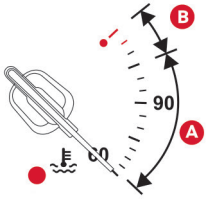
●その他の警告灯／表示灯一覧表

警告灯／表示灯		状態	意味	対処方法
	ブレーキ作動促進 *	点灯	ブレーキペダルを踏む必要があります。	エンジンを始動するには、ブレーキペダルを踏んでください。
		点滅	アクセルペダルでの調節による坂道での停止操作を行っています。	坂道で停止するときはブレーキペダルを踏む、またはパーキングブレーキをかけて停止してください。
	オートワイパー *	点灯	オートワイパーが作動中です。	**OFF** にするには、レバーをもう一度押し下げるか、**0** 以外のポジションに戻します。

* 仕様により異なります。

冷却水温度計





冷却水温度計が A のゾーンにあるときは、水温は適正です。
冷却水温度計が B のゾーンにあるときは、オーバーヒートの状態です。冷却水温警告灯と STOP 警告灯が点灯して、警告音とともにメッセージが表示されます。
直ちに車を安全な場所に止めて、数分間アイドリングを行ってからエンジンを停止してください。その後はすみやかにシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

MEMO

冷却水の補給はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

エンジン油量インジケーター *

イグニッションをオンにすると、油量の状態が数秒間表示されます。
油量は、車体が水平な場所にあってエンジン停止後30分以上経過しているときに正確に表示されます。

●エンジンオイル量が不足しているとき

メッセージが表示されます。エンジンオイルレベルゲージで正確な量を確認し、不足しているときは補充してください。エンジンオイルが不足したまま使用すると、エンジンが損傷するおそれがあります。

●オイルレベルセンサーが故障しているとき

メッセージが表示されます。
車体を水平な場所に置き、エンジン停止後30分以上経過してからエンジンオイルレベルゲージで測定してください。油量に問題がなければ、オイルレベルセンサーが故障しているので、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

MEMO

オイルレベルゲージ



ゲージには2 ヶ所のマークがあります。

A：オイル量最大
これを越えないようにしてください。

B：オイル量最少
A と **B** の間になるようにオイルを補充してください。

* 仕様により異なります。

サービスインジケーター

サービスインジケーターは、お客様に次回のメーカー推奨点検時期がいつ頃かをお知らせするものです。
次回の点検まで3000km 以内になったとき、イグニッションをオンにした後の数秒間、インストルメントパネルに表示されます。
また、インストルメントパネルのリセットボタンを押すと次回のメーカー推奨点検時期を確認することができます。

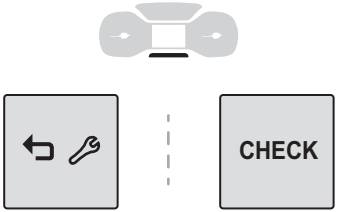
●サービスインジケーター表示一覧

表示	状態	意味
	点灯（数秒間）	次回の点検まで1000km から3000km であることを示しています。 次回の点検までのおよその残りキロ数や期間（両方またはどちらか一方）が表示されます。
	点灯	次回の点検まで1000km 以内であることを示しています。 次回の点検までのおよその残りキロ数や期間（両方またはどちらか一方）が表示されます。
	点滅後に点灯	点検時期を経過したことを示しています。 点検時期を経過してからのおよその走行距離や点検時期を経過したことをお知らせするメッセージ（両方またはどちらか一方）が表示されます。 定期点検が完了するとスパナマークが消灯します。

MEMO

点検時期のお知らせは、走行距離と前回の点検時期から割り出されています。最後の点検から2年を経過した場合にもスパナマークが点灯します。

●ゼロリセット



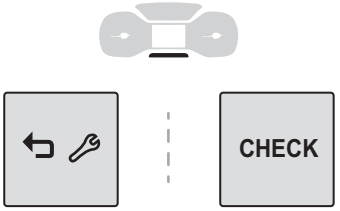
リセットはシトロエン指定サービス工場にて点検終了後に行いますが、お客様がご自分でリセットする際には以下の方法で行います。

1. イグニッションをオフにします。
2. インストルメントパネルのリセットボタンを押し続けます。
3. イグニッションをオンにします。
4. 数字のカウントダウンが始まります。
5. カウントダウンが終了したら、押していたリセットボタンを放します。
6. リセットが完了。スパナのマークが消えます。

MEMO

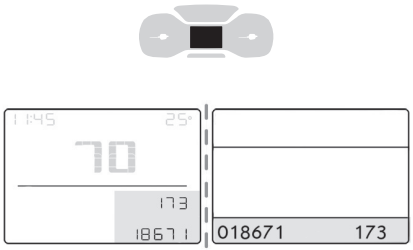
- ●シトロエン指定サービス工場では、定期点検が完了したときにサービスインジケーターをリセットして、次の定期点検時期をお知らせするようにしています。もし、サービスインジケーターを継続してご使用になりたいときは、車をお預けの際にシトロエン指定サービス工場の担当者にお伝えください。
- ●リセット直後にバッテリーをはずすと、リセットが無効になります。ドアを施錠して少なくとも5分間待ってから、バッテリーをはずしてください。

●サービスインジケーターの再表示



インストルメントパネルのリセットボタンを押すと、サービスインジケーターを数秒間表示させることができます。

オドメーター／トリップメーター



タイプ1　　タイプ2

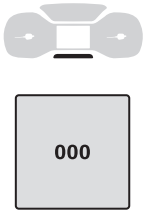
上／右：トリップメーターをリセットしてから現在までの走行距離（トリップメーター）
下／左：総距離数（オドメーター）

オドメーター／トリップメーターは、イグニッションがオンのときに表示されます。また、以下の後、しばらくの間表示されます。
・施錠する
・解錠する
・イグニッションをオフにする
・イグニッションがオフで運転席ドアを開閉する

MEMO

距離の単位は必ずkm表示を使用してください。
設定はタッチスクリーンで行います。

●トリップメーターのリセット（タイプ2のみ）



トリップメーターをリセットするには、イグニッションがオンの状態で、リセットボタンを数秒間押し続けます。数値が0になったらリセットボタンを放してください。

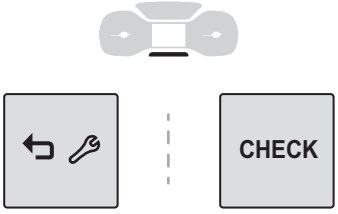
4

マニュアルチェック

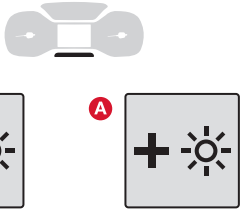
イグニッションをオンにすると、インストルメントパネルに以下の情報が表示されます。

- エンジン油量インジケーター *
- サービスインジケーター
- タイヤ空気圧警告 *
- 現在の不具合状況 *

マニュアルチェックの情報を再度表示するには、エンジンがかかっている状態で、リセットボタンを押します。



インストルメントパネルの調整（明るさ調整）



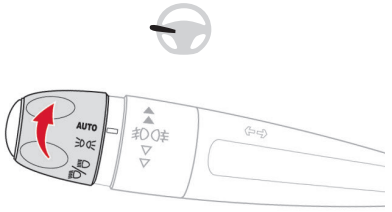
インストルメントパネルの明るさを調整することができます。
ボタン A を押すと暗から明へ、ボタン B を押すと明から暗へ明るさが変化します。ボタンを放すと、その明るさに設定されます。

MEMO

- ●インストルメントパネルの明るさを調整すると、タッチスクリーンの照度も調整されます。
- ●ポジションランプまたはヘッドランプが点灯中に調整できます。

ライト類（ヘッドランプ、フォグランプ、方向指示器、ハザードランプ）

●ヘッドランプ



MEMO

- ●低温高湿度のとき、ヘッドランプやテールランプのレンズ内側が曇ることがありますが異常ではありません。点灯して数分後になくなります。
- ●電球の交換が必要な場合など、ランプ類に異常があるときはメッセージが表示されます。

* 仕様により異なります。

●ライトスイッチ

ヘッドランプの操作は、レバーのリングを回します。

AUTO オートライトモード

ポジションランプが点灯します。

⚠警 告

ポジションランプは、他の車からあなたの車を確実に確認できるほどの十分な明るさではありません。事故のおそれがありますので、周囲が暗いときや視界が悪いときは、ヘッドランプを点灯してください。

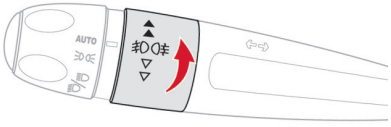
ヘッドランプのロービーム／ハイビームが点灯します。

ヘッドランプをハイビームに切り替えるときは、スイッチレバーを手前に引きます。再度、手前に引くとロービームに切り替わります。

●パッシング

スイッチレバーを浅く手前に引くと、パッシングライトとして使用できます。

●フロント／リアフォグランプ



ポジションランプまたはヘッドランプがオンのときに使用できます。

リングを1回前方へ回すとフロントフォグランプが点灯します。リングをさらに1回前方へ回すとリアフォグランプも点灯します。リングを後方へ回すと、リアフォグランプ、フロントフォグランプの順に消灯します。

⚠警 告

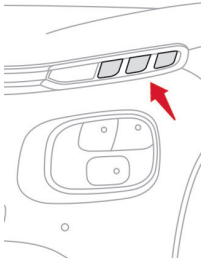
フォグランプは晴天時や雨天時には使用しないでください。他車に眩惑を与えます。

MEMO

- ●オートライトでヘッドランプが点灯中に、フォグランプを点灯させると、周囲が明るくなってもポジションランプとフォグランプは点灯し続けます。リングを回してフォグランプを消灯してください。フォグランプと同時にポジションランプも消灯します。
- ●ハイビームを点灯させるとフロントフォグランプは消灯します。*

4

●デイタイムランニングランプ

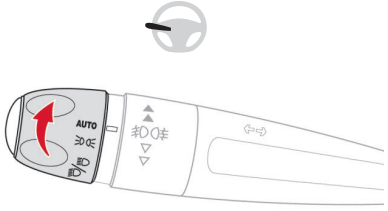


エンジンを始動すると、ライトスイッチが **AUTO** で周囲が明るいときにデイタイムランニングランプだけが自動的に点灯します。

MEMO

デイタイムランニングランプが点灯中は、インストルメントパネル内のポジションランプ表示灯は点灯しません。

●オートライト



周囲が暗くなったりウィンドウワイパーが作動する * と、自動的にポジションランプやヘッドランプが点灯します。周囲が明るくなったりワイパーが停止すると、自動的に消灯します。

作動
リングを **AUTO** 位置に回します。

機能解除
リングを **AUTO** 以外の位置に回します。

⚠注 意

●昼間の霧や雪のときは、周囲が明るいのでオートライトが作動しないことがあります。
安全のため、手動でライトを点灯してください。
●フロントウィンドウの照度センサーを覆わないでください。オートライト機能が正常に作動しません。

照度センサーに異常が発生した場合は、自動的にヘッドランプが点灯するとともにインストルメントパネルに警告が表示され、警告音とともに故障の発生を通知します。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

* 仕様により異なります。

MEMO

●イグニッションをオフにすると、すべてのライトが消灯します（フォローミーホーム機能がオンのときを除く）。再度ライトを点灯するには、**AUTO** から他の位置にレバーのリングを回すか、いったん **AUTO** にしてから他の位置にレバーのリングを回してください。イグニッションがオフの状態で、マニュアル操作でライトを点灯したまま運転席側のドアを開けると、ライト消し忘れブザーが鳴ります。レバーのリングを **AUTO** 位置に回すとライトが消灯します。

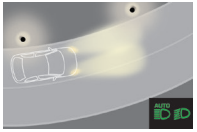
●イグニッションがオフの状態でライトを点灯したままにすると、バッテリー上がりを防止するために一定時間後、自動的に消灯します。

●インテリジェントハイビーム

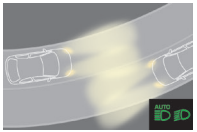
フロントウィンドウ上部に備えられたカメラによって周囲の明るさと運転状況を検知し、ヘッドライトのロービームとハイビームを自動的に切り替える機能です。

⚠警 告

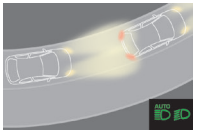
インテリジェントハイビームは操作を補助する機能です。運転者の責任の下で、点灯状態、視界、道路状況などを把握し、他の車の妨げにならないよう、また法律で義務付けられた方法に従って、正しく使用してください。



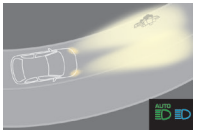
ロービーム点灯：
周囲が明るいためハイビームが不要な場合



ロービーム点灯：
対向車がある場合



ロービーム点灯：
先行車がある場合



ハイビーム点灯：
ハイビームが必要な場合

4

機能をオンにする

1. ライトスイッチレバーのリングを **AUTO** 位置に回します。
2.  タッチスクリーンのアイコンにタッチします。
3. **ドライビング機能**にタッチします。
4. **インテリジェントハイビーム**にタッチします。

MEMO

- ●インテリジェントハイビームは時速25km 以上で作動します。時速15km 以下になると作動が停止します。
- ●イグニッションをオフにしてもシステムの設定の記憶は残ります。

ハイビーム／ロービームの切り替え条件

以下のときにロービームが点灯します。

・周囲の明るさが十分にあり、運転状況がハイビームの点灯に適さないとき



ロービームが点灯すると、この表示灯が点灯します。



以下のときにハイビームが点灯します。

・周囲の明るさが十分になく、運転状況がハイビームの点灯に適したとき



ハイビームが点灯すると、この表示灯が点灯します。



作動を中断する

システム作動中でも、ライトスイッチレバーを手前に引くことでインテリジェントハイビーム機能を中断し、オートライトモードに切り替えることができます。インテリジェントハイビームに戻したいときは、再度ライトスイッチレバーを手前に引きます。

MEMO

- ●機能を中断または再度作動させると、状況により、ハイビームまたはロービームが点灯します。
- ●濃い霧が発生している場所を走行しているときは、自動的にインテリジェントハイビームの機能が一時中断されることがあります。機能が一時中断されると、表示灯が消灯します。その後、システムがインテリジェントハイビーム機能の作動に適していると判断すると、インテリジェントハイビーム機能が再度作動します。

機能をオフにする

インテリジェントハイビーム機能をオフにするには、タッチスクリーンで設定します。

MEMO

ライトスイッチレバーの操作ではインテリジェントハイビームをオフにできません。

⚠警 告

●以下のようなときは、機能が正確に作動しないことがあります。
- 降雪、豪雨、濃霧などの悪環境のとき
- フロントウィンドウが汚れている、曇っている、ステッカーを貼っているなど、カメラ部分の視界が不十分なとき
- 看板や標識などに反射した強い光が車両に当たっているとき

●カメラは以下のような対象物は検知しません。
- 歩行者のように光を発しないもの
- 高速道路の中央分離帯などで光を遮られている車両
- 急勾配な坂の頂上やふもと、曲がりくねった道、交差点などにおける周囲の車両

●フロントウィンドウのカメラ周辺に衝撃を受けたら、必ずシトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警 告

●フロントウィンドウ上部のカメラ付近をステッカーなどで覆ったり、物を置いてカメラの視界を遮らないでください。システムの妨げとなり、正常に機能しません。

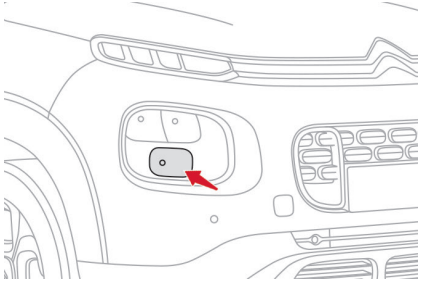
●ルーフ上に積載した荷物などがカメラの視界を遮らないように注意してください。

●冬期に、ルーフやボンネットに雪が積もっているときは取り除いてください。

●フロントウィンドウに泥や雪などが付着するとカメラが正常に作動しません。常に汚れを落としてください。

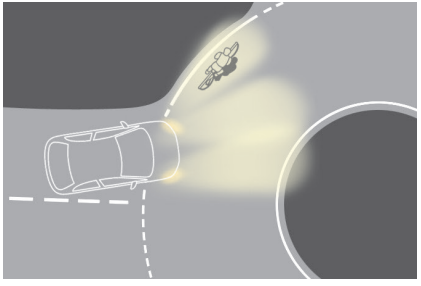
●天候や乗車状況によってはフロントウィンドウのウィンドウガラスが曇ることがあります。ウィンドウガラスが曇るとカメラが正常に作動しません。エアコンの曇り取り機能を使用してウィンドウガラスの曇りを取り除いてください。

●コーナリングライト

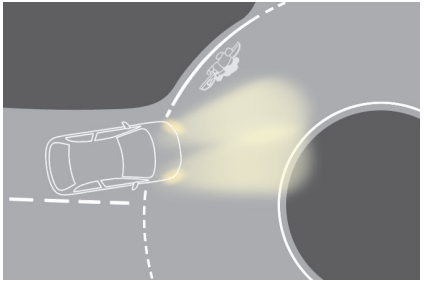


ヘッドライトに加えてフォグランプがカーブの内側を照らし、交差点や曲がりくねった道、駐車操作中に障害物を発見しやすくする機能です。時速40km 以下で走行中に作動します。

この機能のオン／オフを切り替えるときはタッチスクリーンで設定します。



作動時



非作動時

点灯する条件

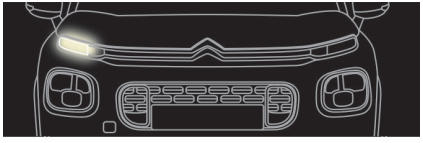
- 方向指示器が作動している
- ステアリングが一定の角度以上回っている

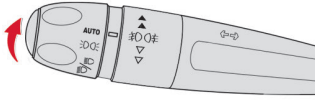
消灯する条件

- ステアリングが一定の角度まで回っていない
- 時速40km を超えている
- シフトレバーを **R** に入れたとき

* 仕様により異なります。

●パーキングライト





路肩に駐車する場合、ポジションランプを片側（通常は車両通行側）のみ点灯させることができます。
イグニッションをオフにして、1分以内にライトスイッチレバーを点灯させたい側に操作します。警告音とともに表示灯（ウィンカー）が点灯し、片方のポジションランプが点灯します。
レバーを戻すと、ポジションランプは消灯します。

●フォローミーホーム（駐車時照明機能）

周囲が暗いときや夜間にイグニッションをオフにした後しばらくの間、ヘッドランプなどが点灯したままになります。

オート操作
オートライトモードになっていると自動的にこの機能が作動します。

マニュアル操作
オートライトモードでないときも、作動させることができます。
イグニッションをオフにして、パッシング（スイッチレバーを浅く手前に引く）してから車を降りて施錠してください。
リモコンからもフォローミーホームを作動させることができます。

キャンセル操作
パッシング（スイッチレバーを浅く手前に引く）してから車を降りて施錠してください。

設定 *
フォローミーホームのオン／オフの切り替え、点灯時間の設定は、タッチスクリーンで行います。

●エクステリアウェルカムランプ *

周囲が暗いときや夜間に、車外でリモコンの解錠ボタンを押すと、ヘッドランプなどが点灯して乗車をサポートします。

点灯



リモコンの解錠ボタンを押します。
ドアの解錠とともに、ヘッドランプなどが点灯します。

消灯
イグニッションをオンにする、またはドアを施錠すると自動的に消灯します。

設定 *
エクステリアウェルカムランプのオン／オフの切り替え、点灯時間の設定は、タッチスクリーンで行います。

●エクステリアサイドランプ *

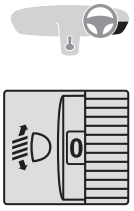


フロントルームランプのスイッチがこの位置にあるとき、フロントルームランプと連動して点灯／消灯します。

MEMO

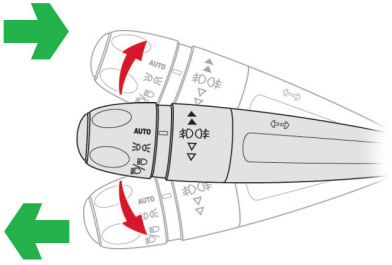
フロントルームランプのスイッチがどの位置にあっても、フォローミーホームが作動すると点灯します。

●ヘッドライト照射角度調整



ラゲッジルームに重量物を積んでヘッドランプが上向きになったときは、対向車に眩しくないよう、ダイヤルの数値を上げて照射角度を下向きにしてください。

●方向指示器



右方向に出す場合：ライトスイッチレバーを上に動かします。

左方向に出す場合：ライトスイッチレバーを下に動かします。

MEMO

車線変更などのとき、ライトスイッチレバーを1回軽く動かして放すと、動かした方の方向指示器が3回点滅します。

* 仕様により異なります。

●ハザードランプ





ENGINE START/STOP スイッチの位置に関係なくスイッチを押すと作動します。
他車に緊急停車中であることを示します。

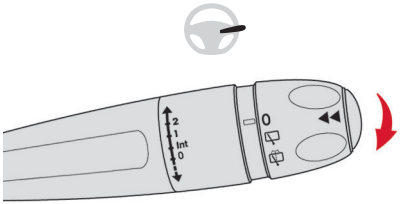
緊急制動表示灯
急ブレーキをかけると、減速度によってハザードランプが自動的に点滅を始めます。車が加速を始めると自動的に解除されますが、スイッチを押して解除することもできます。

MEMO

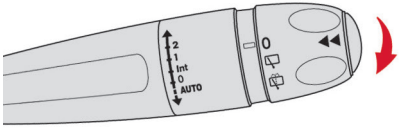
渋滞の最後尾についたときは、手動でハザードランプを点滅させて、他の運転者に警告してください。

ワイパー／ウォッシャー

●フロントワイパー



マニュアルワイパー装着車



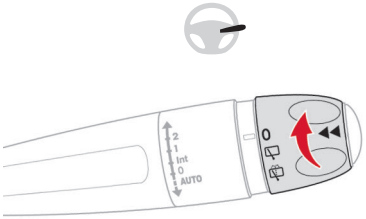
オートワイパー装着車

ワイパーレバーは以下のように5段階で作動します。

2	高速作動
1	通常作動
Int	間欠作動
0	停止
↓	1回作動（マニュアルワイパー装着車）
AUTO	自動作動（オートワイパー装着車）

間欠作動は、車速に応じて休止時間が変化します。

●リアワイパー



リングを回すとリアワイパーが作動します。（間欠式）
リングをいっぱいまで回している間、ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが作動します。リングを放すと数秒後にワイパーが停止します。



停止



間欠作動



ウォッシャー作動

* 仕様により異なります。

シフトレバー連動機能

フロントワイパーを作動中にシフトレバーを **R** に入れると、リアワイパーが作動します。
シフトレバーを **R** から変更すると、リアワイパーは停止します。
この機能のオン／オフを切り替えるときはタッチスクリーンで設定します。

MEMO

リアウィンドウに雪が積もっているときやテールゲートにキャリアを取り付けているときは、この機能をオフにすることをお勧めします。

注 意

- ウィンドウガラスが乾いているときは、ワイパーを使用しないでください。ウィンドウに傷を付けることがあります。
- 外気温が高温のときや、低温で凍結のおそれがあるときは、ワイパーがウィンドウにくっついていないか確認してください。ワイパーを損傷するおそれがあります。

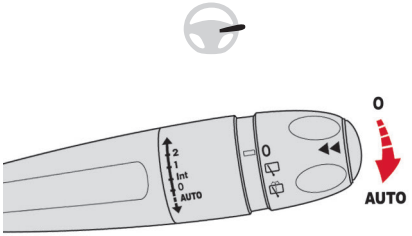
MEMO

- イグニッションを1分以上オフにすると、ワイパーレバーがどの位置にあっても、フロントワイパーはオフの状態になります。再度作動させるには、ワイパーレバーを操作してください。
- ウィンドウガラスやワイパーに雪が積もっているときや凍結しているときは、ワイパーを使用する前に取り除いてください。

●オートワイパー *

ワイパーを **AUTO** モードにしておくと、降る雨の量に応じて自動的にワイパーが作動します。

作動



レバーを押し下げると **AUTO** モードが作動します。インストルメントパネルの表示灯が点灯し、メッセージが表示されます。
システムに異常が発生すると、ワイパーレバーが **AUTO** の位置では間欠作動となります。シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

解除

レバーをもう一度押し下げるか、もしくは**O**以外のポジションに動かします。インストルメントパネルの表示灯が消灯し、メッセージが表示されます。

MEMO

イグニッションを1分以上オフにすると、**AUTO** モードは解除されます。**AUTO** モードを使用する場合は再度レバーを押し下げてください。

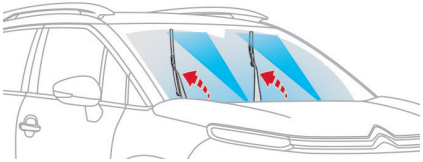
⚠注 意

洗車する際は、オートワイパー機能を解除してください。水滴によってオートワイパーが突然作動して、ケガをしたり、車を損傷するおそれがあります。

注 意

- ルームミラーの裏側にある雨滴センサーを覆わないでください。
- フロントウィンドウが凍結しているときは、氷などが完全に溶けるまでオートワイパーの使用を控えてください。

●ウィンドウウォッシャー



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが作動します。レバーを放すと数秒後にワイパーが停止します。

レバーを浅く手前に引くと、ウォッシャー液は噴射されずにワイパーが1回だけ作動します。

⚠警 告

外気温が低温で凍結のおそれがあるときは、フロントウィンドウが暖まるまでウィンドウウォッシャーを使用しないでください。ウォッシャー液がウィンドウガラスに凍り付き、視界を妨げ、安全性を損ない思わぬ事故につながるおそれがあります。

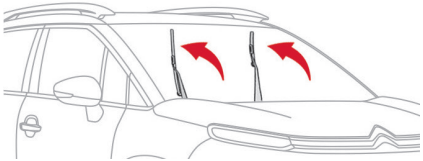
注 意

タンク内のウォッシャー液が不足して、ウォッシャー液が噴射されないときは、ウィンドウウォッシャーを使用しないでください。ワイパーを損傷するおそれがあります。

MEMO

ワイパーブレードのウォッシャー液の噴射高さの調整ができます。詳しくはシトロエン指定サービス工場にご相談ください。

●ワイパーブレードの交換



ワイパーブレードの交換は、ワイパーをメンテナンスポジションにしてから行います。

1. イグニッションをオフにしてから1分以内にワイパーレバーを操作するとワイパーがメンテナンスポジションで停止します。
2. ワイパーブレードを交換するときはこの位置にしてください。
3. イグニッションをオンにしてワイパーレバーを操作すると、ワイパーは元の位置に戻ります。

⚠警 告

傷んだり汚れたワイパーブレードは視界を妨げ、安全性を損ない思わぬ事故につながるおそれがあります。すべてのウィンドウで良好な視界が確保された状態で走行してください。

MEMO

●ワイパーブレードを長持ちさせるには、次のことに気をつけてください。
- ・丁寧に取り扱ってください。
- ・せっけん水で定期的に洗ってください。
- ・紙や異物を挟まないでください。
- ・ワイパーゴムが摩耗しているときは早めに交換してください。

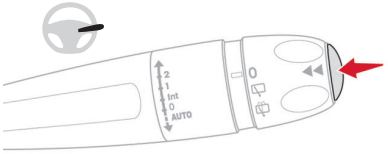
●ワイパーアームの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

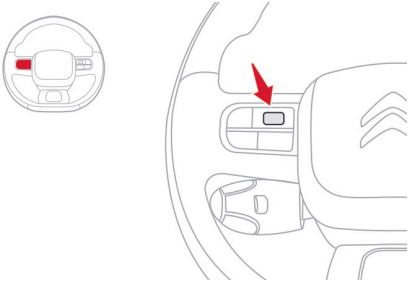
●ウィンドウガラスに撥水コーティング剤を使用する場合は、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。

ドライブコンピューター

●タイプ1

コントロールスイッチ





ドライブコンピューターは、ワイパーレバー先端のスイッチを押す、またはステアリングスイッチの左側のダイヤルを回すことにより、燃費など、次の情報を切り替えて表示します。

- 走行可能距離
- 瞬間燃料消費量
- 平均速度
- 平均燃料消費量
- トリップメーター
- エンジン停止時間
- スピードリミットインフォメーション

MEMO

走行可能距離、瞬間燃料消費量、平均速度、平均燃料消費量、トリップメーター、エンジン停止時間の下側にはオドメーターが表示されます。

走行可能距離



タンク内に残っている燃料で、後どのくらい走行できるかを表示します。

過去数キロに消費された燃料の情報をもとに、今後も同じ割合で燃料が消費されるものと想定して表示します。

走行可能距離が30km 以下になると、距離の表示はされません。

燃料の補給後は、数値が100km 以上になると再度表示されます。

MEMO

走行中に数値の代わりに－が連続して表示されるときは、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

瞬間燃料消費量



過去数秒間の燃料消費量を表示します。

ただし、車の速度が時速30km以上のときのみ作動し、表示します。

* 仕様により異なります。

平均速度

コンピューターをリセットしてから現在までの平均速度を表示します。

ただし、イグニッションをオン にしている状態の時間をもとに計算します。

平均燃料消費量

コンピューターをリセットしてから現在までの平均燃料消費量を表示します。

トリップメーター

コンピューターをリセットしてから現在までの走行距離を表示します。

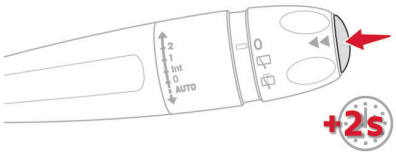
エンジン停止時間

ストップ&スタートによってエンジンが停止した時間を表示します。イグニッションをオンにする度にゼロにリセットされます。

スピードリミットインフォメーション

詳細は「スピードリミットインフォメーション」項を参照してください。

リセット





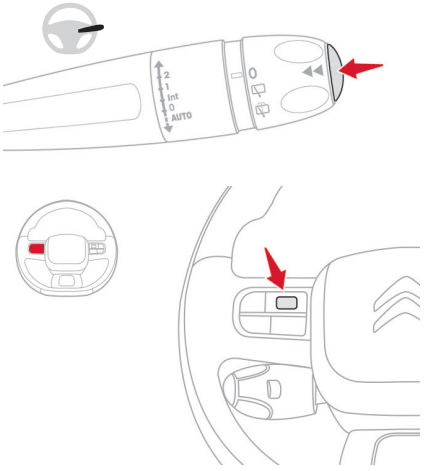


コンピューターをリセットするときは、ワイパーレバー先端のスイッチ、ステアリングスイッチの左側のダイヤル、またはインストルメントパネルのリセットボタンを2秒以上押し続けます。リセット後しばらくはデータ不足のために正確な値が表示されないことがあります。

数字の代わりに水平なセグメントだけが表示されるときは、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

●タイプ2

コントロールスイッチ



ドライブコンピューターは、ワイパーレバー先端のスイッチを押す、またはステアリングスイッチの左側のダイヤルを回す＊ことにより、トリップコンピューター、トリップ1、トリップ2を切り替えて表示します。

トリップコンピューター

トリップコンピューターは、走行可能距離、瞬間燃料消費量、エンジン停止時間を表示します。

トリップ1 ／トリップ2

トリップ1 ／トリップ2は、平均速度、平均燃料消費量、走行距離を表示します。

例えば、トリップ1を月間の走行の平均に、トリップ2を旅行用に、と使い分けます。

走行可能距離

タンク内に残っている燃料で、後どのくらい走行できるかを表示します。

過去数キロに消費された燃料の情報をもとに、今後も同じ割合で燃料が消費されるものと想定して表示します。

走行可能距離が30km 以下になると、距離の表示はされません。

燃料の補給後は、数値が100km 以上になると再度表示されます。

MEMO

走行中に数値の代わりに－が連続して表示されるときは、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

瞬間燃料消費量

過去数秒間の燃料消費量を表示します。ただし、車の速度が時速30km 以上のときのみ作動し、表示します。

＊仕様により異なります。

エンジン停止時間

ストップ&スタートによってエンジンが停止した時間を表示します。イグニッションをオンにする度にゼロにリセットされます。

平均速度

コンピューターをリセットしてから現在までの平均速度を表示します。
ただし、イグニッションをオンにしている状態の時間をもとに計算します。

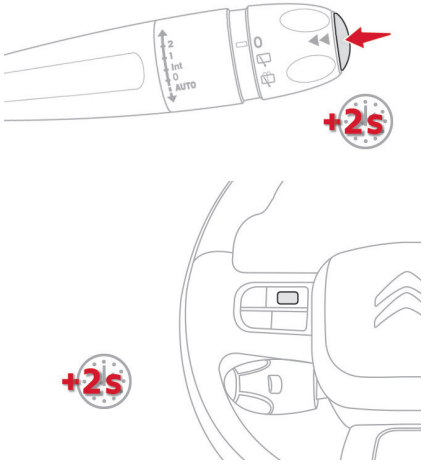
平均燃料消費量

コンピューターをリセットしてから現在までの平均燃料消費量を表示します。

走行距離

コンピューターをリセットしてから現在までの走行距離を表示します。

リセット

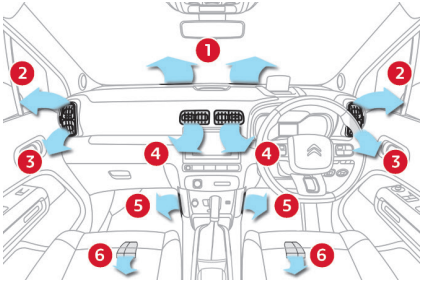


トリップ1 ／トリップ2をリセットするときは、ワイパーレバー先端のスイッチ、またはステアリングスイッチの左側のダイヤル * を2秒以上押し続けます。リセットは各トリップごとに行うことができます。リセット後しばらくはデータ不足のために正確な値が表示されないことがあります。
数字の代わりに水平なセグメントだけが表示されるときは、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

第5章　室内装置の使いかた

エアコンディショナー……5-2
タッチスクリーン……5-10
ラゲッジルーム……5-17
ルームランプ……5-20
インテリア……5-22

エアコンディショナー



①：フロントウィンドウ吹き出し口
②：サイドウィンドウ吹き出し口
③：ダッシュボード左右吹き出し口
④：ダッシュボード中央吹き出し口
⑤：ダッシュボード足元吹き出し口
⑥：後席用足元吹き出し口

ダッシュボード中央および左右の吹き出し口にはルーバーやシャッターが付いています。これを使用すると、風向や風量の調整、他の吹き出し口へより多くの風を送るなどができます。

⚠警 告

エアコンを停止させると、空気の循環が全く行われません。ウィンドウが曇るので、一時的な停止にとどめてください。

⚠注 意

ストップ&スタートによってエンジンが停止しているときは、暖房や冷房も止まります。必要に応じてストップ&スタートを解除してください。

MEMO

●室内の空気の入れ替えが十分に行えるように、装置を適切にコントロールしてください。
・室内と設定温度に差があっても、設定温度は変更する必要はありません。自動制御により、できるだけ早く温度差を解消します。
・外気温度が高温のとき、エンジンの負荷を軽減するために一時的にエアコンを停止することをお勧めします。

MEMO

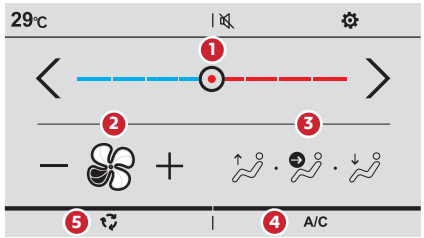
●冬期のエアコンから吹き出す風量は、エンジンが温まる前の冷たいときは少なく、温度が上昇するのに合わせて多くなります。
●空気の流れをスムーズにするために、次のことに注意してください。
・ボンネット内の外気取り入れ口がふさがれていないか。
・前席下のエアダクトや吹き出し口がふさがれていないか。
・ラゲッジルーム内の空気排出口がふさがれていないか。
●ダッシュボードには日射センサーがあります。この上に物を置いたり、布を被せるなどしないでください。エアコンが正しく作動しない場合があります。
●エアコンを長期間、快適に使用するためにも、1ヶ月に1度は5分から10分間の使用を推奨しています。
●長時間、高温の場所に停車すると、室内の温度は非常に高くなります。吹き出し風量を最大にして数分間、換気を行ってください。

＊仕様により異なります。

MEMO

●室内フィルターは定期的に交換してください。2層構造の室内フィルターは、アレルギー物質や悪臭、油汚れの除去に効果を発揮し、室内の空気をよりきれいにします。
●エアコンを正しくお使いいただくため、定期的に点検することを推奨しています。
●湿度が高いときなど、エアコンを使用していると車体の下から無色の水が流れ出ることがあります。これは空気中の水分が凝結したもので、異常ではありません。
●エアコンを使用していても冷気が出ないときは、使用を中止してシトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

●マニュアルエアコン *



エアコン設定の表示
エアコンの設定は、タッチスクリーンで行います。

タッチスクリーンのアイコンにタッチして、エアコン設定画面を表示させてください。

MEMO

●イグニッションをオフにしてもエアコン設定の記憶は残ります。
●タッチスクリーン画面上部のエアコン表示にタッチすると、エアコンの設定画面にアクセスできます。この画面では、温度の設定、風量の調整、エアコンのオン／オフができます。

①：温度の設定

タッチスクリーンのカーソルを左右に動かして設定します。
または＞にタッチすると温度が上がり、＜にタッチすると温度が下がります。

②：風量の調整

＋

－

アイコンにタッチすると風量が増減します。

MEMO

ディスプレイのファンの羽根が消えて**OFF**が表示されるとエアコンが停止します。室温の調整は行われませんが走行により微量の風が吹き出し口から出ます。
再度アイコンにタッチすると、停止時の設定でエアコンが作動します。

⚠注 意

エアコンを停止させると、空気の循環が全く行われません。ウィンドウが曇るので、一時的な停止にとどめてください。

③：吹き出し口の切り替え

アイコンにタッチして吹き出し口を選択します。


フロントウィンドウとサイドウィンドウ


ダッシュボード中央と左右の吹き出し口


足元

④：エアコンのオン／オフ

A/C　アイコンにタッチするとエアコン（冷房・除湿機能）は停止します。エアコンを作動させるには、再度アイコンにタッチします。
インジケーターが点灯してエアコンが作動します。

* 仕様により異なります。

⑤：内／外気の切り替え

外気が車内に入るのを防ぎます。外のいやな臭いの遮断や急速に冷暖房するときに使用します。

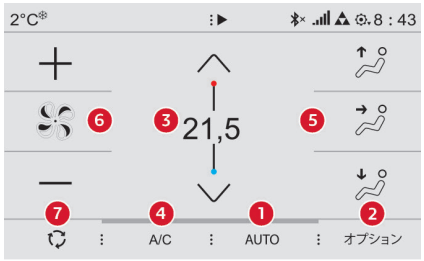
アイコンにタッチする度に内気モード／外気モードが切り替わります。インジケーターが消灯しているときは外気モード、点灯しているときは内気モードになっています。

内気モードでの長時間の使用は避けてください。換気が行われず、ウィンドウが曇ることがあります。

⚠警 告

内気循環モードは、必要以外は使用しないでください。ウィンドウが曇るだけでなく、車内の空気が新鮮でなくなり、運転者の集中力が低下したり疲れやすくなるため、事故やケガにつながるおそれがあります。

●オートエアコン *



オートモードでは、ディスプレイに表示されているそれぞれの数値になるまで、エアコンのオン／オフ、内気／外気の切り替えや風量、吹き出し口が選択されます。

⚠注 意

寒冷時や雨天時には、ウィンドウの曇りを防ぐためにオートモードを選択してください。

エアコン設定の表示

エアコンの設定は、タッチスクリーンで行います。

タッチスクリーンのアイコンにタッチして、エアコン設定画面を表示させてください。

MEMO

タッチスクリーン画面上部のエアコン表示にタッチすると、エアコンの設定画面にアクセスできます。この画面では、温度の設定、風量の調整、エアコンのオン／オフができます。

オートモード

MEMO

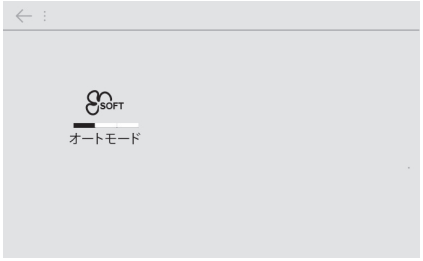
- ●オートモードでは、エアコンが適切に制御できるよう、各吹き出し口を開いた状態にしてください。
- ●ウィンドウが開いていると設定した温度を保てないことがあります。
- ●イグニッションをオフにしてもエアコン設定の記憶は残ります。

①：オートモードの設定

AUTO　アイコンにタッチすると、インジケーターが点灯しオートモードになります。

②：オプション

オプション　アイコンにタッチすると、オートモードの作動モードを変更できます。



SOFT：室内の送風量を制限し、静かで穏やかに作動します。
NORMAL：室内の温度を最適に保ちながら、エアコンの作動音を抑えて作動します。
FAST：室内の送風量制御を効果的に最大限活かして作動します。

③：温度の設定



ディスプレイの表示を希望の数値に合わせます。
∧にタッチすると温度が上がり、∨にタッチすると温度が下がります。この値は室内温度ではなく、快適さのレベルを表しています。
21に設定しておくと、快適な室内となりますが、お好みにより**14**～**28**の間を設定してください。

マニュアルモード
オートモードで設定された条件は個々に変更できます。
変更した条件を元に戻すときは、**AUTO**にタッチするとオートモードになります。

MEMO

温度を最高に設定したいときは、ディスプレイに **HI** が表示されるまで∧にタッチし、最低に設定したいときは、**LO** が表示されるまで∨にタッチします。

④：エアコンのオン／オフ

A/C　アイコンにタッチするとエアコン（冷房・除湿機能）は停止します。エアコンを作動させるには、再度アイコンにタッチします。インジケーターが点灯してエアコンが作動します。

⑤：吹き出し口の切り替え
アイコンにタッチして吹き出し口を選択します。


フロントウィンドウとサイドウィンドウ


ダッシュボード中央と左右の吹き出し口


足元

MEMO

すべての吹き出し口が選択されているときは、ダッシュボード中央および左右の吹き出し口と足元吹き出し口への送風量が多くなります。

⑥：風量の調整

アイコンにタッチすると風量が増減します。

＋

－

MEMO

ディスプレイのファンの羽根が消えて**OFF**が表示されるとエアコンが停止します。室温の調整は行われませんが走行により微量の風が吹き出し口から出ます。
再度アイコンにタッチすると、停止時の設定でエアコンが作動します。

⚠注 意

エアコンを停止させると、空気の循環が全く行われません。ウィンドウが曇るので、一時的な停止にとどめてください。

⑦：内／外気の切り替え



外気が車内に入るのを防ぎます。外のいやな臭いの遮断や急速に冷暖房するときに使用します。

アイコンにタッチする度に内気モード／外気モードが切り替わります。インジケーターが消灯しているときは外気モード、点灯しているときは内気モードになっています。
内気モードでの長時間の使用は避けてください。換気が行われず、ウィンドウが曇ることがあります。

⚠警 告

内気循環モードは、必要以外は使用しないでください。ウィンドウが曇るだけでなく、車内の空気が新鮮でなくなり、運転者の集中力が低下したり疲れやすくなるため、事故やケガにつながるおそれがあります。

●視界の確保

天候や乗車状況によっては、エアコンが作動していてもウィンドウガラスが曇ることがあります。フロント／リアそれぞれの視界確保モードを作動させて曇りを取ってください。

⚠警 告

すべてのウィンドウの視界が保たれないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントウィンドウ



ダッシュボードのスイッチを押すとインジケーターが点灯し、システムは自動的に曇りを取り除くようにエアコンのオン／オフ、内気／外気の切り替えや風量、吹き出し口を選択してコントロールします。
このモードを解除するときは再度スイッチを押します。オートエアコンは、AUTO にタッチしても解除することができます。インジケーターが消灯します。



このモードを使用しているときは、ストップ&スタートの停止モードは使用できません。

リアウィンドウ



エンジンがかかっているときにダッシュボードのスイッチを押すと、インジケーターが点灯し、リアウィンドウやドアミラーの曇りを取ります。スイッチは自動的に切れます。このモードを解除するときは再度スイッチを押します。インジケーターが消灯します。

●換気モード

イグニッションをオンにしてから数分間、エンジンが停止していてもエアコン設定画面で風量と吹き出し口の切り替えを操作することができます。



●換気モードは、バッテリーの電力が十分なときに作動します。
●換気モードでは、エアコン（冷房・除湿機能）は作動しません。

タッチスクリーン

コンソールのタッチスクリーンから、車の設定やオーディオシステムの操作など、以下のような操作や表示が行えます。

- エアコンの操作
- 車の機能の設定
- オーディオの設定
- タッチスクリーンの設定
- ハンズフリー通話の設定
- フロント／バックソナーなどの画面表示と設定
- 外気温度計
- カーナビゲーション *

⚠警 告

安全上の理由から、各種設定などの複雑な操作は、車両を停止し、イグニッションをオンにした状態で実施してください。

MEMO

本書に記載したタッチスクリーン関連の機能や操作方法、表示、デザインなどは、本書の編集時点のものです。
タッチスクリーンのシステムのバージョンアップや、オプションのナビゲーションの接続によってこれらが変わることがありますので、ご了承ください。

●タッチスクリーンの基本操作

タッチスクリーンを操作する際は、一本の指でやや強めにタッチおよびフリック（タッチした状態での指の移動）を行ってください。

MEMO

スクリーンを拭く際は、市販の不織布（メガネ拭きなど）をご使用いただけます。

* 仕様により異なります。

●ページの移動

← 前のページに戻ります。

MEMO

タッチスクリーンのグレーアウトされたエリアにタッチすると前のページに戻ります。

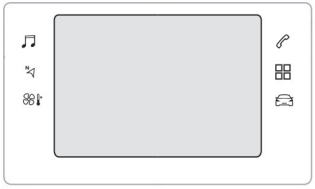
●設定の変更

OK 設定項目の変更後、変更画面にある OK にタッチして設定を有効にします。

●詳細設定

さらに詳細な設定項目がある場合には、このアイコンにタッチします。

●メニュー



アイコンにタッチするとそれぞれ以下のような設定が行えます。

オーディオやラジオの再生・設定画面を表示します。

ナビゲーションを表示します。（装着車のみ）
Apple CarPlay や Android Auto のナビゲーションを表示します。（使用中のみ）*

エアコンの設定画面を表示します。

ハンズフリー通話の通話・設定画面を表示します。
Apple CarPlay や Android Auto の画面を表示します。（使用中のみ）

画像ファイルを表示します。

車の機能の設定を表示します。

タッチスクリーンの画面上部のアイコンにタッチすると、タッチスクリーンの設定画面を表示します。

ツマミを回して音量を調節できます。ツマミを押すと、ミュート（消音／停止）になります。イグニッションがオフのときに押すとタッチスクリーンの画面が点灯します。

5

MEMO

- ●タッチスクリーンに指3本でタッチすると、メニューが表示されます。
- ●オーディオ、ハンズフリー通話、Apple CarPlay や Android Auto に関しては、付録を参照してください。
- ●ナビゲーションに関しては、ナビゲーションの取扱説明書を参照してください。

●日付と時刻の設定

時刻の設定

1.  タッチスクリーンのこのアイコンにタッチします。
2.  にタッチします。
3.  にタッチします。
4. **時間**にタッチします。
5. 時間にタッチしてタッチスクリーンで数値を入力します。
6. **OK**にタッチします。

日付の設定

1.  タッチスクリーンのこのアイコンにタッチします。
2.  にタッチします。
3.  にタッチします。
4. **日付**にタッチします。
5. 日付けにタッチし、画面をスクロールして、日付を設定します。

* 仕様により異なります。

●設定項目一覧

アイコン			設定項目	追加設定項目
	ドライビング機能	パークアシスト	パークアシストを開始します。	-
		インテリジェントハイビーム	アイコンにタッチすると、インテリジェントハイビームがオン／オフします。	-
		ストップ＆スタート	アイコンにタッチすると、ストップ＆スタートがオン／オフします。	-
		パーキングセンサー	アイコンにタッチすると、フロント／バックソナーがオン／オフします。	-
		ブラインドスポットモニター	アイコンにタッチすると、ブラインドスポットモニターがオン／オフします。	-
		タイヤ空気圧警告　初期化	間接式タイヤ空気圧警告の初期化を行います。	-
		トラクションコントロール *	アイコンにタッチすると、ASR システムがオン／オフします。	-
		ダイアグノシス *	不具合の発生状況を呼び出します。	-

アイコン				設定項目	追加設定項目
	車両設定	パーキング	リバース連動リヤワイパー	アイコンにタッチすると、オン／オフします。 リバース時にリアワイパーが作動します。（フロントワイパー作動時）	-
		ヘッドライト	フォローミーホームライト *	アイコンにタッチすると、フォローミーホームがオン／オフします。	点灯時間を設定することができます。
			ウェルカムライト *	アイコンにタッチすると、エクステリアウェルカムランプがオン／オフします。 リモコンによって解錠したときに一定時間ライトが点灯します。	点灯時間を設定することができます。
			ディレクショナルヘッドライト	アイコンにタッチすると、コーナリングライトがオン／オフします。	-
		セーフティー	アクティブセーフティブレーキ	アイコンにタッチすると、アクティブセーフティブレーキがオン／オフします。	車間距離を設定することができます。
			制限速度の表示 / 推奨速度	アイコンにタッチすると、スピードリミットインフォメーションがオン／オフします。	-
			疲労検知システム	アイコンにタッチすると、ドライバーアテンションアラートがオン／オフします。	-

* 仕様により異なります。

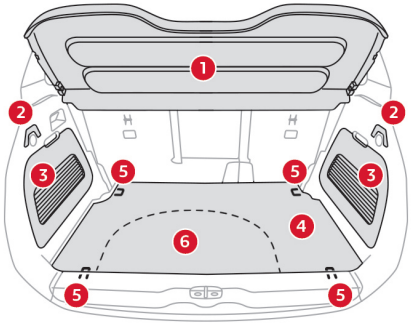
アイコン				設定項目	追加設定項目
				タッチスクリーンの画面が消灯します。	-
				タッチスクリーンの画面の明るさを調整します。	-
				タッチスクリーンのプロファイルを設定します。	-
			**単位**	温度の単位や燃費表示の単位を設定します。	-
			初期設定	タッチスクリーンの初期化を行います。	-
			システム情報	タッチスクリーンのシステム情報を参照します。	-
			プライバシー	GPS（車両の位置情報）の共有を制限する機能です。 **データ及び車両位置情報をシェアしない**：GPS の共有を制限します。Apple CarPlay や Android Auto の接続が無効になります。 **データのみシェア**：GPS の共有を制限します。Apple CarPlay や Android Auto の接続が無効になります。 **データ及び車両位置情報をシェア**：GPS の共有を許可します。Apple CarPlay や Android Auto の接続が有効になります。	-

アイコン				設定項目	追加設定項目
			**明るさ**	タッチスクリーンの画面の明るさを調整します。	-
			アニメーション	画面のアクションなどを設定します。	-
				画面の色を変更します。	-
				言語を設定します。	-
				日時を設定します。	-
				表内の**プライバシー**の項目を参照してください。	-

5

* 仕様により異なります。

ラゲッジルーム



●各部の名称

①：リアパーセルシェルフ
②：フック
③：収納スペース／工具入れ（ラゲッジルーム右側）*
④：2ポジションラゲッジフロアボード
⑤：固定リング
⑥：収納スペース／工具入れ *

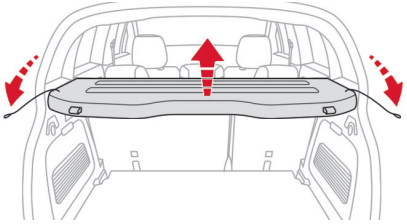
⚠警 告

ラゲッジルームに荷物を積む際には、しっかりと荷物を固定してください。固定されていないと荷物が突然動き、走行に影響をおよぼしたり、急ブレーキや事故の際に、荷物により乗員がケガをするおそれがあります。

●リアパーセルシェルフ

リアパーセルシェルフは、テールゲートを開くと同時に持ち上ります。

取りはずしかた

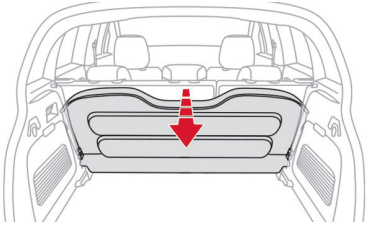


1. 2つのひもをテールゲートからはずします。
2. リアパーセルシェルフを一方に少し傾けながら持ち上げてはずします。

取り付けかた

1. リアパーセルシェルフ両端の切り欠き部分をラゲッジルーム側面の凸部分に合わせ、上から押して固定します。
2. 2つのひもをテールゲートに取り付けます。

格納のしかた

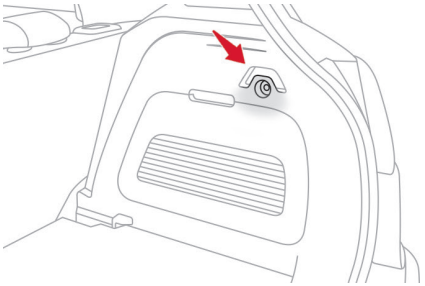


リアパーセルシェルフを取りはずしたら、リアシートの後ろ側、またはリアシートバックを折りたたんでいるときは、フロントシートの後ろ側に立てかけて格納できます。

⚠警 告

リアパーセルシェルフの上には荷物を積まないでください。急ブレーキのときなどに荷物が放り出されて乗員に当たり、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。

●フック

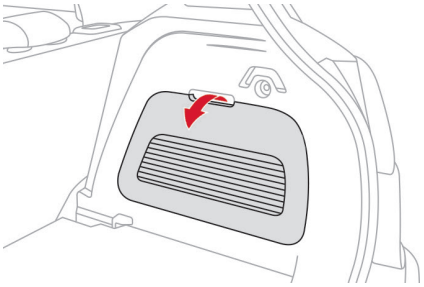


買い物袋などを引っかけるのに便利なフックです。

注 意

重い荷物などを引っかけないでください。

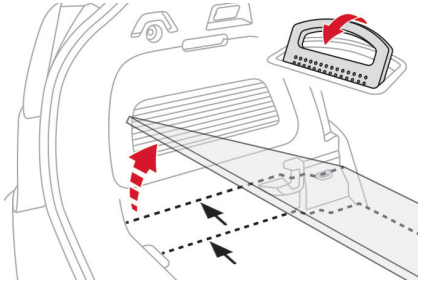
●収納スペース／工具入れ（ラゲッジルーム右側）*



カバーの上部を引いて取りはずすと収納スペースがあります。
ラゲッジルーム右側の収納スペースには工具入れが格納されています。*

* 仕様により異なります。

●2ポジションラゲッジフロアボード



2ポジションラゲッジフロアボードは、高い位置または低い位置にすることができます。
高い位置にすると、リアシートのバックレストを折りたたむことで、テールゲート開口部からフロントシートのバックレストまでをフラットフロアの荷室にできます。
低い位置にすると、収納スペースを広く使用することができます。

高い位置にする

1. 中央部の取っ手を引いて2ポジションラゲッジフロアボードを持ち上げます。
2. ラゲッジルーム前側両端にあるガイドの上側へ2ポジションラゲッジフロアボードをスライドさせます。

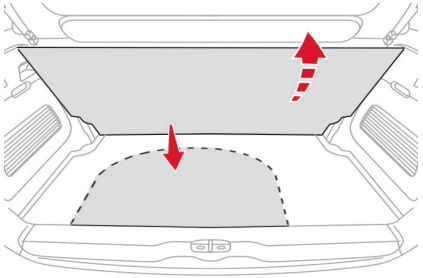
低い位置にする

1. 中央部の取っ手を引いて2ポジションラゲッジフロアボードを持ち上げます。
2. ラゲッジルーム前側両端にあるガイドの下側へ2ポジションラゲッジフロアボードをスライドさせます。

MEMO

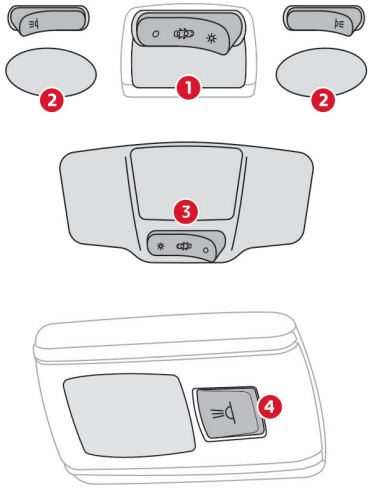
- ●2ポジションラゲッジフロアボードを高い位置にした場合の最大荷重量は約100kg です。
- ●2ポジションラゲッジフロアボードの位置の変更は、ラゲッジルームに荷物がない状態で行ってください。

●収納スペース／工具入れ *



中央部の取っ手を引いて2ポジションラゲッジフロアボードを取りはずしてからフロアマットをめくると収納スペースにアクセスできます。
工具入れは2ポジションラゲッジフロアボードの下にあります。*

ルームランプ



①：フロントルームランプ
②：フロントマップランプ
③：リアルームランプ *
④：リアマップランプ *

●フロント／リアルームランプ *

フロント／リアルームランプは、スイッチ①③の位置を切り替えると点灯条件が変更できます。

次の状況でフロントとリアルームランプは点灯します。

・ドアのロックを解除したとき
・イグニッションをオフにしたとき
・ドアが開いたとき

また、次の状況では徐々に暗くなって消灯します。

・ドアをロックしたとき
・イグニッションをオンにしたとき
・イグニッションがオフで、最後のドアが閉まって30秒後

消灯したままになります。

点灯したままになります。

点灯時間は、次の状況で変わります。
・イグニッションをオフにして約10分間
・エコノミーモードで約30秒間
・エンジンを始動すると無制限

●フロント／リアマップランプ *

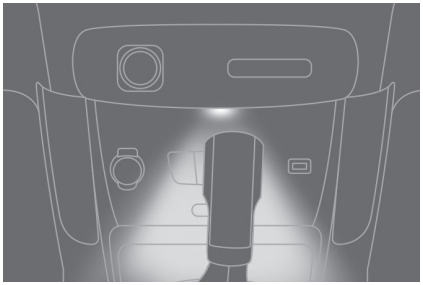
スイッチ②④を押すと点灯／消灯します。

注 意

ルームランプ／マップランプに何も物が触れないようにしてください。

* 仕様により異なります。

●アンビエンスイルミネーション

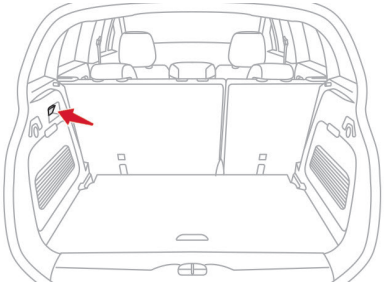


センターコンソールにアンビエンスイルミネーションがあります。

点灯
ポジションランプを点灯すると、自動的に点灯します。

消灯
ポジションランプを消灯すると、自動的に消灯します。

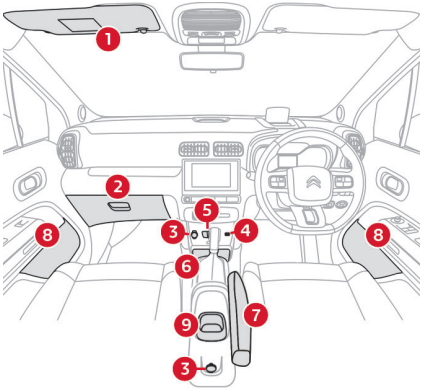
●ラゲッジルームランプ



テールゲートの開閉に合わせて点灯／消灯します。

点灯時間は、次の状況で変わります。
・ イグニッションをオフにして約10分間
・ エコノミーモードで約30秒間
・ エンジンを始動すると無制限

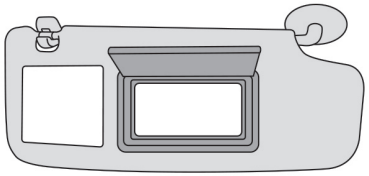
インテリア



●各部の名称

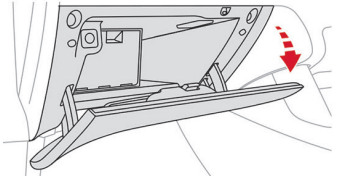
①：サンバイザー
②：グローブボックス
③：12V 電源ソケット（最大使用電力：120W）
④：USB ポート
⑤：小物入れ *
⑥：小物入れ * ／カップホルダー * ／ワイヤレス充電器 *
⑦：フロントアームレスト *
⑧：ドアポケット
⑨：小物入れ／カップホルダー

●サンバイザー



サンバイザーの裏側には、ミラーが備え付けられています。
通行券などを挟むカードホルダーも備え付けられています。

●グローブボックス



ハンドルを引くと開きます。

⚠警 告

グローブボックスのふたを開けたまま走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時に身体がぶつかり、ケガをするおそれがあります。

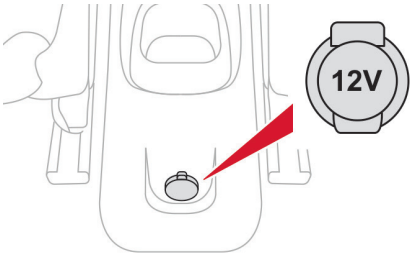
* 仕様により異なります。

●12V 電源ソケット





センターコンソール



リアシート用小物入れ下部

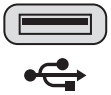
12V 電源（最大使用電力：120W）を使用する際は、カバーを持ち上げてはずし、適切なアダプターを接続します。

注 意

●12V 電源ソケットを使用するときは、最大使用電力を守ってください。規定容量を超える電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。
●接続する機器によっては、車に適合しなかったり正常な作動を妨げる可能性があります。

●USB ポート





USB ポートにさまざまなデバイスをつなげ、保存された音楽を車両スピーカーで楽しむことができます（接続する機器やファイル形式により再生できないものもあります）。
ステアリングスイッチおよびタッチスクリーンで再生操作が行えます。
USB ポートを使用すると、接続したデバイスが自動的に検出されます。

MEMO

●USB ポートへ接続すると、自動的に接続した機器の充電が行われます。
●使用電力が規定容量を超える機器を使用するとメッセージが表示されることがあります。

●ワイヤレス充電器 *





ワイヤレス充電器は、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格Qiに適合したスマートフォンなどの携帯機器を、Qi マークのある充電エリアに置くだけで充電することができます。

MEMO

「Qi（チー）」は、Wireless Power Consortium の登録商標です。

充電



エンジン回転中に携帯機器の充電面を下にして、充電エリアの中心付近に置くと、表示灯が緑色に点灯し、充電が開始されます。充電が完了すると、表示灯が消灯します。

MEMO

- ●携帯機器の充電を開始する前に、充電エリアに異物がないか確認してください。
- ●携帯機器の充電は、1度につき1つの機器のみ可能です。
- ●ストップ＆スタートの停止モードのときも充電できます。
- ●ドアを開けたり **ENGINE START/STOP** スイッチの操作を行うと一時的に充電が停止することがあります。

表示灯



消灯しているとき
- エンジンが停止しています
- 充電が完了しています
- 充電エリアに携帯機器がありません

緑色に点灯しているとき
- 携帯機器を検出しています
- 充電中です

橙色に点滅しているとき
- 携帯機器と充電エリアの間に異物があります
- 携帯機器が充電エリアの中心からずれました

橙色に点灯しているとき
- 携帯機器に異常があります
- 携帯機器の温度が上昇しました
- ワイヤレス充電器が故障しました

* 仕様により異なります。

MEMO

●表示灯が橙色に点滅したら、携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除くか、携帯機器を充電エリアの中心付近に置き直してください。
●表示灯が橙色に点灯したら、一旦充電を停止し、しばらくしてから充電を開始してください。解決しない場合は、シトロエン指定サービス工場へご連絡ください。

⚠警 告

●安全上の理由から、携帯機器を充電する場合、車両を停止した状態で操作してください。
●ワイヤレス充電器が心臓ペースメーカーなど医療用機器に影響をおよぼすおそれがあります。事前に医療用機器メーカーなどに確認してください。

⚠警 告

●機器の故障や火災を防ぐために、次のことをお守りください。
- 携帯機器と充電エリアの間に金属製のものなどを挟まないでください。
- 充電エリアにものを置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 指定の携帯機器以外は使用しないでください。
- 磁気を帯びたものを近付けないでください。
- 充電エリアが汚れた状態で充電しないでください。
- 充電エリアを水などで濡らさないでください。

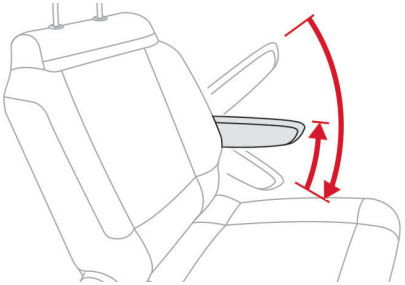
注 意

携帯機器の充電中は、充電エリアの付近にコインやスマートキーなどの金属製のものなどを置かないでください。発熱により機器が故障するおそれがあります。

MEMO

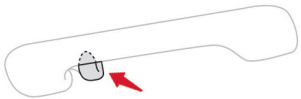
●充電中は携帯機器が温かくなることがありますが、異常ではありません。
●携帯機器にカバーやアクセサリーを取り付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては、充電できないことがあります。
●近くに強い電波を発する設備があるときは充電できないことがあります。
●携帯機器の種類により充電できないことがあります。
●携帯機器の取扱説明書も参照してください。

●運転席アームレストの高さ調整 *



1. アームレストを高位置より少し高くまで引き上げ、低位置まで戻します。
2. アームレストをお好みの高さ (低 / 中 / 高) まで引き上げます。

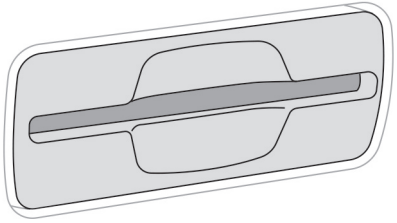
●コートフック



コートなどを引っかけるのに便利なフックです。

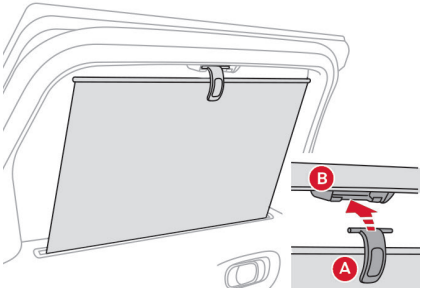
●チケットホルダー *





駐車券などを入れることができます。

●リアシートのサンシェード



リアシート用のサンシェードは、後席ドアに装備されています。
サンシェードを閉めても外の景色を見ることができます。

使用するとき

1. タブ **A** を引き上げてサンシェードを引き出します。
2. フック **B** に引っ掛けて固定します。

* 仕様により異なります。

⚠注 意

サンシェードを引き出したり、戻すときは、タブ **A** を持ってゆっくり行ってください。

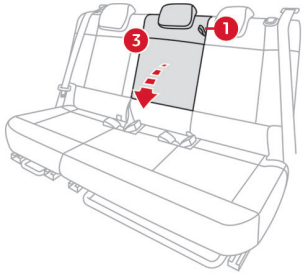
注 意

サンシェード周辺部 (サンシェードやサンシェードフックなど) に、重たい物を取り付けたり、吊り下げたりしないでください。

●リアアームレスト(スキーフラップ) *

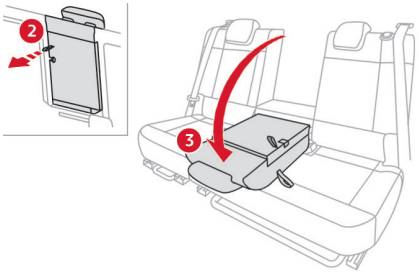
リア中央シートのシートバック上部を引き出すとリアシート用のアームレストとして使用することができます。
また、スキー板などの長い荷物を載せることができるようになり、スキーフラップとして機能します。

リアシート側から引き出す



1. ストラップ①を手前に引いてアームレストのロックを解除します。
2. アームレスト③を前方へ倒します。

ラゲッジルーム側から引き出す



1. ストラップ②を手前に引いてアームレストのロックを解除します。
2. アームレスト③を前方へ倒します。

⚠警 告

アームレストを元に戻すときには、しっかりと固定されていることを確認してください。しっかりと固定されていないと、急ブレーキや事故などのときにケガをするおそれがあります。また、ラゲッジルームの荷物が放り出されて乗員に当たり、ケガをするおそれがあります。

第6章　お手入れ・メンテナンス

外装のお手入れ…… 6-2
内装のお手入れ…… 6-2
エンジンルームの点検…… 6-3
電球の交換…… 6-6
ヒューズの交換……6-12
燃費の改善について……6-13
推奨交換時期……6-14
推奨油脂類……6-14
推奨点検時期……6-15

外装のお手入れ

自動車の使用される環境はさまざまで、工場地帯の酸を含んだ空気、鉄道沿線の鉄粉、沿岸部の塩分を含んだ風、積雪地帯の融雪剤などは車体に対して腐食、錆といった悪影響を与えます。
長期間にわたって車を美しく安全に使用していただくためには、こまめなお手入れをお勧めします。

●洗車機による洗浄

通常のお手入れは、洗車機による洗浄で十分です。
ただし、ボンネットの合わせ目、ドアの下などは汚れが残ることが多いので、手洗いをお勧めします。

●手による洗浄（手洗い）

まずホースでたくさん水をかけて、ほこりを落とします。
次にスポンジと適当に薄めたカーシャンプーで車体の上から下へと洗います。
最後に車体の下側をホースで水をかけてきれいにします。

内装のお手入れ

●レザーシート

レザーは、汚したままにしておくと摩耗してもろくなります。
定期的にお手入れすることをお勧めします。
清掃は、水につけて固くしぼった布で表面を拭き、その後やわらかい清潔な布で乾拭きします。
汚れがひどいときは、市販の皮革用洗剤を使用します。

●ビニール（インストルメントパネル、ドアトリムパッド、ヘッドライニング）

やわらかい布に温かい石けん液を含ませ、よくしぼって拭きます。

●シートベルト

石けん水をつけた固くしぼった布で、ベルト部分だけを拭きます。
清掃時は、金属部分に水が付かないようにしてください。
シトロエン販売店では、シートベルトに使用できるクリーニング製品を取り扱っています。

●ウィンドウガラス、ミラー

市販のガラス専用クリーナーで洗浄してください。

●フロアマット、カーペット

車外に取りはずし、ほこりや砂を十分に落として内装用洗剤で洗ってください。

●長期間使用しないとき

車を長期間使用しないときは、保管中の故障を防ぐために以下の保守を行ってください。

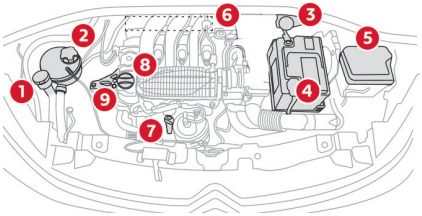
保管前に行うこと

・タイヤのフラットスポット（変形）を防ぐために、タイヤ空気圧を規準より30～50% ぐらい上げてください。
・バッテリーの端子をはずしてください。
・必要に応じて、ボディーカバーをかけてください。

保管中に行うこと

1 ヶ月に1回程度、バッテリーの端子を接続してエンジンを数分～数十分かけてバッテリーを充電してください。

エンジンルームの点検



①：ウィンドウウォッシャー液タンク
②：クーラント（冷却水）タンク
③：ブレーキフルードタンク
④：バッテリー
⑤：ヒューズボックス
⑥：エアフィルター
⑦：エンジンオイルレベルゲージ
⑧：エンジンオイル注入口
⑨：アースポイント（－）

⚠警 告

●エンジンルーム内の点検をする前に、エンジンが冷えていることを確かめてください。
エンジンが熱いときは、イグニッションがオフになっていてもファンが回りだして、思わぬケガをすることがあります。
●エンジンルームから蒸気や冷却水が噴き出ている場合は、ボンネットを開けないでください。やけどやケガを負うおそれがあります。
●作業手順がわからない場合や、必要な工具が不足していたり工具の使用方法がわからない場合は、作業を行わないでください。
●エンジンが停止しているのを確認し、スマートキーを車外に出してください。また、シフトレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
●熱くなっているエンジンの部品には触れないでください。また、熱くなっているエンジンやエキゾーストシステムの上に、オイルなどの液体をこぼさないでください。やけどや火災のおそれがあります。

⚠注 意

エンジンルームのカバー類を取りはずすときは、止めているクリップを損傷しないように注意してください。また、取り付けるときにも注意して取り付けてください。
カバーがしっかりと取り付けられていないと、走行中にはずれて可動部に巻き込まれるなどして、故障や事故の原因になることがあります。

●エンジンオイルの点検

1. 車を水平な場所に停めます。
2. エンジンを停止して30分以上経過してからオイルレベルゲージを抜き取り、布でオイルを拭き取ります。
3. 元の穴にいっぱいに差し込み、再び静かに抜いてゲージに付いたオイルで油量を調べます。



A：上限

B：下限

レベルゲージに付着したオイルの汚れ具合も点検します。オイルはエンジンの回転によって消費されますので、次のオイル交換までの間にオイルを補充しなければいけないことがあります。
走行5000km ごとにオイルレベルを点検し、必要に応じて補充してください。
オイルの消費量が急に増えたり、汚れがひどくなったときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

注 意

遠方へのお出かけ前だけでなく、日頃からエンジンオイルの点検をしてください。

●エンジンオイルの補給

補充する前に、オイルレベルゲージを抜き取っておきます。オイルレベルが上限を超えないようにしてください。補充が完了した後は、キャップの閉め忘れに注意してください。

●エンジンオイルの交換

交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
ただし、市街地や山岳地の走行が多いときには、オイル交換を早めに行います。

注 意

●エンジンを正常な作動状態に保つため、エンジンオイルに添加剤を入れることは避けてください。
●オイルの交換の際は、騒音や排気ガス規制を遵守するためにも、シトロエン純正部品のご使用をお勧めします。

●オイルフィルター

交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
交換するオイルフィルターは、シトロエンの純正部品をご使用ください。

●冷却水の点検

点検は、エンジンを停止してから1時間以上経過して、冷却水が冷えていることを確認してから行ってください。冷却水が少ないときは、冷却水を補給します。
冷却水の減りが著しいときは、シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。
冷却水の補給には、シトロエン純正クーラントを使用してください。

⚠警 告

ラジエター内の圧力が低下する前にキャップをはずすと、高温の冷却水が噴出しやけどの原因になります。

MEMO

●冷却水の補給はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。
●冷却水の交換は必要ありません。

●ブレーキフルードの量
ブレーキフルードの量は、タンクのMAXレベル付近にあれば適正です。定期的に量を確認してください。

●ブレーキフルードの交換
ブレーキフルードは、時間がたつと吸湿し耐熱温度が低く（ベーパーロックが起こりやすく）なりますので、定期的に交換してください。
交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。

⚠警 告

ブレーキフルードが肌に直接触れるのは避けてください。腐食性が強く、健康に害を及ぼすことがあります。

注 意

ブレーキフルードは車の塗装面を傷めますので、付着した際にはすぐに水で洗い流してください。

MEMO

ブレーキフルードの交換をしたら、タンクのキャップの汚れを落としてから取り付けてください。

●オートマチックトランスミッションフルード（ATF）
交換の必要はありません。

●ウォッシャー液
タンク内のウォッシャー液が少ないときは、シトロエンの推奨品を補給してください。

●バッテリー
特に寒冷地の使用では、冬になる前にシトロエン指定サービス工場でのチェックをご依頼ください。

●エアフィルター、室内フィルター
交換頻度は、この章の「推奨交換時期」をご覧ください。
市街地やほこりが多いところでの走行が多いときは、早めに交換してください。
交換はお近くのシトロエン指定サービス工場にご依頼ください。

●ブレーキパッド
ブレーキパッドは運転の状況により消耗の度合いが変わります。定期的に点検を受けてください。ブレーキパッドが摩耗するとブレーキフルードのレベルも下がります。

●ブレーキディスク
ブレーキディスクは消耗部品です。シトロエン指定サービス工場で定期的に点検を受けてください。

●パーキングブレーキ
パーキングブレーキの引きしろが適正であるか確認してください。
シトロエン指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠注 意

環境汚染防止のために、使用済みのエンジンオイルやブレーキフルードなどは、絶対に地面や下水に廃棄しないでください。

注 意

- 車のパフォーマンスを最大に引き出すためには、パワーステアリングやブレーキシステム同様、シトロエンが指定する部品を使用することが重要です。
- エンジン本体への高圧洗浄は、電子機器への影響を避けるためにも絶対におやめください。

電球の交換

⚠警 告

- 作業手順がわからない場合や、必要な工具が不足していたり工具の使用方法がわからない場合は、作業を行わないでください。
- 電気回路を改造しないでください。

⚠注 意

電球の表面が冷えてから交換してください。消灯直後は電球の表面が高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

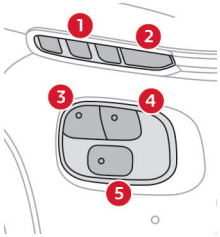
注 意

- 交換する電球には、油などの汚れを付けないでください。電球はきれいで乾いた布で持ち、指紋などを付着させないでください。
- ヘッドランプの透明レンズはプラスチック製です。溶剤を使用したり、粗い布などで強くこすらないでください。
- 高圧洗車機を使用するときは、ヘッドランプ付近に長時間当てないでください。塗装がはがれるおそれがあります。
- 交換作業中に電気配線を切断しないように注意してください。
- ヘッドランプを交換するときは、UV カット仕様の電球を使用してください。ヘッドランプのレンズなどが変色するおそれがあります。
- 電球の交換の際は、必ず同じ規格の新しい電球を使用してください。

MEMO

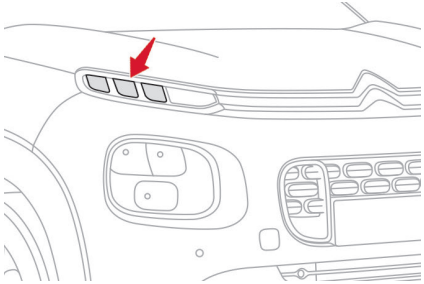
低温高湿度のときなど、ヘッドランプの透明レンズの内側が曇ることがありますが、異常ではありません。ライトが点灯すると、数分で消滅します。

●ヘッドランプ



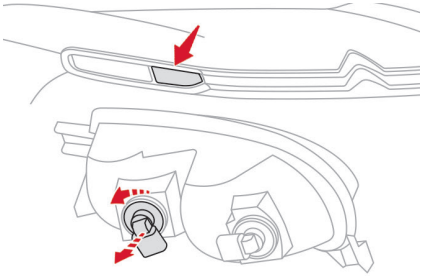
①：デイタイムランニングランプ／ポジションランプ（LED）
②：方向指示器（PY21 W）
③：ロービームヘッドランプ（H7）
④：ハイビームヘッドランプ（H7）
⑤：フロントフォグランプ（H8）

①：デイタイムランニングランプ／ポジションランプ用電球（LED）



デイタイムランニングランプ／ポジションランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

②：方向指示器用電球（PY21 W）



1. バルブホルダーを反時計回りに回転させてはずします。
2. 電球を交換します。

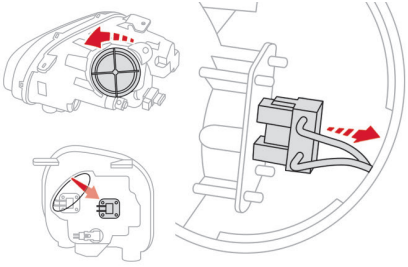
注 意

色付きバルブは、同じ規格の同じ色の電球を使用してください。

MEMO

インストルメントパネルのウィンカー表示灯の点滅が早くなったときは、点滅が早い方の方向指示灯の電球切れが考えられます。

③:ロービームヘッドランプ用電球 (H7)

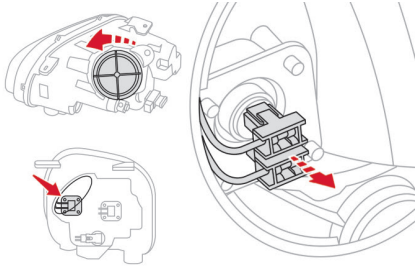


1. 交換する電球のカバーを反時計回りに回転させてはずします。
2. 電球を引いてはずします。
3. コネクターをはずします。
4. 電球を交換します。

MEMO

バルブが適切な向きに固定されるように正しく取り付けてください。

④:ハイビームヘッドランプ用電球 (H7)

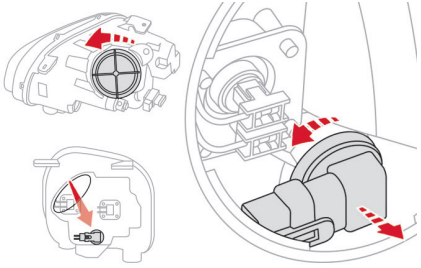


1. 交換する電球のカバーを反時計回りに回転させてはずします。
2. 電球を引いてはずします。
3. コネクターをはずします。
4. 電球を交換します。

MEMO

バルブが適切な向きに固定されるように正しく取り付けてください。

⑤：フロントフォグランプ用電球（H8）



1. 交換する電球のカバーを反時計回りに回転させてはずします。
2. コネクターをはずします。
3. 電球を1 ／ 4回転させてから引いてはずし、交換します。

MEMO

交換ができないときは、シトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

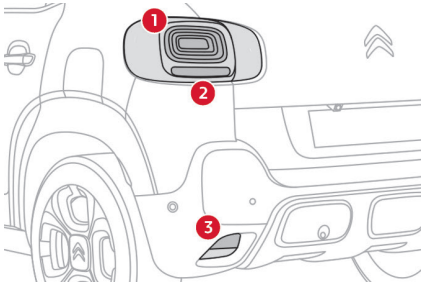
* 仕様により異なります。

● ドアミラーウィンカー（LED）／エクステリアサイドランプ（LED）*



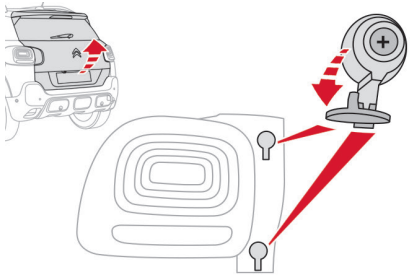
ドアミラーウィンカー／エクステリアサイドランプ * の交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

● テールランプ

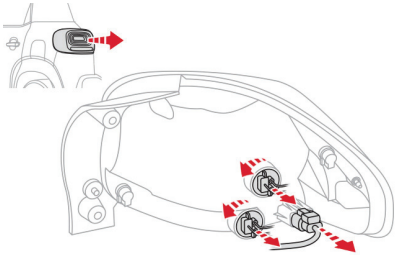


①：ストップランプ／ポジションランプ（W21 ／ 5 W）
②：方向指示器（WY21 W）
③：右側：リアフォグランプ（P21 W）
　左側：リバースランプ（P21 W）

①：ストップランプ／ポジションランプ用電球（W21 ／ 5 W）／②：方向指示器用電球（WY21 W）



1. テールゲートを開きます。
2. マイナスドライバーの先を2箇所あるプラスチックカバーの穴に差し込み、こじって開けます。
3. 2箇所あるネジをはずします。

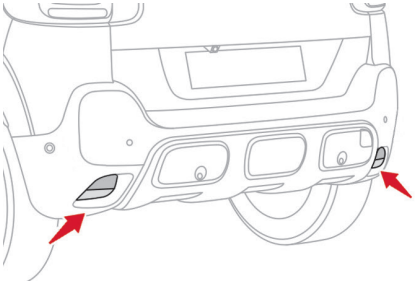


4. ランプユニットを引き出します。
5. コネクターをはずします。
6. バルブホルダーを反時計回りに
   1／4回転させてはずします。
7. 電球を交換します。

注 意

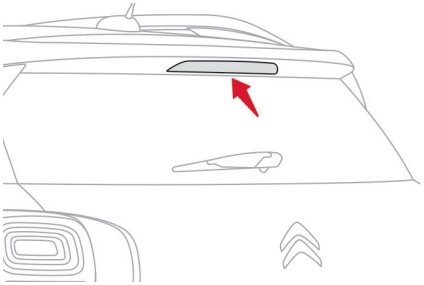
●電球を交換した後は、ランプユニットをガイドに固定して車体にしっかりはめ込んでください。
●ランプユニットのネジは締め付け過ぎないようにしてください。ランプユニットを破損するおそれがあります。

③：右側：リアフォグランプ用電球
（P21 W）
左側：リバースランプ用電球
（P21 W）



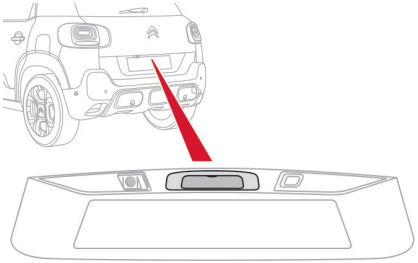
リバースランプ／リアフォグランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

●ハイマウントストップランプ（LED）



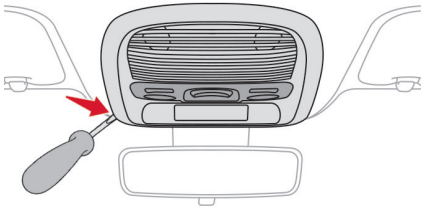
ハイマウントストップランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

●番号灯（LED）

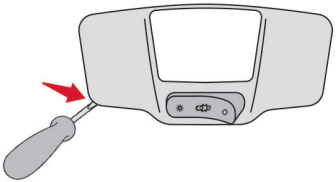


番号灯の交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

●ルームランプ／マップランプ（LED ／ W5 W）



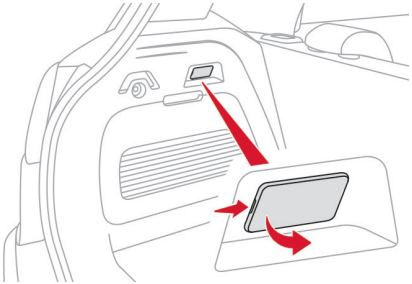
フロントルームランプ／マップランプ



リアマップランプ

ルームランプ／マップランプの交換はシトロエン指定サービス工場にお申し付けください。

●ラゲッジルームランプ（W5 W）



1. 小さいマイナスドライバーの先をランプユニット端部の穴に差し込み、こじってはずします。
2. 電球を交換します

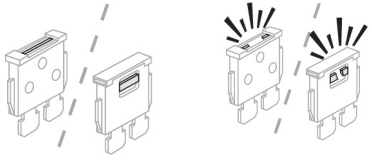
ヒューズの交換

ヒューズボックスは、助手席のグローブボックス内とエンジンルームにあります。ヒューズの交換は、シトロエン指定サービス工場にご相談ください。

注 意

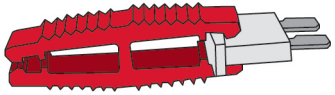
交換する前に、ヒューズが不良となった原因を見つけて処置をしておいてください。正しい処置をしておかないと、再発するおそれがあります。

ヒューズは容量によって色分けされています。必ず同じ色（容量）のヒューズと交換してください。



正常なヒューズ　　切れたヒューズ

ヒューズを交換するときは、グローブボックス内のカバーに備えてある専用ピンセットを使用してください。



⚠注 意

車の電気回路は、出荷時に装着されている装備に合わせて設計、製作されています。
推奨していないアクセサリーの取り付け、アクセサリーの不適切な取り付け、ワイヤーハーネスの加工などは、他の電装品の正常な作動を妨げたり火災の原因となることがあります。
シトロエンでは、当社が供給や推奨していない、10mA 以上の電流を消費するアクセサリーの取り付けや、当社の指示に従わない装着方法によって発生した車、および機器の不具合の修理については、その費用を負担いたしません。
エンジンルーム内ヒューズボックスにある大容量ヒューズには手を触れないでください。整備が必要な場合は、必ずシトロエン指定サービス工場に依頼してください。
アクセサリーその他の電気製品の取り付けは、シトロエン指定サービス工場にご依頼ください。

燃費の改善について

燃費は、車の設計だけではなく、車の状態や運転方法によって大きく影響を受けます。車を最良の状態に保ち燃費を良くするためにも、定期的に点検整備を行ってください。

●エンジンコンディション
主要部品については、少なくとも年に1回は点検を受けてください。

●エアフィルター
フィルターがつまるとエンジンの効率が悪化します。ほこりの多い環境や市街地での走行が多いときは、こまめに点検を受けてください。

●手荷物など
ラゲッジルームに不用な手荷物などが積みっぱなしになっていると、車両重量が増加して、燃費の悪化につながります。
ルーフキャリアやスキーキャリアなどのアクセサリーは、風の抵抗を受けて燃費を悪化させます。
必要がなくなったらすみやかに取りはずしてください。

●タイヤ
交換するときは、現車と同一サイズでシトロエンが推奨する銘柄、グレードのタイヤを使用してください。

●運転方法
エンジン始動後に長時間の暖機運転は必要ありません。
運転時は、ゆっくり発進し、急加速や空ぶかしを避けてください。
走行中はなるべく高いギアを選択し、一定のスピードを保つようにしてください。
走行速度が上がると燃費も悪化します。
法定速度を遵守して、スムーズな運転を心がけてください。
エンジン始動後の数分間は、適正温度の状態と比較して2倍以上燃費が悪化します。
あらかじめ走行経路を考慮して、無駄な走行をなくしましょう。

推奨交換時期

車の使用頻度が高いとき、市街地や高温環境下での使用が多いときは、メンテナンス時期を早めるようにしてください。

エンジンオイル	1年または20,000km ごと
オイルフィルター	1年または20,000km ごと
ブレーキフルード	2年または60,000km ごと
エアフィルターエレメント	2年または40,000km ごと
スパークプラグ	2年または40,000km ごと
室内フィルター	1年または20,000km ごと

●エンジンオイルについて

上記の交換時期は、推奨する化学合成ベースのエンジンオイル（例：TOTAL QUARTZ INEO FIRST 0W-30）を使用した場合です。

推奨油脂類

エンジンオイル
TOTAL QUARTZ INEO FIRST（0W-30）

ブレーキフルード
シトロエン純正ブレーキフルード（DOT4）

クーラント
シトロエン純正クーラント

推奨点検時期

車の使用頻度が高いとき、通常よりも厳しい状態の使い方をしたときは、メンテナンス時期を早めるようにしてください。

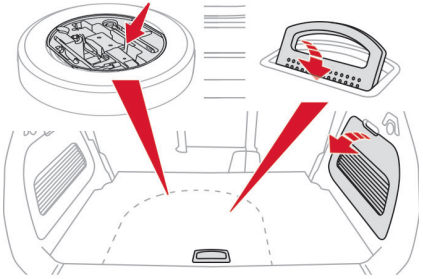
タイミングキットおよびクーラントポンプの点検	100,000km ごと
補機ドライブベルトキットの点検	初回3年、次回から2年ごと
クーラント pH の点検	初回3年、次回から2年ごと

もしものとき

ホイール（タイヤ）の交換 7-2
パンク修理キット 7-8
バッテリーが上がったとき 7-15
けん引されるとき 7-19

ホイール（タイヤ）の交換 *

●工具の取り出し



ジャッキと工具は、2ポジションラゲッジフロアボードの下、またはラゲッジルーム右側の収納スペースの中にあります（ホイールレンチアダプター⑤* はグローブボックスの中に格納されている場合もあります）。

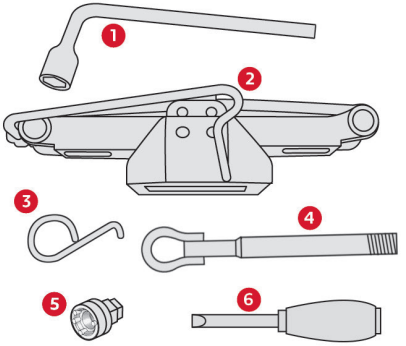
2ポジションラゲッジフロアボードの下にある場合

ジャッキと工具にアクセスするには、2ポジションラゲッジフロアボードを取りはずし、フロアマットをめくります。

ラゲッジルーム右側の収納スペースの中にある場合

ジャッキと工具にアクセスするには、ラゲッジルーム右側の収納スペースのカバーの取っ手を引いて取りはずします。

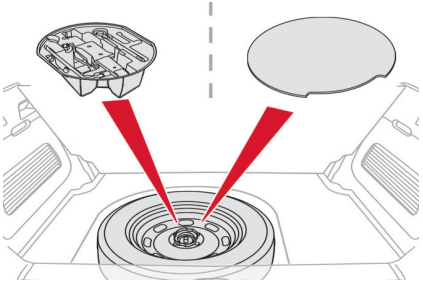
●ジャッキと工具



①：ホイールレンチ
②：ジャッキ
③：ホイールトリムリムーバー（アルミホイール装着車）
④：けん引ボルト
⑤：ホイールレンチアダプター（盗難防止ボルト用）*
⑥：けん引ボルトカバーオープナー

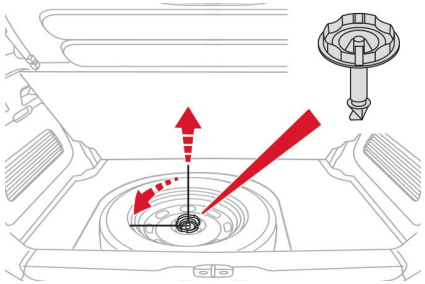
*仕様により異なります。

●スペアタイヤの取り出し



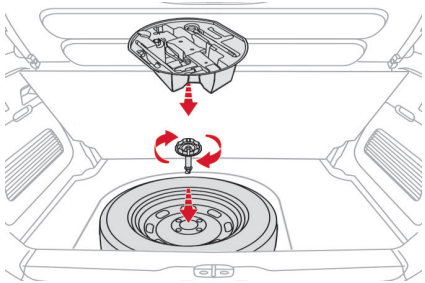
スペアタイヤは、2ポジションラゲッジフロアボードの下に格納されています。

1. 2ポジションラゲッジフロアボードを取りはずします。
2. フロアマットをめくります。
3. スチロールを取りはずします。*
4. 工具入れまたはカバーを取り出します。



5. 中央のナットをゆるめ、取りはずします。
6. スペアタイヤを取り出します。

●タイヤの格納



1. タイヤを入れます。
2. ナットを少しゆるめ、ホイールの中央にねじ込みます。
3. タイヤが正確に収まっていることを確認して、きつく締めます。
4. 工具入れまたはカバーをホイールの中央に戻します。
5. スチロールを取り付けます。*
6. 2ポジションラゲッジフロアボードを取り付けます。

MEMO

●タイヤを格納しないと、ナットは取り付けられません。
●標準サイズのタイヤは2ポジションラゲッジフロアボードの下に格納できません。

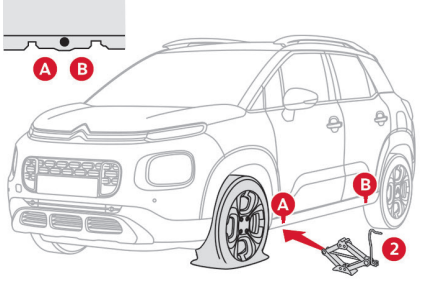
●タイヤ交換後の処理

1. 交換したスペアタイヤの空気圧とホイールバランスを確認してください。
2. はずしたタイヤの修理を早急に行い、スペアタイヤと交換してください。

MEMO

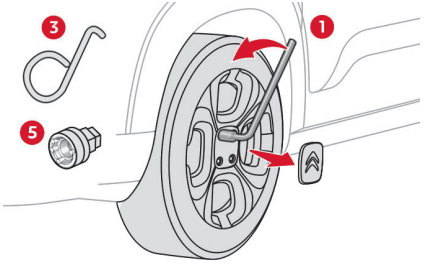
アルミホイール装着車は、タイヤの修理後、必ずはずしたボルトカバーを取り付けてください。

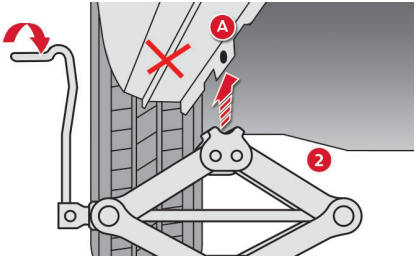
●ホイールの取りはずし

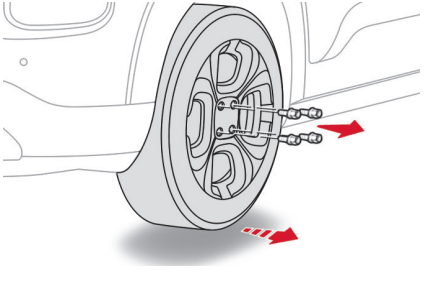


硬く平坦な路面で安全な場所に車を停めます。
パーキングブレーキを引き、シフトレバーをPに入れて、イグニッションをオフにします。
取りはずすタイヤと対角位置にあるタイヤに、市販の輪止めを当てます。

手順







1. スチールホイール装着車は、ハブキャップを取りはずします。アルミホイール装着車は、ホイールトリムリムーバー③を使用して、ボルトカバーをはずします。
2. ホイールレンチ①でボルトを少しゆるめます。
   盗難防止ボルトをゆるめるときは、ホイールレンチアダプター⑤をホイールレンチ①に取り付けます。*
3. ジャッキ②を車の下側フレームA部分（リアはB部分）にあてがい、軽くジャッキアップしてジャッキがA（もしくはB）に確実に収まっていることを確認します。
4. タイヤが地面から完全に離れるくらいまでジャッキアップします。

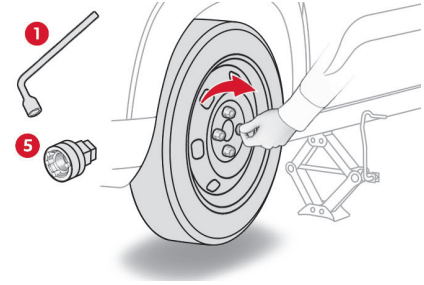
5. ボルトをはずします。なくさないように注意してください。
6. ホイールをはずします。

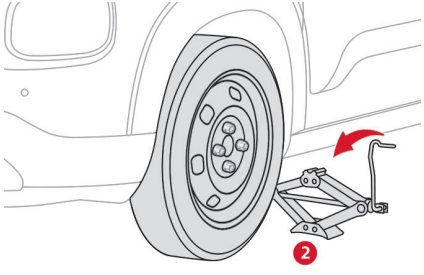
注 意

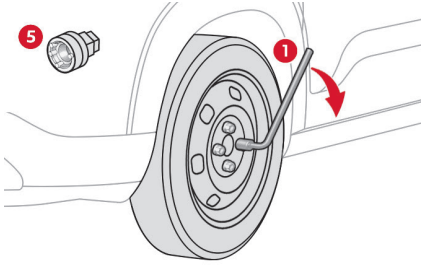
プラスチック仕上げ部分にはジャッキをあてがわないでください。

*仕様により異なります。

●ホイールの取り付け







1. ホイールをハブにはめます。
2. ボルトを差し込み、手で止まるまで回します。
3. ホイールレンチ①を使ってボルトを軽く締めます。
   盗難防止ボルトを締めるときは、ホイールレンチアダプター⑤をホイールレンチ①に取り付けます。*

4. ジャッキ②を完全にゆるめ、タイヤを接地させます。

5. ホイールレンチ①を使って、ボルトを対角線上に2～3回に分けてしっかり締めます。
   盗難防止ボルトを締めるときは、ホイールレンチアダプター⑤をホイールレンチ①に取り付けます。*

⚠警 告

●ジャッキアップするときは、必ず市販の輪止めを使用し、絶対に車の下に入らないでください。バランスが崩れた場合に車がジャッキからはずれ、落下するおそれがあります。
●ホイールボルトとハブのネジ部に注油したり、他のボルトを使用しないでください。走行中にネジがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
●ジャッキアップするときは、乗員を全員車両から降ろしてください。
●ジャッキアップ中はエンジンを始動させないでください。エンジンの振動により、ジャッキがはずれるおそれがあります。
●指定された場所以外にジャッキを装着しないでください。車両が損傷したり、ジャッキがはずれるおそれがあります。
●スペースセーバータイヤを2本以上同時に使用しないでください。

⚠注 意

●タイヤを交換するときは、必ず同サイズ同種類のタイヤを使用してください。他のタイヤを使用すると、安全走行に悪影響をおよぼします。
●スペースセーバータイヤの使用時の最高速度は時速80kmです。
●スペアタイヤを装着したら、すみやかにシトロエン指定サービス工場でスペアタイヤの空気圧が適切か、ホイールボルトがしっかりと締め付けられているか点検を受けてください。
●スペースセーバータイヤは一時的な使用に限られています。常用タイヤのパンクなどで使用したときは、早急にパンクの修理を行い交換してください。
●搭載されているジャッキやレンチ、スペアタイヤは、この車専用です。他の車に使用したり、他の車のものを使用したり、他の用途に使用しないでください。

注 意

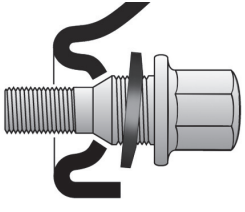
盗難防止ボルトの専用アダプター*を使用するときは丁寧に扱ってください。急激な力を加えたり、乱暴にレンチを回すと、ピンを破損することがあります。

*仕様により異なります。

MEMO

●盗難防止ボルトの専用アダプター*の番号を控えておいてください。紛失した際に、番号から複製を入手することができます。

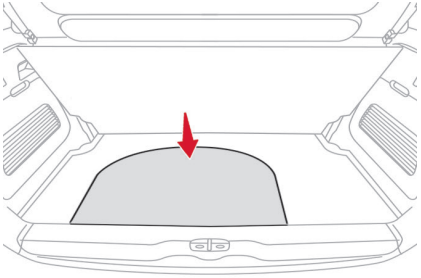
●アルミホイールの代わりにスチールホイールやスペースセーバータイヤを使用するとき、ホイールボルトの平ワッシャーがリムに接せず遊んでいても問題ありません。



●タイヤ交換を行った後は、間接式タイヤ空気圧警告システムのリセットを行ってください。

パンク修理キット*

●パンク修理キットの場所

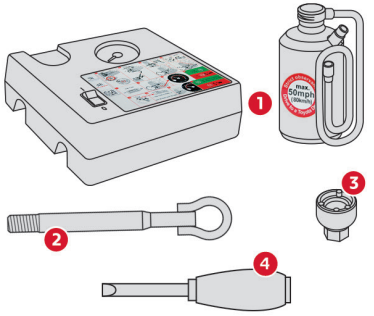


パンク修理キットと工具は、2ポジションラゲッジフロアボードの下に格納されています（ホイールレンチアダプター③が装備されている場合は、グローブボックスの中にあります）。
パンク修理キットと工具にアクセスするには、2ポジションラゲッジフロアボードを取りはずしてからフロアマットをめくります。

MEMO

- ●パンク修理キットはシトロエン販売店でお買い求めいただけます。
- ●タイヤのトレッド部またはショルダー部以外の損傷によるパンクは、パンク修理キットを使用して修理することができません。
- ●タイヤに刺さった釘などは抜かずにそのまま応急修理をしてください。
- ●修理キットを使用するときは、すべての手順を行ってください。

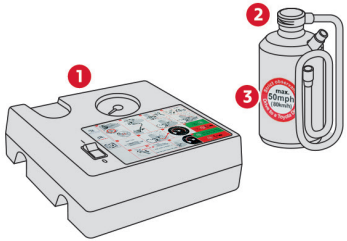
●パンク修理キットと工具



①：パンク修理キット
②：けん引ボルト
③：ホイールレンチアダプター（盗難防止ボルト用）*
④：けん引ボルトカバーオープナー

*仕様により異なります。

●各部の名称



①：コンプレッサー
②：修理剤カートリッジ
③：注意ステッカー

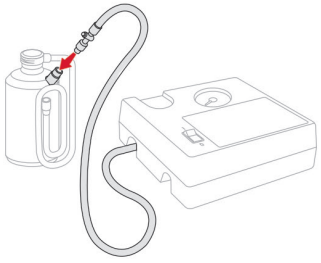
⚠警 告

●パンク修理キットで修理した後は、修理剤カートリッジに貼り付けされている注意ステッカーを車内の運転者から見える位置に必ず貼り付けてください。

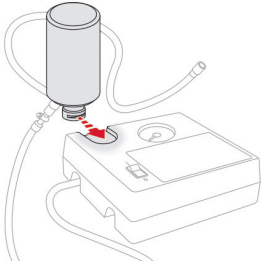


●パンク修理キットで修理したタイヤで走行するときは、**時速80km**以下で走行してください。

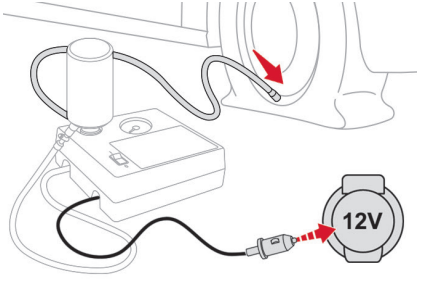
●使いかた



1. イグニッションをオフにします。
2. 修理剤カートリッジに貼付されている注意ステッカーをはがして、車内の運転者から見える位置に貼り付けます。
3. コンプレッサーの裏からホースを引き出し、カートリッジに接続します。



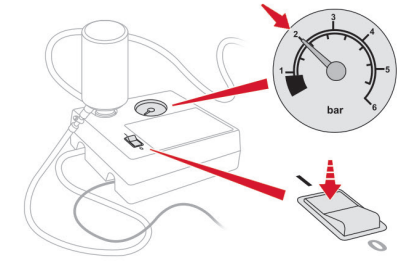
4. 修理剤カートリッジをコンプレッサーに固定します。



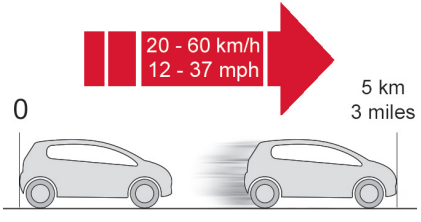
5. 修理剤カートリッジから出ているホースを修理するタイヤのバルブに接続します。
6. スイッチが**O**になっていることを確認してから、コンプレッサーの電源コードをセンターコンソールの12V電源ソケットに差し込みます。
7. エンジンを始動します。

⚠警 告

修理剤カートリッジから出ているホースをつなぐ前に、電源を入れないでください。修理剤が噴き出すおそれがあります。



8. スイッチを**I**にして、空気圧を**2.0bars**まで昇圧します。



9. スイッチを**O**にしてから、パンク修理キットを取りはずし、直ちに走行してタイヤ内に修理剤を行き渡らせます。このとき、時速**20～60km**で約**5km**走行します。

⚠警 告

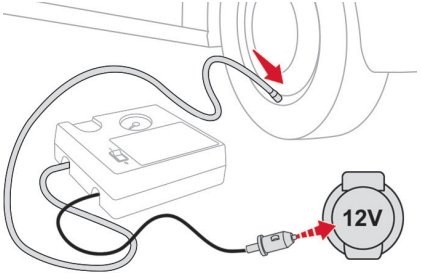
- ●パンク修理キットはコンプレッサーで圧力をかけて修理剤をタイヤに注入します。修理剤の注入中にホースをバルブから抜かないでください。ホースの口から修理剤が噴き出すおそれがあります。
- ●修理剤が目や口に入らないように十分注意してください。
- ●パンク修理キットはお子さまには使用させないでください。

⚠注 意

7分以内に**2.0bars**まで昇圧しないときは、パンク修理キットを使用して修理できません。シトロエン指定サービス工場にお問い合わせいただくか、レッカーの手配をしてください。

MEMO

パンク修理キットを取りはずすときは、修理剤が車に付着しないように気をつけてください。付着するとシミになるおそれがあります。



10. コンプレッサーの裏からホースを引き出し、修理するタイヤのバルブに接続します。
11. スイッチが**O**になっていることを確認してから、コンプレッサーの電源コードをセンターコンソールの12 Ⅴ電源ソケットに差し込みます。
12. エンジンを始動します。
13. 空気圧が助手席側ドアピラー部に表示されている適正値になるように調整します。
    ・昇圧： スイッチを**I**にする。
    ・減圧： ホースの先にあるコネクターの黒いボタンを押す。
14. 空気の漏れがないことを確認します。
15. コンプレッサーを取りはずし、パンク修理キットを元の位置に格納します。
16. 時速**80km**以下で走行し、できるだけ早くシトロエン指定サービス工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

⚠警 告

パンク修理キットで修理した後は、約**200km**以上走行しないでください。できるだけ早くシトロエン指定サービス工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

⚠注 意

空気圧が適正値にならないときは、パンク修理キットを使用して修理できません。シトロエン指定サービス工場にお問い合わせいただくか、レッカーの手配をしてください。

⚠注 意

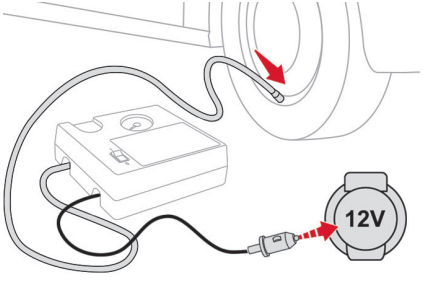
パンク修理剤の有効期限は、製造後約**8**年です。有効期限はカートリッジに表示されています。
例：EXP：04/2027
　　||
　2027年4月まで

MEMO

●修理剤は一度しか使用できません。使用後は、新品の修理剤をシトロエン指定サービス工場でお買い求めください。
●使用済みの修理剤カートリッジはシトロエン指定サービス工場までお持ちいただくか、地域条例に従って廃棄してください。

●タイヤの空気圧を点検する

コンプレッサーを使用してタイヤの空気圧を点検することができます。



1. コンプレッサーの裏からホースを引き出し、車両のタイヤのバルブに接続します。
2. スイッチが**O**になっていることを確認してから、コンプレッサーの電源コードをセンターコンソールの12V電源ソケットに差し込みます。
3. エンジンを始動します。
4. 空気圧が助手席側ドアピラー部に表示されている適正値になるように調整します。
   ・昇圧： スイッチを**I**にする。
   ・減圧： ホースの先にあるコネクターの黒いボタンを押す。
5. コンプレッサーを取りはずし、パンク修理キットを元の位置に格納します。

MEMO

タイヤの空気圧を調整したら、必ず間接式タイヤ空気圧警告システムのリセットをしてください。

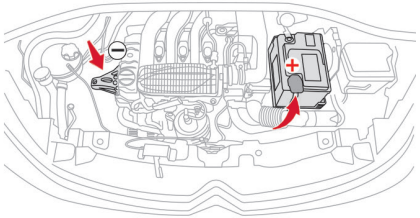
バッテリーが上がったとき

万一バッテリーが上がってしまったときは、充電器（バッテリーチャージャー）で充電するか、同じ電圧（12V）のバッテリーで始動させます。
接続には、市販のブースターケーブルを使用します。ケーブルの接続時は、車の充電系統に損傷を与えないように正しく接続してください。

MEMO

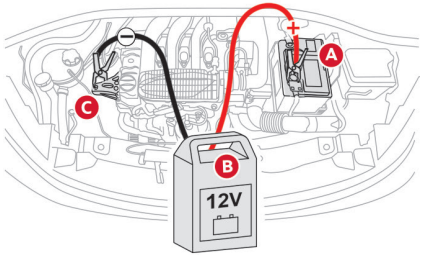
この車両は、押しがけによるエンジンの始動はできません。

●バッテリーの位置



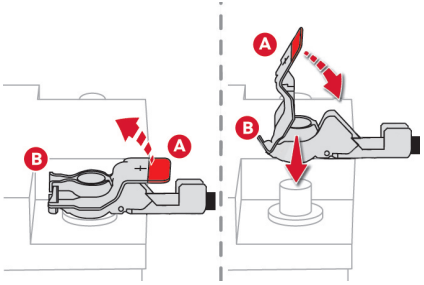
バッテリーはエンジンルーム左側（ボンネットを開いて右側）にあります。
充電器のマイナス端子（ー）／電源を供給する車のバッテリーのマイナス端子（ー）に接続した黒いケーブルは、エンジンルーム右側（ボンネットを開いて左側）の矢印で示した箇所にあるアースポイントに接続します。

●充電器を使用して充電



1. バッテリー **A**の（＋）ケーブルをはずし、バッテリーの端子に汚れがないことを確認します。
2. 最初に充電器**B**のマイナス端子（ー）をアースポイント**C**に接続し、次にプラス端子（＋）をバッテリー **A**のプラス端子（＋）に接続します。
3. 充電器の取扱説明書に従って充電します。

●ケーブルのはずしかた／接続のしかた



はずしかた

ロックタブ**A**をいっぱいまで起こします。

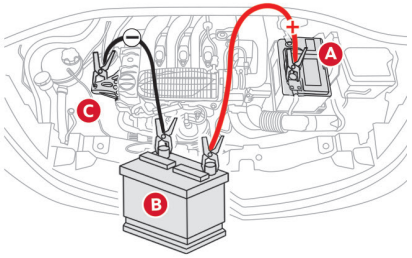
接続のしかた

1. クリップ**B**がバッテリーのプラス端子（＋）の上部に来るように位置を合わせ、クリップ**B**の位置がずれないように、上からバッテリーに押し当てます。
2. ラグを広げてロックタブ**A**を倒し、クリップをロックします。

注 意

クリップは正しい位置にないとロックしません。無理にロックタブを倒さないでください。

●他のバッテリーで始動



1. バッテリー**A**（上がったバッテリー）・**B**（電源を供給するバッテリー）のプラス端子（＋）を赤いケーブルで接続します。
2. 電源を供給する側の車のバッテリー**B**のマイナス端子（－）に、黒いケーブルを接続します。
3. 未接続の黒いケーブルを、バッテリー上がりを起こした車両のアースポイント**C**に接続します。
4. スターターを回してエンジンを始動します。
5. アイドリング状態になるのを待ってからエンジンを停止し、ケーブルをはずします。

*仕様により異なります。

●バッテリーを再接続したとき

エンジンを始動する前に、イグニッションをオンにしたまま約1分間（オドメーターの総走行距離が60km以上の場合は約15分間）保持します。電子機器の初期化が行われます。
長時間バッテリーの接続をはずしていたときは、次の機能の初期化や再設定が必要な場合があります。
・ スマートキー
・ パノラミックサンルーフ*
・ パワーウィンドウ　など

また、一度バッテリーの接続をはずすと数時間はストップ&スタートの停止モードになりませんが、これは異常ではありません。

⚠警 告

●バッテリーのプラス端子（+）とマイナス端子（−）を逆に接続しないでください。
●エンジンの回転中は、バッテリーのターミナルから車両ケーブルをはずさないでください。
●バッテリーの車両ケーブル（+）を接続したまま充電しないでください。
●アイドリング状態になる前にバッテリーのターミナルからケーブルをはずさないでください。
●ケーブルのプラス端子とマイナス端子を絶対に接触させないでください。
●バッテリーは可燃性のガスを発生しますので、バッテリーの近くでは火気を避けてください。
●バッテリー液は腐食性の強い希硫酸です。万一皮膚にバッテリー液がかかった場合は、大量の水で洗い流してください。
●凍ったバッテリーを充電すると爆発するおそれがあります。バッテリーが凍ったら新品と交換してください。
●電源を供給するバッテリーは12Vのものを使用してください。

⚠警 告

●黒いケーブル（マイナスケーブル）を車体に接続する際には、燃料系統やブレーキホース／パイプに接触させないでください。
●ケーブルやエンジンルーム内の回転部分や可動部分に接触しないよう注意してください。

注 意

●イグニッションをオフにして約4分経過してからバッテリーの接続をはずしてください。
●バッテリーからケーブルをはずす前に、パワーウィンドウを閉めてください。
閉めていないと、充電後に再度の初期化が必要になります。
●電子機器に異常を感じたら、シトロエン指定サービス工場にご連絡ください。

MEMO

●車を1 ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーの接続をはずしてください。
●バッテリーは硫酸や鉛などの有害物質を含んでいます。環境汚染防止のため、正しく廃棄してください。

●バッテリー上がり防止モード

バッテリーの電圧が一定レベル以下の場合、エアコンやリアウィンドウデフォッガーなどの多く電力を消費する機能が自動的にオフになります。オフになった機能は、バッテリーの電圧が回復した後、自動的にオンに戻ります。

●エコノミーモード

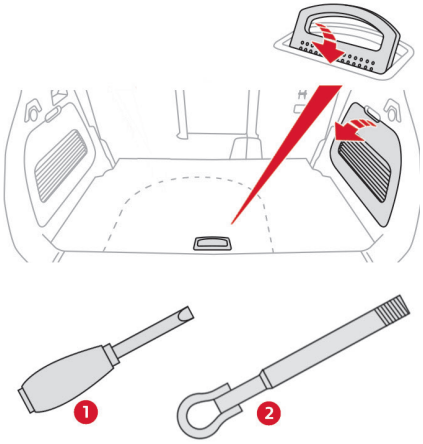
エンジンが停止してからも、オーディオ機器などへの電源供給を走行直後は最大40分行います。電源が切れると、メッセージが表示されます。
エンジンを再始動すると、電源の供給が再開されます。
すぐにアクセサリーを使用したいときは、エンジンを始動して数分間回してください。
エンジンをかけていた時間の倍の間、アクセサリーを使用できます。ただし、この時間は5 ～ 30分に限られます。

MEMO

●バッテリーが弱っているときは、エンジンの再始動ができなくなるおそれがあります。
●バッテリーの充電が不十分なときは、電源の供給時間が短くなることがあります。

けん引されるとき

●けん引ボルトの場所



けん引ボルトカバーオープナー①とけん引ボルト②は、2ポジションラゲッジフロアボードの下の工具入れ、またはラゲッジルーム右側の収納スペースの中にあります。

2ポジションラゲッジフロアボードの下にある場合

けん引ボルトカバーオープナー①とけん引ボルト②にアクセスするには、2ポジションラゲッジフロアボードを取りはずし、フロアマットをめくります。

ラゲッジルーム右側の収納スペースの中にある場合

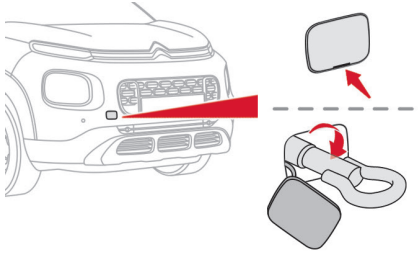
けん引ボルトカバーオープナー①とけん引ボルト②にアクセスするには、ラゲッジルーム右側の収納スペースのカバーの取っ手を引いて取りはずします。

●けん引について

吊り上げずに（4輪が接地した状態）けん引されるとき

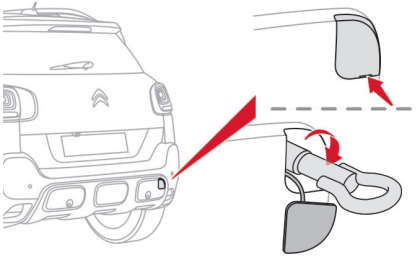
けん引時は、シフトレバーを**N**にしてください。

前からけん引される場合



1. カバー下部のすき間に、けん引ボルトカバーオープナー①を差し込んではずします。
   けん引ボルトカバーオープナー①がプラスドライバーになっている場合は、グリップから抜いて逆向きに差し込んでから使用してください。
2. けん引ボルト②が止まるまでねじ込みます。

後ろからけん引される場合



1. カバー下部のすき間に、けん引ボルトカバーオープナー①を差し込んではずします。
   けん引ボルトカバーオープナー①がプラスドライバーになっている場合は、グリップから抜いて逆向きに差し込んでから使用してください。
2. けん引ボルト②が止まるまでねじ込みます。

吊り上げて（２輪が接地した状態）けん引されるとき

けん引用の車輪に乗せて移動してください。

⚠警 告

エンジンが始動していない状態でけん引される車両は、ブレーキペダルが重く効きが悪くなっています。けん引している前方の車両に追突しないよう注意してください。また、パワーステアリングも作動していません。ハンドルも重くなっていますので注意してください。

注 意

●以下の場合、けん引は専門業者にご依頼ください。
- ・高速道路で走行中に車両が故障した。
- ・シフトレバーが**N**に入らない、ステアリングのロックが解除できない、またはパーキングブレーキが解除できない。
- ・２輪が接地した状態でけん引される。
- ・この車専用のけん引ボルトが使用できない。

●けん引されるときは、以下の点にご注意ください。
- ・シフトレバーは**N**にしてください。シフトレバーを**N**以外でけん引すると、ブレーキシステムが損傷するおそれがあります。また、次回エンジンを作動するとき、ブレーキアシストが作動しないことがあります。
- ・50km以内の距離を、低速（時速30km以下）で移動してください。

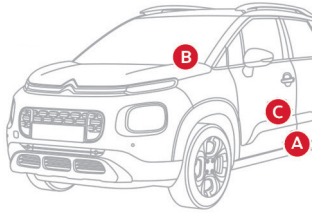
注 意

- この車より重量の重い車両でけん引してください。
- 4輪が接地した状態で車両がけん引されるときは、必ずけん引ボルトを使用してください。
- けん引ボルト以外の箇所にけん引フックをかけないでください。
- けん引される車両は、ハザードランプをオンにしてください。

車両データ・アクセサリー類・索引

識別表示…… 8-2
外形寸法…… 8-3
アクセサリー類…… 8-4
索引…… 8-7
付録……8-13

●識別表示



A　認証ラベル
B　車台番号 (助手席側ダッシュボード)
C　タイヤ仕様

⚠注 意

タイヤを交換するときは、必ず同サイズ同種類のタイヤを使用してください。他のタイヤを使用すると、安全走行に悪影響をおよぼします。

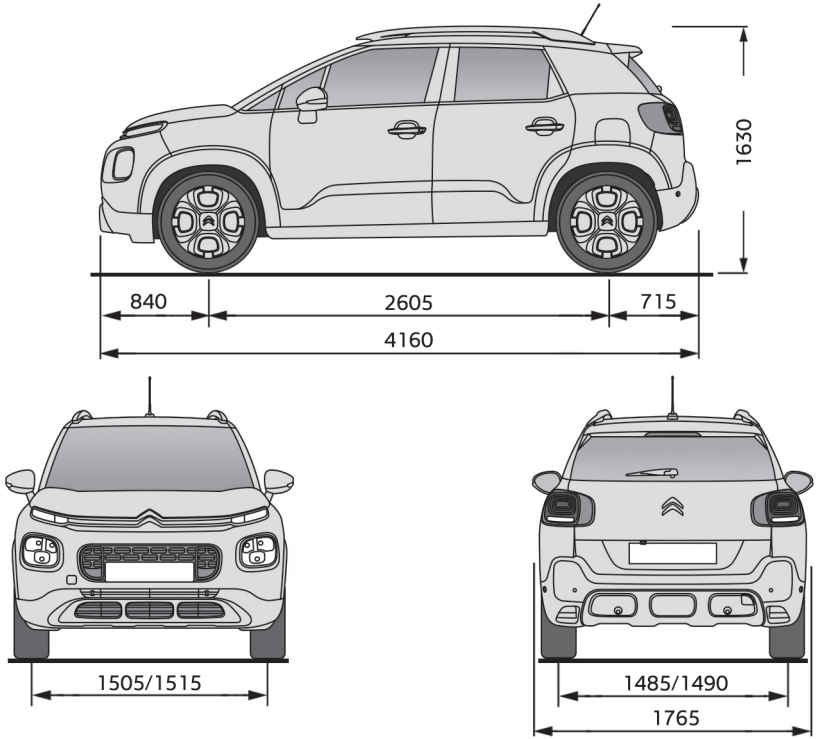
注 意

●タイヤのサイズによっては、タイヤチェーンが装着できません。詳しくはシトロエン販売店へお問い合わせください。
●タイヤの空気圧は、走行前少なくとも月一回の割合でチェックしてください。必ずシトロエンが指定する空気圧に調整してください。

MEMO

タイヤの空気圧が低すぎると、燃費が悪くなります。

●外形寸法

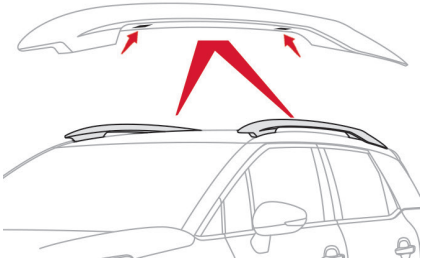


*数値は予告なく変更されることがあります。

アクセサリー類

アクセサリー類は、シトロエン純正部品を使用してください。取り付けは、付属の取扱説明書に従ってください。

●ルーフキャリア



キャリアを取り付けるときは、ルーフレールのマークに合わせて取り付けてください。

⚠警 告

- ●ルーフキャリアはシトロエン純正品をキャリアに付属の取扱説明書に従って正確に取り付けてください。
- ●シトロエン純正以外のルーフキャリアを使用したり、指示通りに取り付けなかったりした場合、ルーフキャリアや荷物が落下し、事故やケガにつながるおそれがあります。
- ●荷物の固定には、細すぎたり、損傷したひもや不適切なひもは使用しないでください。荷物を固定する際には、適切なひもを使用し、しっかりと固定してください。
- ●ルーフキャリアに荷物を積む際には、キャリアに付属の取扱説明書に記載されているルーフキャリア許容荷重を超えないようにしてください。
- ●ルーフに重たい荷物や大きな荷物を積んでいると、車両の重心が変わったり風の抵抗が大きくなり走行に影響を与えます。速度を控えたり、急ブレーキ、急ハンドルを避けるなど慎重な運転を心がけてください。

* 仕様により異なります。

⚠注 意

●キャリアの高さには注意してください。特に高速走行を行うと、予想以上に負荷がかかるので思わぬトラブルの原因となることがあります。
●荷物を積むときは、ルーフレールに直接荷物を積んだり、ロープで固定せず、キャリアを使用してください。

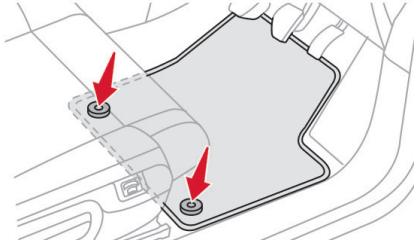
注 意

ルーフキャリアの荷物などがパノラミックサンルーフの動きを妨げないように注意してください。*

MEMO

使用しないときはルーフキャリアを取りはずしてください。

●フロアマット *



取り付けるときは、フロアマットを正しい位置に合わせ、クリップで留めてください。フロアマットがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠警 告

●車両側に装備されている固定フックに適したフロアマットのみ使用してください。また、2枚以上のフロアマットを重ねて使用しないでください。ペダル操作の妨げになります。
●シトロエン未指定のフロアマットの使用は、ペダル操作の妨げになるだけでなく、クルーズコントロール／スピードリミッター機能の使用の妨げにもなり、重大な事故につながるおそれがあります。

数字
12V電源ソケット ····· 5-23
2ポジションラゲッジフロアボード ····· 5-19

アルファベット
ABS（アンチロックブレーキシステム）····· 3-19
ASR（トラクションコントロールシステム）···· 3-19
DSC(ダイナミックスタビリティコントロール) ··· 3-19
EBA（ブレーキアシスト)····· 3-19
ENGINE START/STOPスイッチ ····· 9、3-2
ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール)··· 3-19
i-Sizeチャイルドシート ····· 1-22
ISOFIXチャイルドシート····· 1-19、1-23
USBポート ····· 5-23

あ
アクセサリー類·····8-4
アクティブセーフティブレーキ····· 3-30
アームレスト·····5-26、5-27
アンビエンスイルミネーション····· 5-21
イモビライザー（盗難防止システム)·····2-8
インストルメントパネル·····4-2
インストルメントパネルの調整（明るさ調整)··· 4-20
インテリジェントエマージェンシーブレーキアシスト ··· 3-33
インテリジェントハイビーム····· 4-23
ウィンドウウォッシャー·····4-32、6-3、6-5
エアコンディショナー(エアコン) ··· 15、5-2、5-3、5-5
エアバッグ····· 1-24
エアバッグの作動条件····· 1-27
エアフィルター·····6-3、6-5、6-13、6-14
エクステリアウェルカムランプ····· 4-27
エクステリアサイドランプ····· 4-28
エコノミーモード····· 7-18
エマージェンシーブレーキ····· 3-32
エンジンオイル····· 6-3、6-14
エンジンオイルの点検·····6-4
エンジンの始動····· 9、3-2
エンジンブレーキ·····3-8
エンジン油量インジケーター····· 4-16
エンジンルームの点検·····6-3
オイル交換·····6-4
オートドアロック····· 2-11

オートマチックトランスミッション……11、3-6
オートライト……4-22
オートワイパー……4-31
オドメーター……4-19

か
カーテンエアバッグ……1-25
外形寸法……8-3
間接式タイヤ空気圧警告……3-59
キックダウン……3-8
給油……8、2-22
緊急用キー……2-10
クリープ現象……3-7
グリップコントロール……3-12
クルーズコントロール……11、3-38
グローブボックス……5-22
警告灯……4-5
けん引されるとき……7-19
工具……7-2、7-8
固定リング……5-17
コーナリングライト……4-26

さ
サービスインジケーター……4-17
サイドエアバッグ……1-25
サンシェード……5-26
シートの調整……1-2
シートヒーター……1-5
シートベルト……7、1-11
シートベルト着用／非着用ディスプレイ……13、1-13
識別表示……8-2
自動防眩バックミラー……6、1-7
シフトゲート……3-6
シフトタイミングインジケーター……3-10
シフトポジション……3-6
シフトレバー……3-6
シフトロック……3-8
ジャッキと工具……7-2
使用燃料について……1-29
触媒コンバーター……1-32
助手席エアバッグキャンセルスイッチ……13、1-26
推奨交換時期……6-14

推奨点検時期……6-15
推奨油脂類……6-14
ステアリング……6、3-4
ストップ&スタート……12、3-16
スノーチェーン／スノーネット……1-30
スーパードアロック……2-4
スポーツモード……3-7
スピードリミッター……11、3-41
スピードリミットインフォメーション……11、3-35
スペアタイヤ……7-3
スマートキー……4、2-2

た

タイヤの交換……7-2
タイヤの点検……1-29
タイヤ空気圧……1-29、8-2
タッチスクリーン……14、5-10
チャイルドセーフティ……2-16
チャイルドシート……1-15
着座検知……1-13
駐車時照明機能（フォローミーホーム）…2-5、4-27
チケットホルダー……5-26
チルト・テレスコピックステアリング……6、3-4
デイタイムランニングランプ……4-22
ディスタンスアラート……3-31
テールゲート……2-13
テールランプの交換……6-9
電球の交換……6-6
電池の交換（スマートキー）……2-6
電動ドアミラー……6、1-6
ドアロック……2-10
冬季用タイヤ……1-30
ドライバーアテンションアラート……3-27
ドライブコンピューター……4-34
トリップメーター……4-19

な

燃料……1-29
燃料タンクの容量……8、2-22

索 引

は

パーキングブレーキ……3-5
パークアシスト……3-51
ハザードランプ……4-29
バックカメラ……3-47
バックミラー……6、1-7
パッシング……4-21
バッテリー……6-3、6-5
バッテリーが上がったとき……7-15
パノラミックサンルーフ……2-17
パワーウィンドウ……7、2-14
パワーウィンドウの初期化……2-15
パンク修理キット……7-8
番号灯の交換……6-11
半ドア警告……2-10
ヒューズの交換……6-12
表示灯……4-5
ヒルスタートアシスタンス……3-11
ヒルディセントコントロール……3-14
フォグランプ……4-21
フュエルリッド……8、2-22
プライバシー機能……5-15、5-16
ブラインドスポットモニター……3-22
ブレーキ……3-5
ブレーキアシスト（EBA）……3-19
ブレーキフルード……6-3、6-5、6-14
フロアマット……8-5
フロント／バックソナー……3-44
フロントアームレスト……5-26
フロントエアバッグ……1-24
フロントシート……4、1-2
フロントシートベルト……1-11
フロントフォグランプ……4-21
フロントワイパー……4-30
ヘッドランプの交換……6-6
ヘッドランプ照射角度調整……4-28
ヘッドレスト……7、1-3、1-8
保安炎筒……1-31
ホイールの交換……7-2
方向指示器……10、4-28
ホーン……3-5
ボンネット……8、2-21

ま

マニュアルチェック……4-20
マニュアルロック……2-11
マップランプ……5-20
ミラー……6、1-6

ら

ライトスイッチ……10、4-21
ラゲッジルーム……5-17
ラゲッジルームランプ……5-21
リアアームレスト……5-27
リアウィンドウキャンセルスイッチ……7、2-15
リアシート……1-8
リアシートベルト……1-12
リアパーセルシェルフ……5-17
リアフォグランプ……10、4-21
リアヘッドレスト……1-8
リアワイパー……4-30
リモコン……2-2
ルーフキャリア……8-4
ルームランプ……5-20
レーンデパーチャーウォーニング……3-25
冷却水温度計……4-15
冷却水の点検……6-3、6-4

わ

ワイパー……10、4-30
ワイパーブレードの交換……4-33
ワイヤレス充電器……5-24

MEMO

- ●接続するオーディオ機器によっては動作が異なる場合があります。
- ●このオーディオには盗難防止機能が付いています。他の車両では使用できません。
- ●利用可能な Bluetooth の機能、およびその表示内容は、携帯電話の種類とその設定、および契約内容によって異なります。詳細はお客様がお使いの携帯電話会社へお問い合わせください。
- ●Bluetooth® は Bluetooth SIG, Inc. の商標です。
- ●Apple、iPhone、Apple CarPlay、および Siri は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ●iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- ●Android Auto は、Google LLC. の商標です。
- ●MirrorLink® は Car Connectivity Consortium LLC. の商標です。
- ●タッチスクリーンのシステムのバージョンアップやオプションのナビゲーションの接続によって、操作や表示、アイコンのデザイン、色などが変更されることがあります。

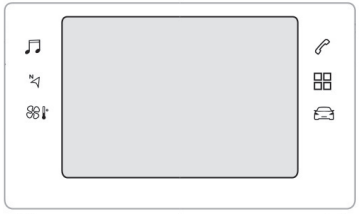
オーディオ／ハンズフリー通話（タッチスクリーン）

基本操作……8-14
ラジオ……8-16
USB／Bluetooth……8-18
画像ファイルの表示……8-20
ハンズフリー通話……8-21
通話をする……8-22
Apple CarPlay ……8-27
Android Auto ……8-28
プロファイルの設定……8-29
FAQ（よくある質問）……8-31

⚠警 告

安全上の理由から、各種設定など複雑な操作は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

基本操作



オーディオの操作はタッチスクリーンから行います。

アイコンにタッチすると、ラジオや USB メディアの再生・設定画面に移動します。

●各画面共通のアイコン

各画面では、以下のようなアイコンが表示されます。

← 前のページに戻ります。

OK 設定を有効にします。

詳細設定画面を表示します。

MEMO

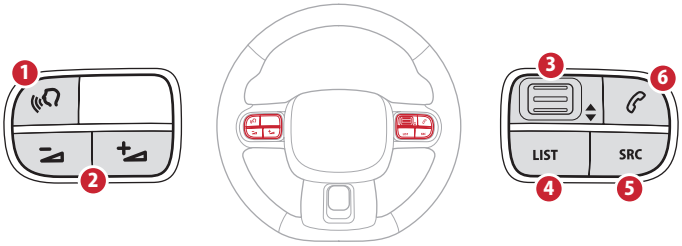
タッチスクリーンのグレーアウトされたエリアにタッチすると前のページに戻ります。

●音量の操作

音量の操作は音量調整ツマミで行います。

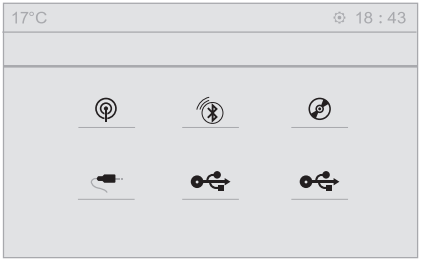
音量調整ツマミを押すと、音量のオン／オフが行えます。音量がオフの間は、USB などの再生メディアは停止しています。

●ステアリングスイッチ



①：音声認識機能起動ボタン
　接続する携帯電話などの音声認識機能を使用して電話を発信します。
②：音量調整ボタン
　ボリュームが増減します。
　＋と－のボタンを同時に押すと音量のオン／オフができます。
③：設定ダイヤル
　登録したラジオ放送局やメディアのトラック選択に使用します。または、ダイヤルを回して設定項目を選択します。押し込むと、設定項目を決定できます。
④：**LIST** ボタン
　音楽の再生リストやラジオの放送局リストなどを表示します。
⑤：**SRC** ボタン
　入力ソースを切り替えます。
⑥：**TEL** ボタン
　発着信履歴や連絡先などの表示、ハンズフリー通話の受話および終話などに使用します。

●入力ソースの切り替え



1.  アイコンにタッチします。
2. **ソース**にタッチします。
3. 入力ソースにタッチします。

MEMO

入力ソースの切り替えは、ステアリングの**SRC**ボタンを押しても行えます。

ラジオ

●ラジオモードへの切り替え

1.  アイコンにタッチします。
2. **ソース**にタッチします。
3. **ラジオ**を選択します。



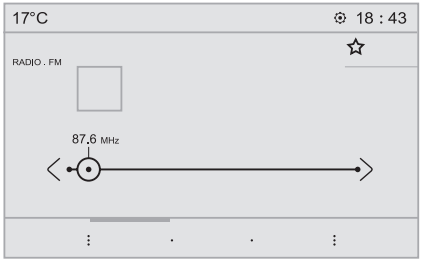
入力ソースの切り替えは、ステアリングの**SRC**ボタンを押しても行えます。

●FM ／ AM の切り替え

1.  アイコンにタッチします。
2. **オプション**にタッチします。
3. 

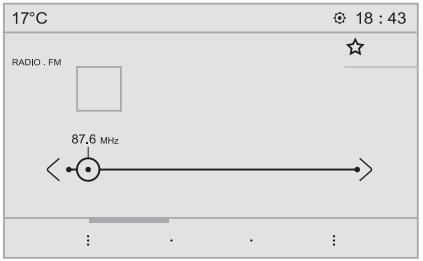
にタッチして AM または FM ラジオを選択します。

●手動サーチ



タッチスクリーンのカーソルを左右に動かすと受信周波数が変わります。
またはカーソルの上の現在受信している放送局周波数にタッチし、タッチスクリーンから周波数を入力して **OK** にタッチします。

●自動サーチ



タッチスクリーンのカーソルの端にある＜または＞にタッチすると、自動サーチが開始され、受信可能な放送局が見つかったところで止まります。



自動サーチで合わせたい放送局に止まらない場合は、電波状況が弱いなどが考えられます。手動サーチで放送局を設定してください。

●プリセットへの登録

自動サーチまたは手動サーチでサーチした放送局を各プリセットに登録します。

1. **プリセット**にタッチします。
2.  に長くタッチします。

MEMO

●☆にタッチしてもプリセットへの登録ができます。プリセット済みの放送局はアイコンが黒色で表示されます。
●☆に長くタッチし、**Yes** にタッチするとプリセットへの登録を解除できます。

●登録した放送局の呼び出し

1. **プリセット**にタッチします。
2. 呼び出したいプリセット番号にタッチします。

MEMO

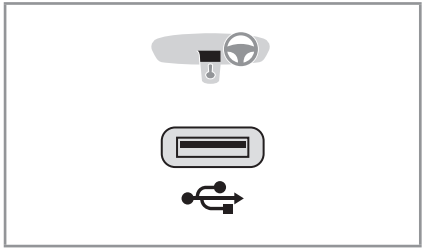
ステアリングの設定ダイヤルを上下に回しても登録した放送局の呼び出しができます。

●受信可能放送局リスト

タッチスクリーンの**リスト**にタッチするか、ステアリングの **LIST** ボタンを押すと受信できる放送局のリストが表示されます。
リスト中の放送局を選択するには、タッチスクリーンの放送局リストにタッチするか、ステアリングの設定ダイヤルで放送局を選択して、押し込みます。

USB ／ Bluetooth

●USB ポートへの接続



まず、センターコンソールの USB ポートにオーディオ機器や音楽ファイルが記録された USB メモリを接続します。

●Bluetooth 接続

Bluetooth での接続を行うには、機器のペアリング／接続をします。手順は、「電話機との接続（ペアリング）」の項を参照してください。

●USB ／ Bluetooth モードへの切り替え

1.  アイコンにタッチします。
2. **ソース**にタッチします。
3. 入力ソースにタッチして選択します。

MEMO

入力ソースの切り替えは、ステアリングの **SRC** ボタンを押しても行えます。

MEMO

- ●接続するオーディオ機器の仕様により認識できないことがあります。
- ●認識可能なファイルフォーマットは WAV、WMA（9のみ）、AAC、OGG、MP3です。
  接続するオーディオ機器の仕様により再生できないことがあります。
- ●再生可能な MP3のサンプリング周波数は32kHz 以上です。
- ●ファイル名などの表示できる文字数や種類には制限があります。
- ●USB ポートに、オーディオ機器以外の USB 装置やハードディスクなどを接続しないでください。オーディオが故障するおそれがあります。
- ●ストリーミング再生は電話機の機能に依存します。
- ●音質は、電話機からの送信品質によって決まります。
- ●オーディオファイルの再生・停止などは、電話機で操作しなければならない場合があります。
- ●接続に必要なケーブルは付属していません。

●再生と停止
メディアを接続すると自動的に再生が始まります。
再生と停止は、タッチスクリーンの**プレーヤー**にタッチし、画面の再生／停止のアイコンにタッチして行います。音量調整ツマミを押すか、＋と－の音量調整ボタンを同時に押しても再生と停止ができます。

●選曲
ステアリングの設定ダイヤルを回すか、タッチスクリーンの**プレーヤー**にタッチし、＜または＞にタッチすると前後の曲に変わります。
タッチスクリーンの＜または＞に長くタッチすると巻き戻し／早送りできます。

●再生リストの表示
再生リストは以下の手順で表示させます。

1. ステアリングの **LIST** ボタンを押します。
2. ステアリングの設定ダイヤルを回してフォルダまたは曲を選択します。
3. ステアリングの設定ダイヤルを押し込んで決定します。

MEMO

●再生リストはタッチスクリーンの**セレクション**や**ライブラリ**にタッチしても表示させることができます。
●接続するオーディオ機器の仕様により、ステアリングの **LIST** ボタンで再生リストを表示できない場合があります。

●再生オプション
以下の再生オプションを設定できます。
・ランダム再生
・リピート再生

1.  アイコンにタッチします。
2. **オプション**にタッチして再生オプションを表示させます。

●オーディオの設定
再生時の音質などのオーディオの設定を行うことができます。

1.  アイコンにタッチします。
2. **オプション**にタッチします。
3.  にタッチしてオーディオの設定画面を表示させます。

●オーディオの設定項目一覧

項目名	説明
トーン	プリセットから音質を選択できます。ユーザー設定を選択した場合は、任意の音質に設定できます。
バランス	リスニングポジションに合わせた前後左右の音量バランスを調整します。
サウンド	操作音の音量や、車速感応式自動音量補正機能を設定します。
呼出音（着信音）	着信音量を設定します。



接続する機器の仕様により**呼出音（着信音）**の設定ができないことがあります。

●ナビ／ TV のレベル調整 *
ナビやテレビの音量は、音量調整ツマミで調整します。

画像ファイルの表示

1.  アイコンにタッチします。
2.  にタッチします。
3. 表示したい画像が格納されているフォルダにタッチします。
4. 画像にタッチして表示させます。

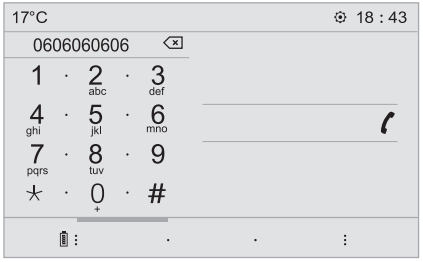


●表示できるファイルは、tiff、gif、jpeg、bmp、png です。
接続する機器の仕様により表示できないことがあります。
●動画の再生はできません。
●同じ画面に表示される **SMS** のアイコンは日本国内では使用できません。

* 仕様により異なります。

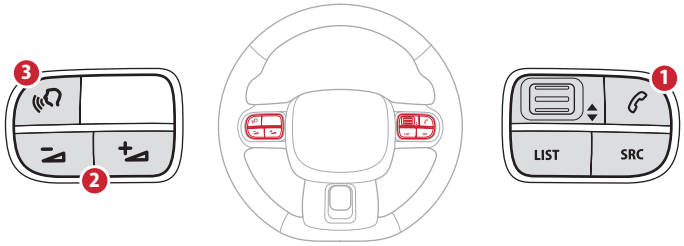
ハンズフリー通話

●ハンズフリーの通話・設定画面への移動



アイコンにタッチして、ハンズフリーの通話・設定画面に移動します。

●ステアリングスイッチ



①：**TEL** ボタン
着信があった場合に、短く押すと着信を受け付けます。長く押すと着信を拒否できます。
通話中に短く押すと、メニュー（**終話**、**保留**、**リダイヤル**、**マイク OFF**）を表示します。
通話中でないときに短く押すと、メニュー（**連絡先**、**発着信履歴**）を表示します。

②：音量調整ボタン
通話音量を調整できます。

③：音声認識機能起動ボタン
接続する携帯電話などの音声認識機能を使用して電話を発信します。

通話をする

●電話機との接続（ペアリング）

1. 電話機の Bluetooth 機能をオンにして、外部から検索可能な状態に設定します（電話機の説明書を参照）。
2.  アイコンにタッチします。
3. **TEL** にタッチします。
4.  にタッチします。
5.  にタッチして Bluetooth 機器の検索を行います。
6. リストから接続したい電話機を選択します。
7. タッチスクリーンと電話機に表示されたペアリングコードを確認し、タッチスクリーンの **Yes** にタッチします。電話機側でも同様に操作します。ペアリングに失敗した場合は、イグニッションを OFF にしたり、電話機の電源を OFF にするなどして、再度接続を試みてください。

MEMO

●初回接続時は、にタッチした後、にタッチして Bluetooth機器の検索を開始します。
●電話機名の代わりに電話機の機種名が表示される場合があります。
●画面に表示される MirrorLink® は、日本仕様車では使用できません。

⚠警 告

安全上の理由から、Bluetooth ハンズフリーシステムのペアリングは、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

MEMO

●電話機として一度に接続できる機器は1台だけです。
●利用できる機能はネットワーク、SIM カード、および使用する電話機の仕様（互換性）により異なります。
●エンジンを始動する度に自動再接続を可能にするには、電話機側での設定が必要な場合があります。
●ペアリングは、電話機から Bluetooth デバイスを検索して開始することもできます。

●電話をかける

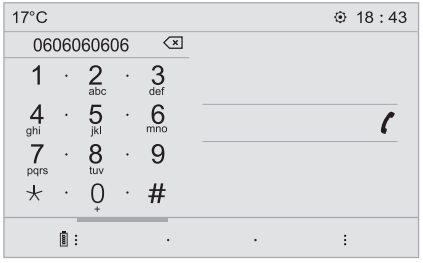
⚠警 告

安全のため、車両を停止してから発信してください。

発信

1. アイコンにタッチします。

2. **キーパッド**にタッチして、タッチスクリーンから電話番号を入力します。



3. **発信**にタッチして発信を開始します。

発着信履歴からの発信

1. アイコンにタッチします。

2. **発着信履歴**にタッチします。

3. リストにタッチして発信を開始します。

MEMO

- ●発着信履歴は、ステアリングの **TEL** ボタンを短く押し、ステアリングの設定ダイヤルで選択して表示することもできます。
- ●発着信履歴には、接続した電話機により車両経由で行った発信と受信が含まれています。
- ●電話機により、発着信履歴からの発信ができない場合があります。

連絡先からの発信

1. アイコンにタッチします。

2. **連絡先**にタッチします。

3. リストにタッチします。

4. 表示された電話番号にタッチして発信を開始します。

MEMO

連絡先は、ステアリングの **TEL** ボタンを短く押し、ステアリングの設定ダイヤルで選択して表示することもできます。

音声認識機能を使用した発信

1. 音声認識機能起動ボタン、またはライトスイッチレバー先端のスイッチを押します。
2. 「○○○に電話」などと話します。

MEMO

あらかじめスマートフォンの音声認識機能をオンにしてから操作してください。

●電話を受ける

1. 受信通話があると、着信音が鳴り、タッチスクリーンに表示されます。
2. ステアリングの **TEL** ボタンを短く押すか、タッチスクリーンの✆にタッチして通話を受けます。

MEMO

- ●着信を拒否するには、タッチスクリーンの⏤にタッチするか、ステアリングの **TEL** ボタンを長く押します。
- ●着信を保留にするには、タッチスクリーンの⏸にタッチします。
- ●受話後、**プライベート通話**にタッチすると、ハンズフリー通話から電話機での通話に切り替わります。
- ●受話後、**マイク OFF** にタッチすると、通話相手に自分の声が聞こえなくなります。

●電話を切る

電話を切るには、タッチスクリーンの**終話**にタッチする、ステアリングの **TEL** ボタンを長く押す、またはステアリングの **TEL** ボタンを短く押し、ステアリングの設定ダイヤルを回して**終話**を選択して、押し込みます。

●着信音量の設定

1.  アイコンにタッチします。
2. **オプション**にタッチします。
3.  にタッチします。
4. カーソルを左右に動かして着信音量を調整します。

MEMO

接続する機器の仕様により着信音量の設定ができないことがあります。

●連絡先の並べ替え

連絡先を苗字または名前で並べ替えできます。

1.  アイコンにタッチします。
2. **オプション**にタッチします。
3.  にタッチして苗字または名前で並べ替えます。

MEMO

日本語はひらがな、またはカタカナで登録された連絡先のみ並べ替えできます。

●連絡先の検索

タッチスクリーンで名前を入力して連絡先の検索ができます。

1.  アイコンにタッチします。
2. **連絡先**にタッチします。
3.  にタッチします。
4. タッチスクリーンから検索したい連絡先の名前を入入力します。
5. 表示された連絡先候補の中から連絡先を選択します。

MEMO

●日本語はひらがな、またはカタカナで登録された連絡先のみ検索できます。
●  にタッチすると、アルファベットで登録された連絡先の検索ができます。

●応答の保留の設定

着信をしたら自動的に保留に切り替わる設定ができます。

1.  アイコンにタッチします。
2. **オプション**にタッチします。
3.  にタッチして応答の保留をオンにします。

●接続設定の変更

Bluetooth による電話機との接続には、ハンズフリー接続およびオーディオ接続が含まれます。通常はどちらの機能も自動的に接続されます。

MEMO

電話機によっては、どちらか 1 つの接続しかできない場合があります。

1.  アイコンにタッチします。
2. **TEL** にタッチします。
3.  にタッチして Bluetooth 機器のリストを表示します。
4.  接続設定を変更したい Bluetooth 機器のアイコンにタッチします。
5. ボックスにチェックをしてプロファイルを選択します。
6. **OK** にタッチします。

●電話機との接続（ペアリング）を切断する

1.  アイコンにタッチします。
2. **TEL** にタッチします。
3.  にタッチして Bluetooth 機器のリストを表示します。
4. Bluetooth 機器のリストにタッチして接続を切断します。再度タッチすると、接続が再開されます。

●電話機との接続（ペアリング）を削除する

1.  アイコンにタッチします。
2. **TEL** にタッチします。
3.  にタッチして Bluetooth 機器のリストを表示します。
4.  Bluetooth 機器のリスト右上のアイコンにタッチします。
5.  接続を削除したい Bluetooth 機器のアイコンにタッチします。
6. **Yes** にタッチして接続を削除します。

* 仕様により異なります。

Apple CarPlay

Apple CarPlay に対応した iPhone は、USB で接続して iPhone のアプリをタッチスクリーンに表示することができます。

⚠警 告

安全上の理由から、Apple CarPlay の操作は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

●USB で接続する

iPhone をセンターコンソールの USB ポートに接続します。Apple CarPlay に対応したアプリが表示されます。

MEMO

- ●iPhone を接続する前にあらかじめ iPhone の Siri 機能をオンにしてください。
- ●USB で接続した後、タッチスクリーンの他のメニューを表示している状態から Apple CarPlay の画面を表示するには、にタッチしてください。
- ●USB で接続した後、にタッチすると Apple CarPlay のナビゲーションが表示されます。*
- ●プライバシー機能のメッセージが表示されたら **OK** にタッチしてから再接続してください。

●Siri を起動する

Apple CarPlay は Siri による音声操作が可能です。ステアリングの音声認識機能起動ボタンを押す、またはライトスイッチレバー先端のスイッチを押すと Siri を起動できます（Siri が搭載された iPhone を接続している場合のみ）。

MEMO

- ●接続する iPhone の仕様により認識できないことがあります。
- ●接続に必要なケーブルは付属していません。
- ●Apple CarPlay を使用するには、Apple CarPlay 対応の iPhone とアプリが必要です。
- ●Apple CarPlay の使用中は、Bluetooth の接続ができません。
- ●iPhone で Apple CarPlay の機能を制限している場合は、制限を解除してください。
- ●Apple CarPlay の使用にはパケット通信料がかかります。

Android Auto

Android Auto に対応したスマートフォンは、USB で接続してスマートフォンのアプリをタッチスクリーンに表示することができます。

⚠警 告

安全上の理由から、Android Auto の操作は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

●USB で接続する

1. スマートフォンをセンターコンソールの USB ポートに接続します。
2. スマートフォンおよびタッチスクリーンにメッセージが表示されることがあります。メッセージに従い操作します。Android Auto に対応したアプリが表示されます。

MEMO

- ●スマートフォンがロックされている場合は、ロックを解除してから再接続してください。
- ●USB で接続した後、タッチスクリーンの他のメニューを表示している状態から Android Auto の画面を表示するには、🔗にタッチしてください。
- ●USB で接続した後、🔗にタッチすると Android Auto のナビゲーションが表示されます。*
- ●プライバシー機能のメッセージが表示されたら **OK** にタッチしてから再接続してください。

●音声認識機能を起動する

Android Auto の音声認識機能を使用するには、ステアリングの音声認識機能起動ボタン、またはライトスイッチレバー先端のスイッチを押します。

MEMO

- ●スマートフォンをUSBで接続し、Android Autoの設定を完了すると、スマートフォンが自動的にBluetooth接続されます。
- ●走行中は Android Auto の動作が制限される場合があります。
- ●接続するスマートフォンの仕様により認識できないことがあります。
- ●接続に必要なケーブルは付属していません。
- ●Android Auto を使用するには、Android Auto 対応のスマートフォンとアプリが必要です。
- ●Android Auto の使用にはパケット通信料がかかります。

* 仕様により異なります。

プロファイルの設定

タッチスクリーンの設定を、個別のプロファイルとして3つまで、または1つの共有プロファイルとして記憶できます。プロファイルには、アンビエンス（カラー）などの設定を記憶できます。

●プロファイルを設定する

1.  タッチスクリーンの画面上部にあるアイコンにタッチします。
2.  にタッチします。
3. 設定したいプロファイルに合わせてタッチスクリーンの**プロファイル 1**、**プロファイル 2**、**プロファイル 3**、または**共有プロファイル**にタッチします。
4.  にタッチします。
5. タッチスクリーンからプロファイルの名前を入力します。
6. **OK** にタッチして入力内容を保存します。
7.  にタッチしてプロファイルをオンにします。

MEMO

共有プロファイルは名前の設定はできません。

●プロファイルの呼び出し

1.  タッチスクリーンの画面上部にあるアイコンにタッチします。
2.  にタッチします。
3. 呼び出したいプロファイルに合わせてタッチスクリーンの**プロファイル 1**、**プロファイル 2**、**プロファイル 3**、または**共有プロファイル**にタッチします。
4.  にタッチします。

●プロファイルの初期化

1.  タッチスクリーンの画面上部にあるアイコンにタッチします。
2.  にタッチします。
3. 初期化したいプロファイルに合わせてタッチスクリーンの**プロファイル 1**、**プロファイル 2**、**プロファイル 3**、または**共有プロファイル**にタッチします。
4.  にタッチします。
5. 00.0 にタッチします。
6. **Yes** にタッチします。プロファイルが初期化されます。

⚠警 告

安全上の理由から、プロファイルの設定は、車両を停止し、イグニッションを ON にした状態で実施してください。

FAQ（よくある質問）

ナビゲーション（地図／設定）の操作については、別冊の取扱説明書をお読みください。

質問	回答	対応方法
ラジオの受信感度が徐々に悪くなり、記憶させた放送局が表示されず、すべて同じ周波数が表示されてしまいます。	周囲に放送局がなく、電波を受信することができません。	その場所から移動してください。
	周囲に電波を遮るものがあり、電波を受信することができません。	
	アンテナが故障しています。	シトロエン指定サービス工場にお問い合わせください。
プリセット設定を選択した後、低音・中·高音の個別設定を行うと、プリセット設定がユーザー設定になってしまいます。	プリセット設定と低音・中・高音の個別設定は同時に行えません。	どちらか片方で音質の調整を行ってください。
USB メモリを接続してから、長い時間反応がありません。	USB メモリを最初に接続すると、メディアに含まれる曲名やアーティスト名を読み込むために少し時間がかかります。	
USB メモリの音楽の再生に時間がかかっています。	音楽ファイル以外のファイルの読み込みには、時間がかかることがあります。	該当のファイルを削除してください。また、ディレクトリの階層を浅くしてください。
自動再生が始まりません。	一部の機器は自動再生に対応していません。	機器の側で再生を行ってください。
ラジオや USB などの入力ソースによって音質が異なります。	ボリュームや低音・中・高音などの音質設定は、入力ソースごとに保存されています。	入力ソースごとに最適な設定を行ってください。
エンジンを切っても、しばらくの間オーディオが動作しています。	エンジンを切ってもしばらく動作しますが、走行直後は最大40分で自動的に電源が切れます。	引き続きオーディオを使用したい場合は、エンジンをかけてください。

質問	回答	対応方法
Bluetooth で電話機を接続できません。	電話機の Bluetooth 機能がオフになっているか検索可能な状態になっていません。	Bluetooth 機能を ON にしてください。または、検索可能な状態にしてください。
Bluetooth で接続した電話機の音量が小さくて聞き取れません。	受話音量はオーディオ本体と電話機の両方で調節できます。	電話機の音量を上げる、または、オーディオの音量を上げてください。
電話帳に同じ宛先が複数載っています。	SIM カードと電話機本体の両方に同じ宛先が載っています。	SIM カードまたは電話機本体の電話帳のみを表示させてください。
電話帳の並び順がアルファベット順になっていません。	電話機での並び順設定が優先されています。	電話機側で並び順を変更してください。
Apple CarPlay 、Android Auto を使用できません。	接続に使用しているケーブルによっては Apple CarPlay 、Android Auto が有効になりません。	ご使用のスマートフォンに付属のケーブルを使用して接続してください。
SMS（ショートメールなど）が受信できません。	SMS（ショートメールなど）の送受信には対応していません。	
曲名や曲の時間が表示されません。	電話機の種類によっては、表示されないことがあります。	
Bluetooth 接続した iPhone を USB ポートにも同時に接続しましたが、音楽ファイルを再生できません。	iPhone を電話機としてハンズフリー接続した場合、自動的にストリーミング機能が優先して USB 再生はできません。	一度 USB ケーブルをはずして再度接続することで、USB 再生が優先されるようになります。
再生中の音楽の曲名などが正しく表示されません。	バージョンにより表示されない場合があります。	別の文字を使用してタイトルやフォルダ名を変更してください。

この取扱説明書は、お車のオーナーが最良の状態で車を使用し、維持できるように作成されています。

装備の解説は、このモデルの最上級仕様にもとづいています。

個々のお車においては、販売国の仕様によって、掲載されている装備のいくつかが該当しない場合があります。

テクニカルデータ、仕様、アクセサリーについては予告なく変更される場合があります。

取扱説明書内のイラストは、正確な描写を目的に作成されておりませんので、実車と一致しない場合があります。

オートモビル・シトロエン社の文書による許可を受けていない、この取扱説明書に掲載されている写真、イラスト、文章の一部または全部の転載、複写を禁止します。

編集発行　**Stellantis** ジャパン株式会社　2022/05

PMOM - C3A22J



https://www.citroen.jp/